

2. 「野洲市 人権問題・男女共同参画に関する市民意識調査」 （令和元年（2019年）10月実施）の結果概要

➤ 調査の概要

1. 調査目的

野洲市では2016年3月に「第3次野洲市人権施策基本計画」を策定し、年齢、性別、障がい、国籍、出自などに関わらず、お互いの人権を尊重し、支え合ってくらす共生社会をめざして人権教育・啓発活動に取り組んできました。

また、性別に関係なくひとが持てる能力を十分に発揮し、互いの人権を尊重し合い、社会のあらゆる分野へ公平に参画し、ともに責任を担える男女共同参画社会を実現するため、2016年3月に「第3次野洲市男女共同参画行動計画」を策定して取り組みを進めているところです。

このアンケートは、第4次計画の策定に向け、意識や実態、課題等を把握し、今後の取り組みの重要な基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査方法

(1) 調査対象地域	野洲市全域
(2) 調査対象者	野洲市の住民基本台帳から20歳以上の男女を無作為抽出
(3) 標本数	1,000人（女性500人、男性500人）
(4) 調査方法	郵送による自記式アンケート調査
(5) 調査期間	令和元年10月16日～11月22日
(6) 実施機関	野洲市総務部人権施策推進課

3. 回収結果

(1) 配布数	1,000通
(2) 有効回収数	355通
(3) 有効回収率	35.5%

4. 調査データの表示

- (1) 百分率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示しています。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の占める数値が一致しないことがあります。
- (2) 比率は、特に断りがない限り、すべて各設問の無回答、不明を含む集計対象総数（枝設問では、設問該当対象者数）に対して百分率（％）で表しています。
- (3) 階層集計の百分率（％）は、すべて各階層毎の該当対象者数を100としています。
- (4) 性別、年齢別、性別・年齢別と全体との比較や各階層間での比較で特徴的な傾向が見られた場合は、グラフ又は文章で表現しています。
- (5) 性別又は年齢が不明の場合や無回答の場合は、階層別の集計には含んでいません。

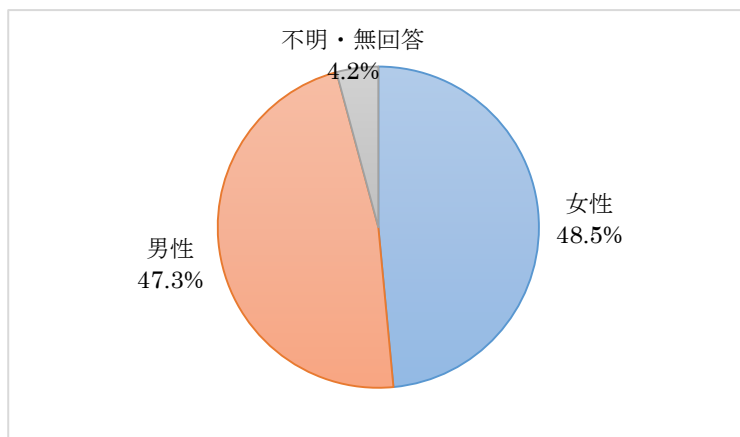
5. 標本構成（回答者プロフィール）

(1) 性別構成

表【性別構成】

	実数(人)	構成比
女性	172	48.5%
男性	168	47.3%
不明・無回答	15	4.2%
合計	355	100.0%

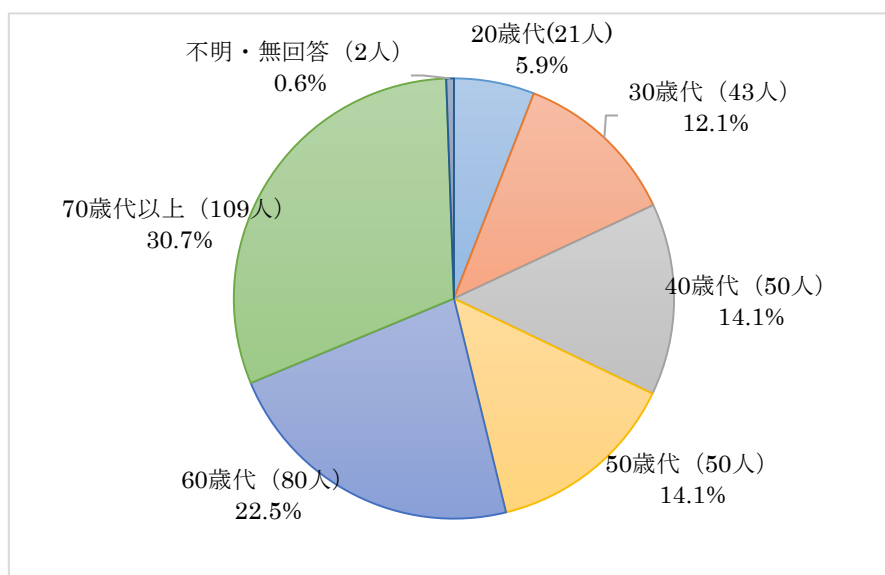
図【性別構成】



◆回答者における性別構成をみると、女性が48.5%（172人）、男性が47.3%（168人）、不明・無回答が4.2%（15人）となっており、回答者はやや女性の比率が多くなっている。

(2) 年齢別構成

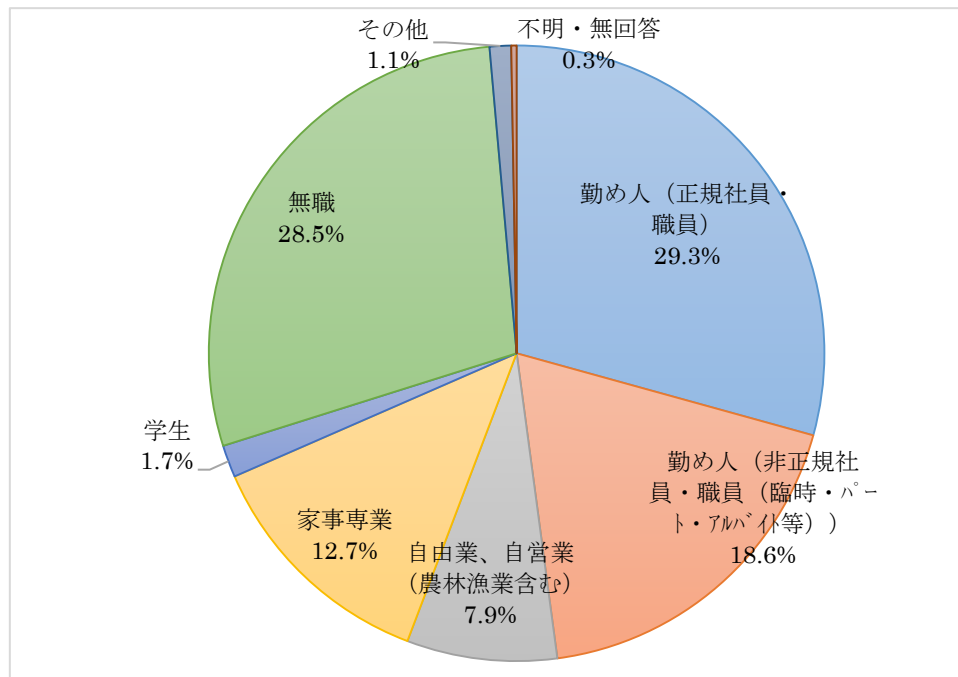
図【年代別構成】



◆回答者における年齢別構成をみると、70歳代以上が30.7%と最も多く、次いで60歳代が22.5%となっている。30～50歳代は12～14%前後となっているが、20歳代は5.9%と低くなっている。

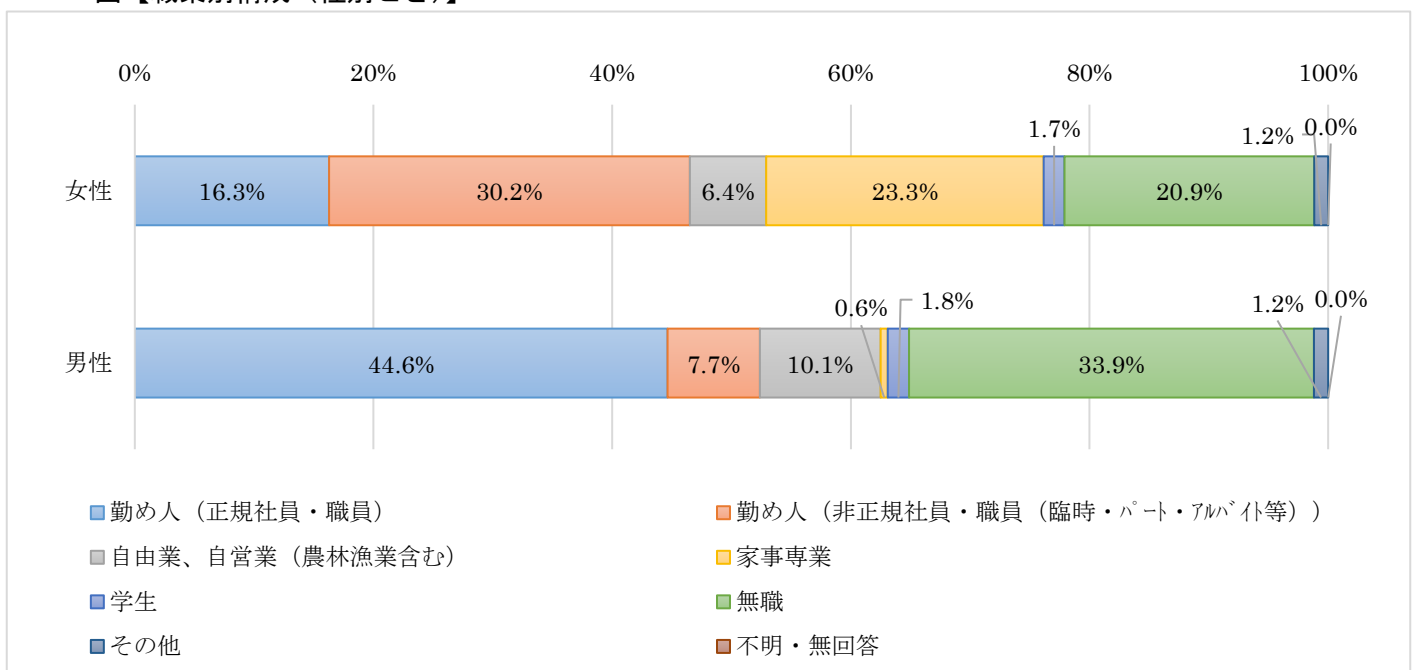
(3) 職業別構成

図【職業別構成】



◆回答者の職業別構成は、「勤め人（正規社員・職員）」が29.3%で最も多く、次いで「無職」が28.5%、「勤め人（非正規社員・職員（臨時・パート・アルバイト等）」が18.6%、「家事専業」が12.7%と続いている。

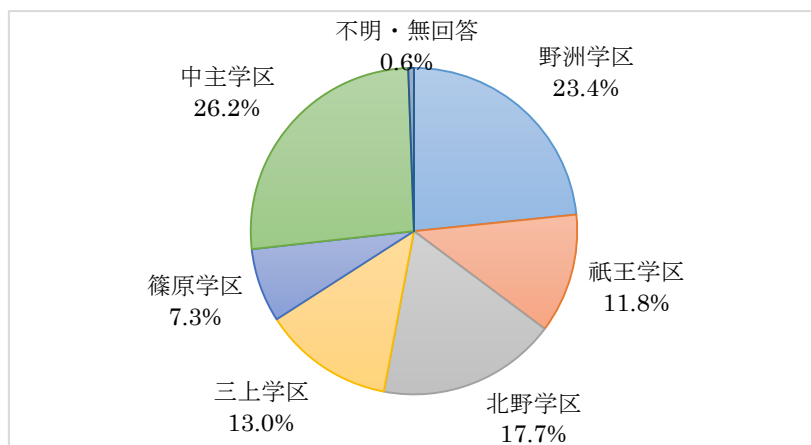
図【職業別構成（性別ごと）】



◆性別（不明・無回答を除く）でみると、女性では「勤め人（非正規社員・職員（臨時・パート・アルバイト等）」が30.2%と最も多く、次いで「家事専業」が23.3%となっている。男性では「勤め人（正規社員・職員）」が44.6%と最も多く、次いで「無職」が33.9%となっている。

(4) 学区別構成

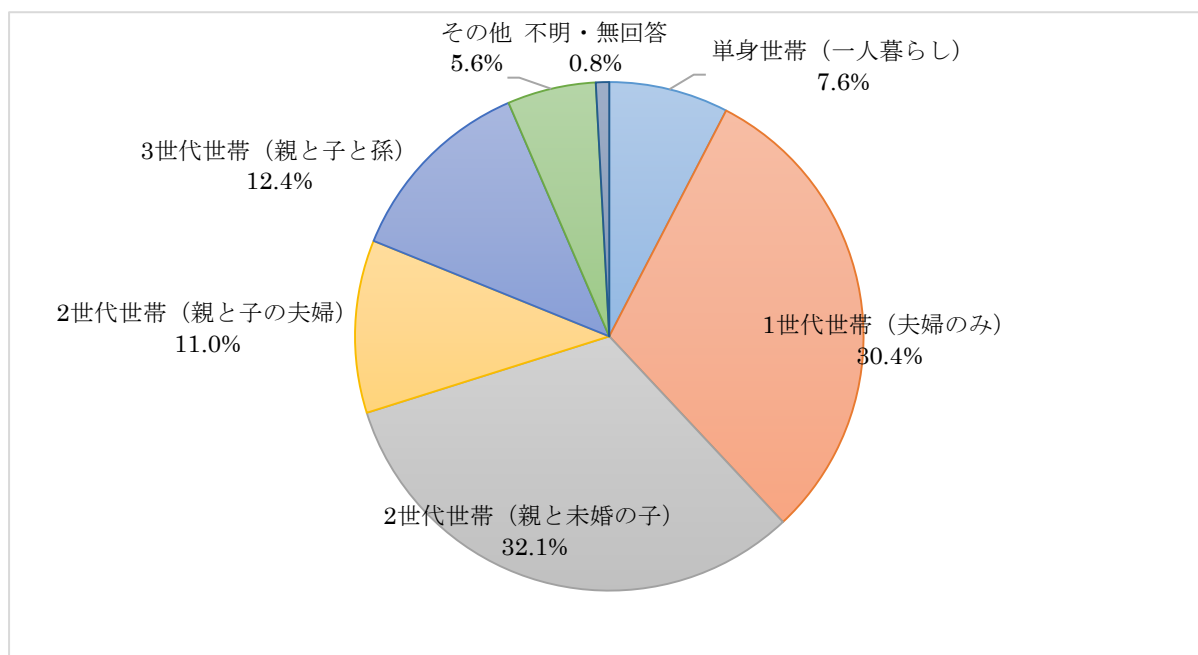
図【学区別構成】



◆回答者における学区別構成をみると、中主学区が26.2%と最も多く、次いで、野洲学区23.4%となっている。また、最も少なかったのは篠原学区で7.3%となっている。

(5) 家族構成

図【家族構成】



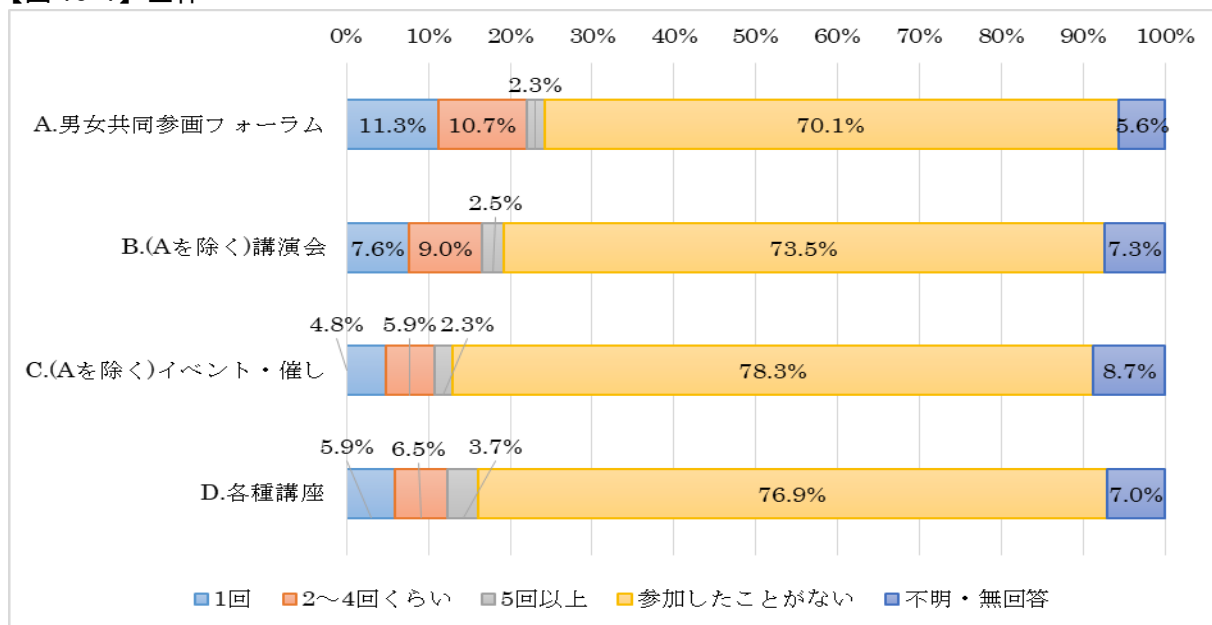
◆回答者における家族構成をみると、「2世代世帯（親と未婚の子）」が32.1%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が30.4%、「3世代世帯（親と子と孫）」が12.4%となっている。

(問1～問17は人権問題に関する市民意識調査のため省略しています。)

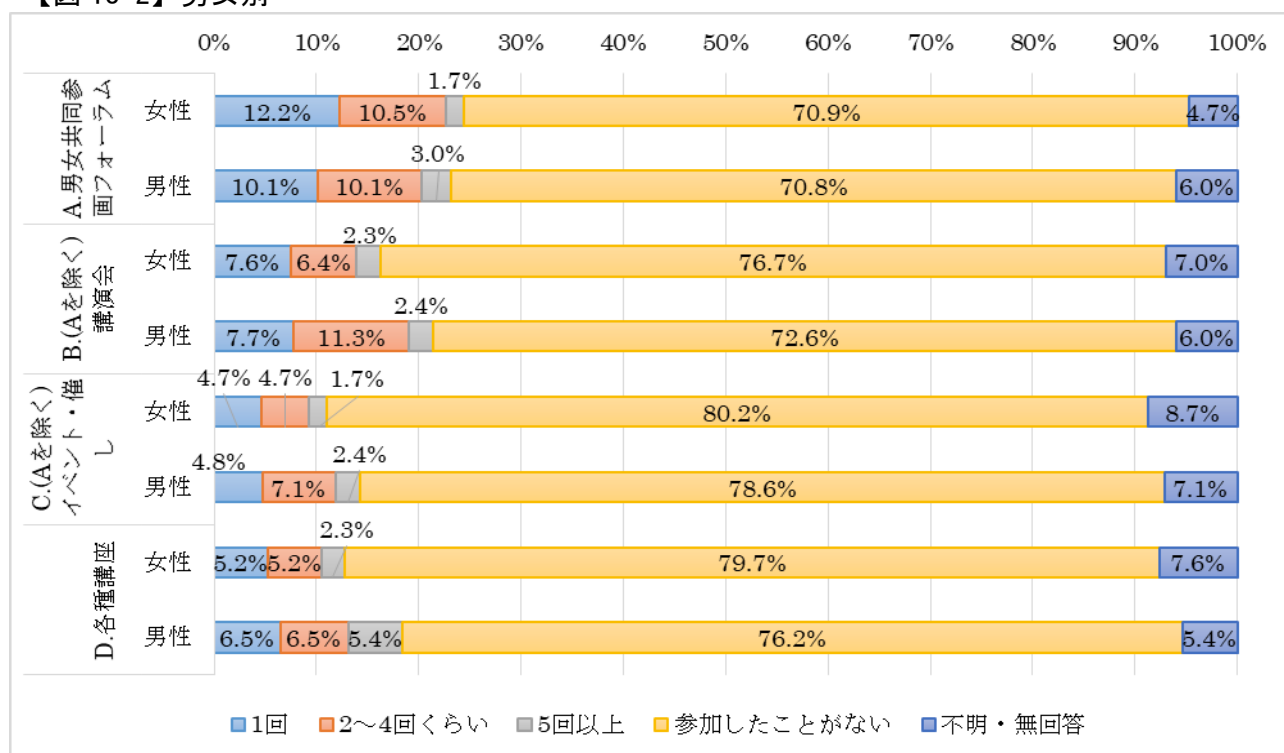
1. 男女共同参画に関する学習の機会について

問18 今までに、男女共同参画に関する講演会、講座、イベント・催しなどに参加したことがありますか。市外で開催されるものも含みます。(それぞれ1つに○) (新規項目)

【図18-1】全体



【図18-2】男女別



◆全体をみると、最も参加が多かったのは「男女共同参画フォーラム」で、「1回だけ参加した」「2~4回くらい参加した」「5回以上参加した」の3つの回答を合計した参加率は24.3%となっている。また、「参加したことがない」と回答した人の割合は、すべての項目で70%以上となっている。

◆男女別にみると、「A. 男女共同参画フォーラム」を除いては、男性の方が参加したこと

があると回答した人の割合が高くなっている。

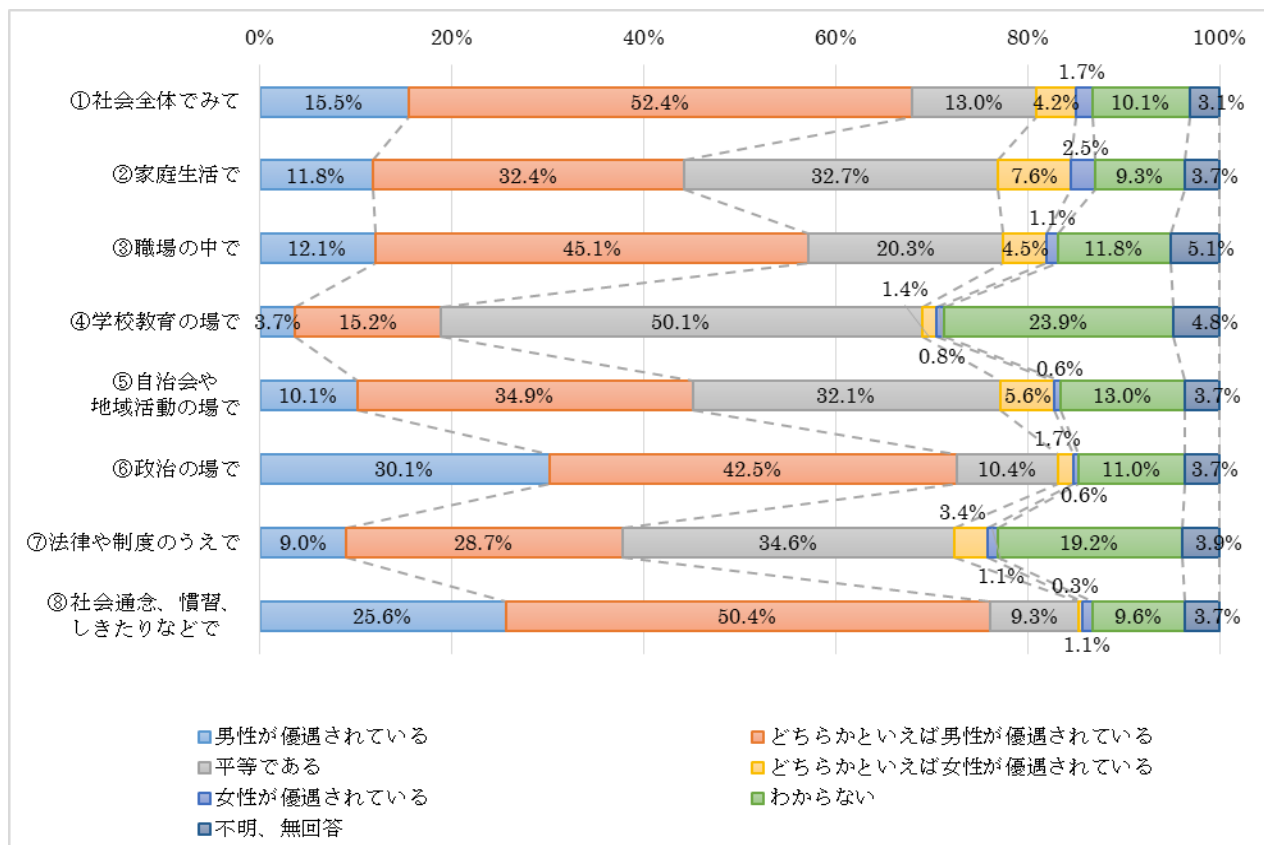
2. 男女の地位に関する意識について

(1) 各分野での男女の地位の平等感

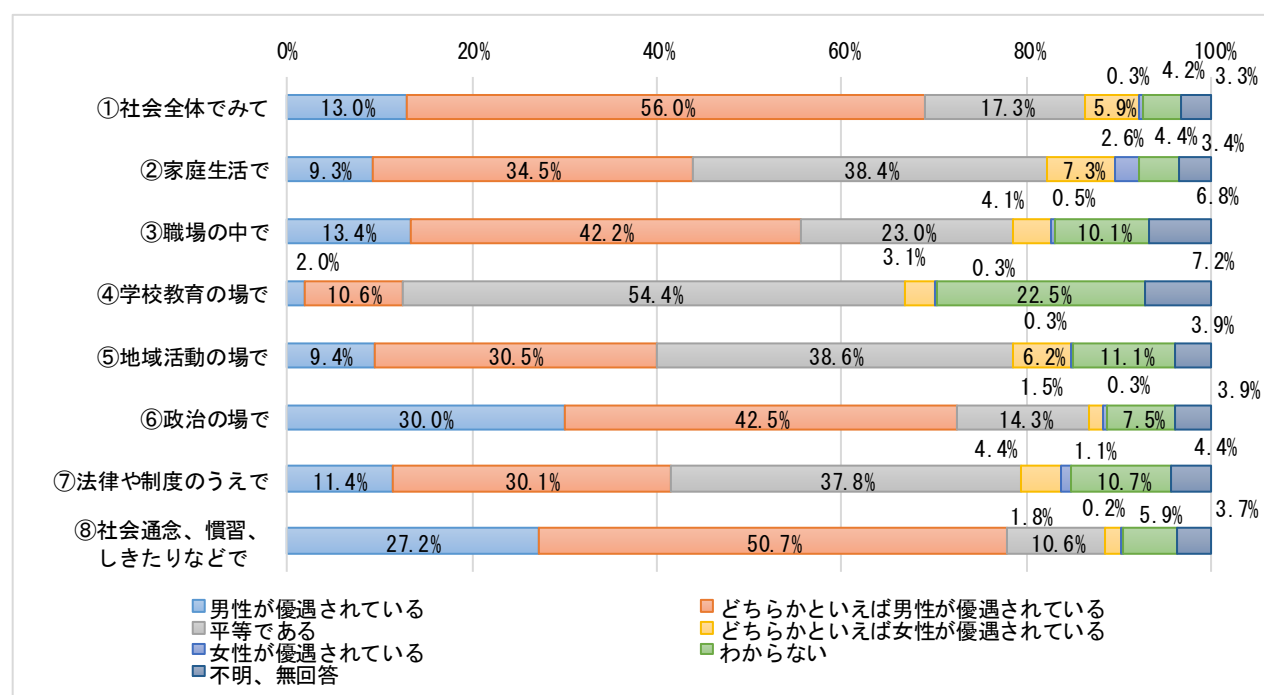
問 19 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧の項目について、それぞれ右の1～6のあてはまる番号に○印をつけてください。（それぞれ1つに○）

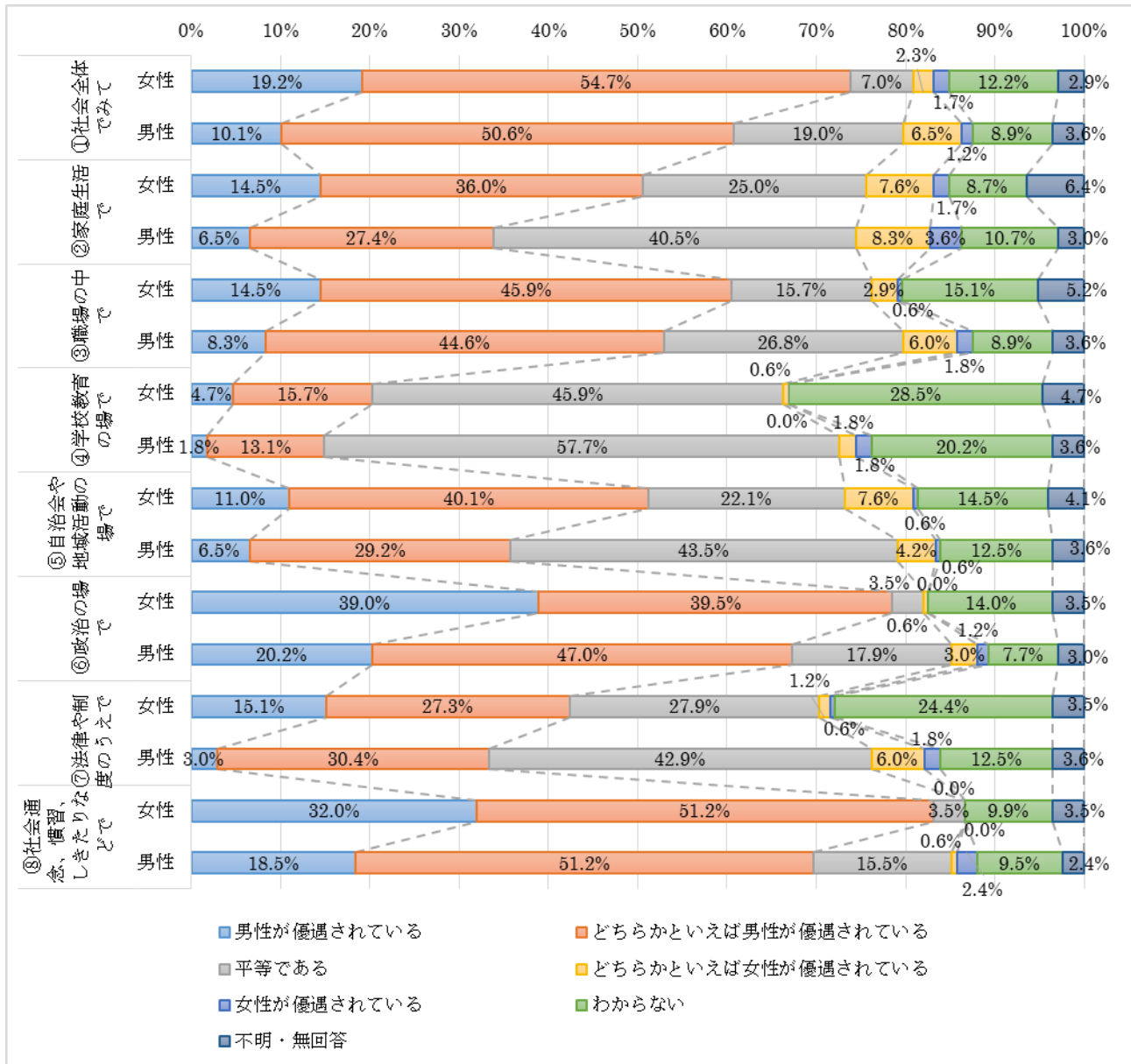
【図 19-1】全体



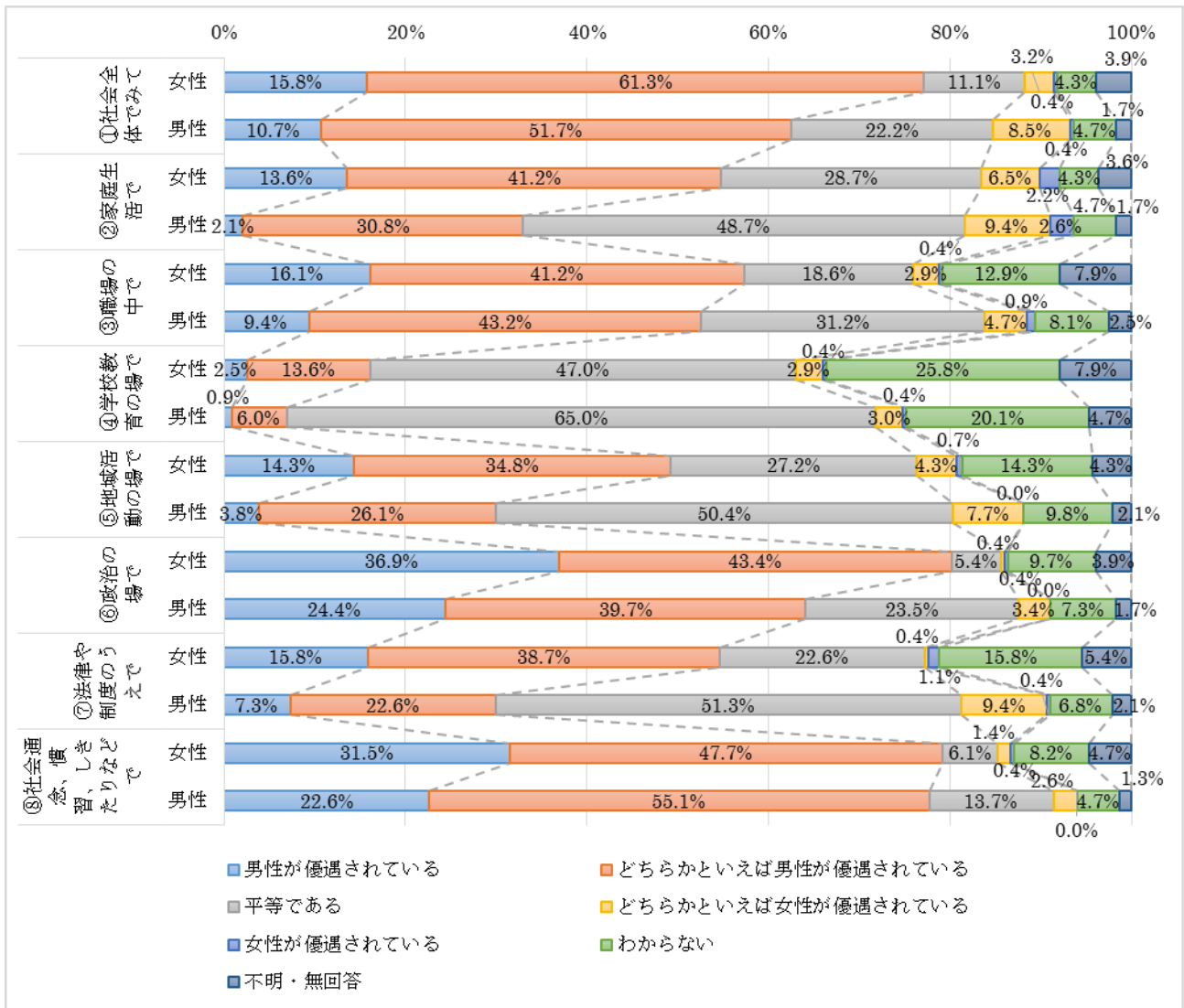
【図 19-2】前回調査



【図 19-3】男女別



【図 19-4】前回調査 男女別



◆各分野における男女の平等感については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた、男性優位と回答した人の割合が高いものとしては、「社会通念、慣習、しきたりなどで」が 76.0%（前回 H26 年調査（以下、「前回」という。）77.9%）が最も多く、次いで「政治の場で」が 72.6%（前回 72.5%）、「社会全体で見て」が 67.9%（前回 69.0%）と続いている。

「平等である」と回答した人の割合が最も多いのは、「学校教育の場で」で 50.1%（前回 54.4%）となっている。

◆県の調査※1 では、男性優位と回答した人の割合が多いものとしては、「社会通念、慣習、しきたりなどで」が 77.3%で最も多く、次いで「政治の場で」が 76.9%、「社会全体で見て」が 72.7%となっている。

「平等である」と回答した人の割合が最も多いのは、「学校教育の場で」で 54.5%となっており、本市と同じ傾向となっている。

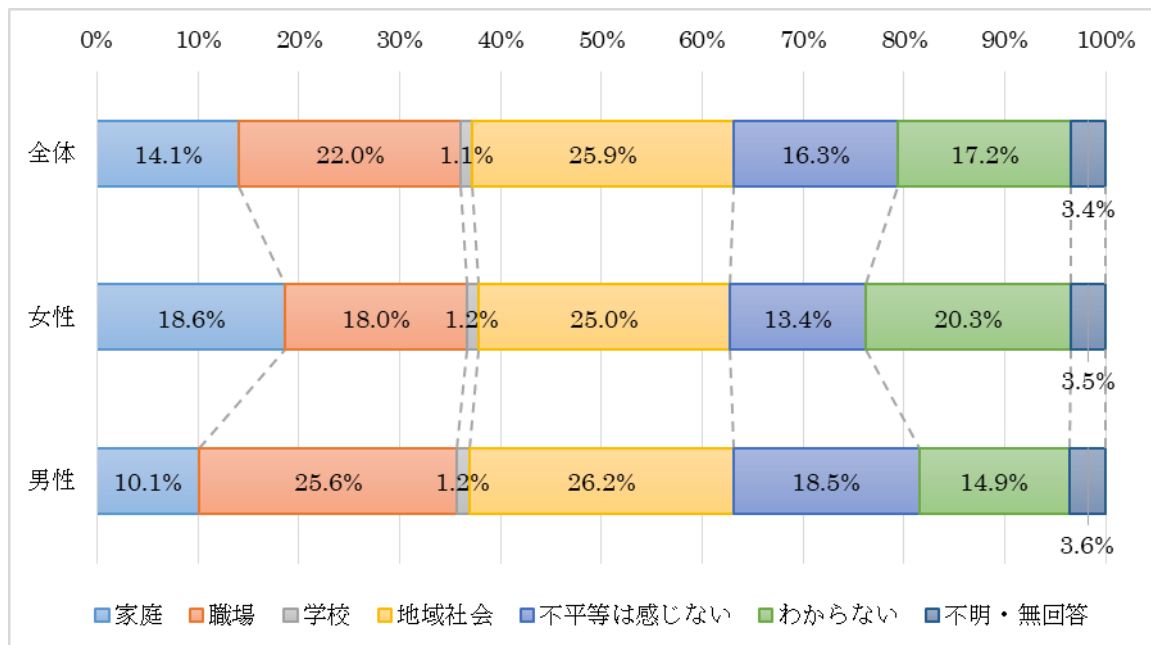
◆男女別で見ると、すべての項目において、女性の方が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と男性優位と回答した人の割合が高くなっており、最も差があるのは、「家庭生活の場で」で 16.7%差があった。「平等である」と回答した人の割合は、すべての項目において女性に比べて男性の方が高くなっている。

※1（令和元（2019 年）12 月発行の男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査報告書より）

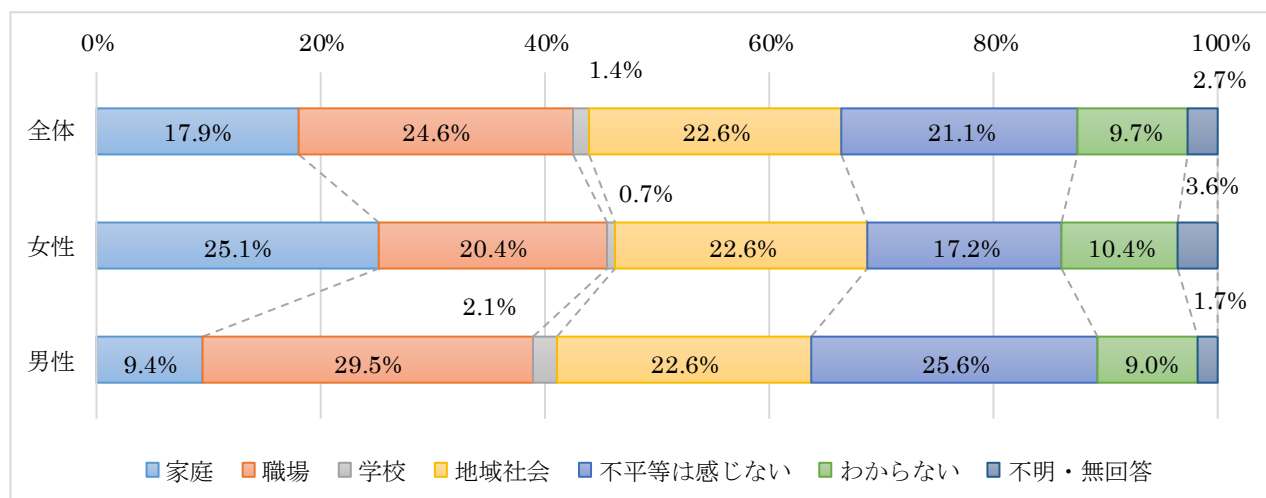
(2) 日常生活の中での男女の地位の不平等感

問20 あなたが、日常生活の中で、男女の不平等感を最も感じる場所はどこですか。(1つに○)

【図 20-1】



【図 20-2】 前回調査

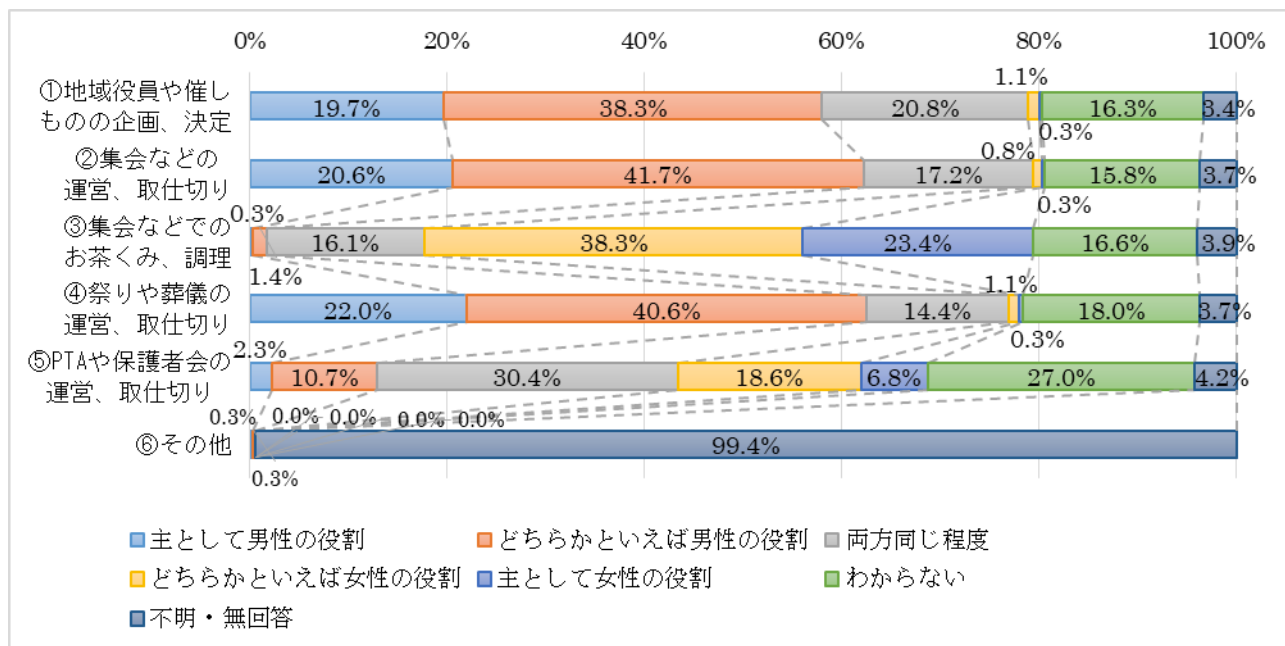


- ◆全体では、「地域社会」が25.9%（前回22.6%）と回答した人の割合が最も高く、次いで「職場」が22.0%（前回24.6%）となっている。
- ◆男女で差がある項目を見ると、「家庭」と回答した人の割合は、女性が18.6%（前回25.1%）であるのに対し、男性は10.1%（前回9.4%）となっている。また、「職場」と回答した人の割合は、男性が25.6%（前回29.5%）であったのに対し、女性は18.0%（前回20.4%）となっている。「不平等は感じない」と回答した人の割合は、男性が18.5%（前回25.6%）であったのに対し、女性は13.4%（前回17.2%）となっている。

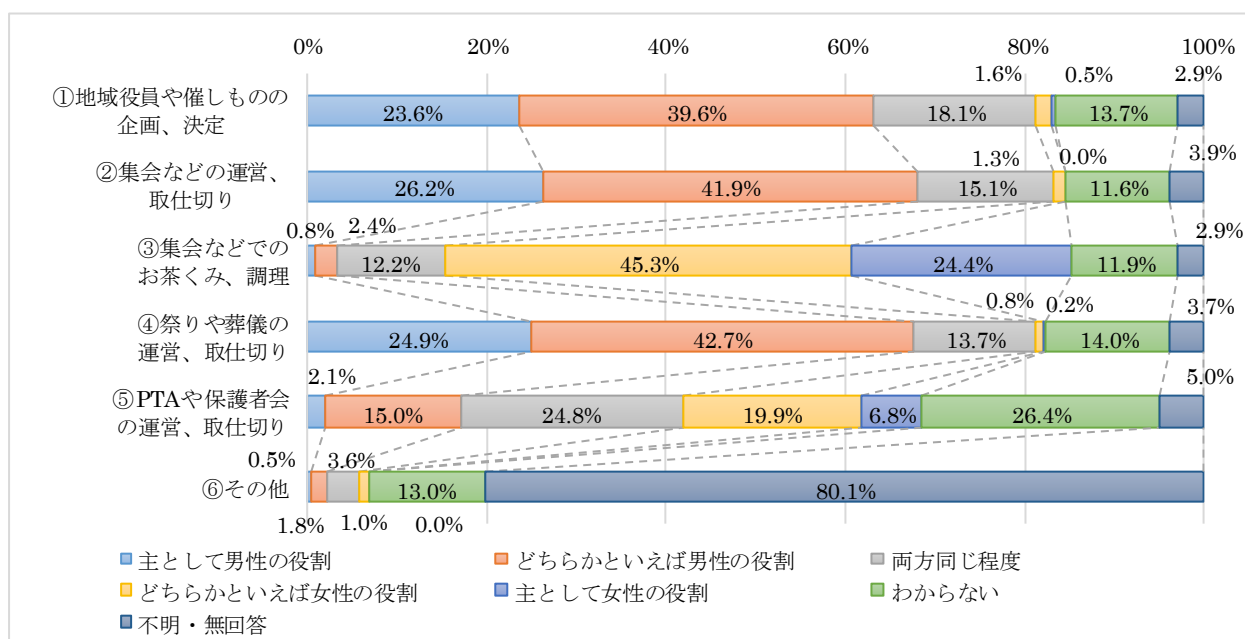
(3) 地域活動の役割分担

問 21 あなたの住まいの地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。①～⑥の項目について、それぞれ右の1～6のあてはまる番号に○印をつけてください。(それぞれ1つに○)

【図 21-1】



【図 21-2】 前回調査

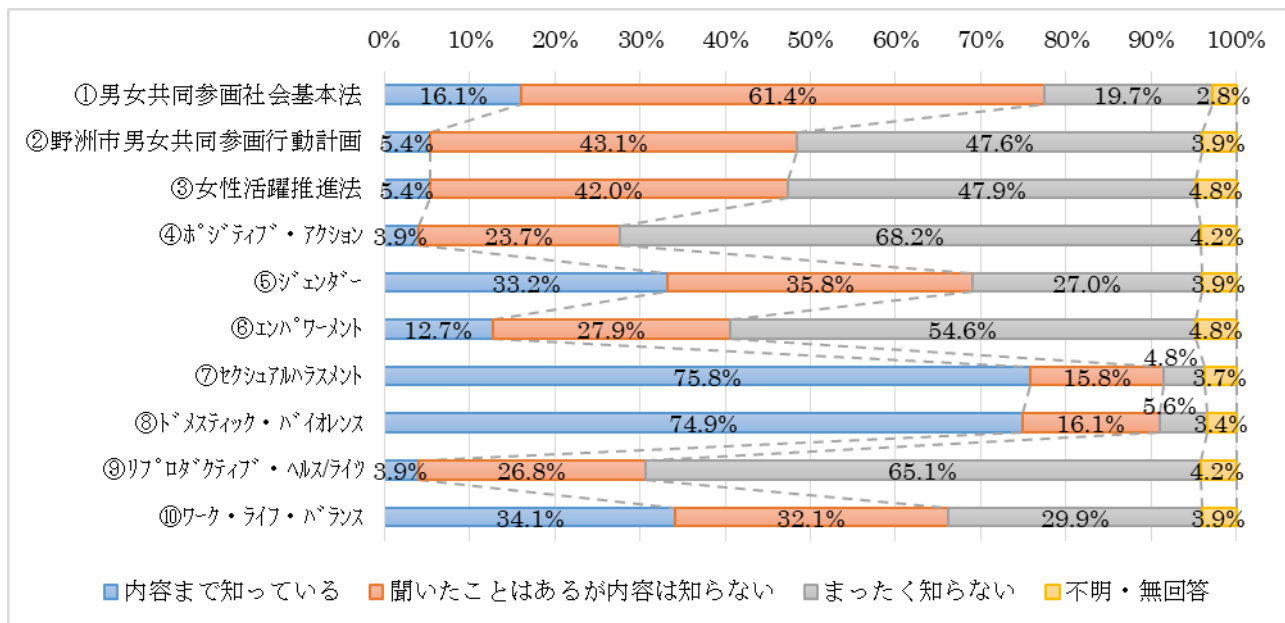


◆地域活動の役割分担については、「主として男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた回答率が高いものを見ると、「祭りや葬儀の運営、取仕切り」が62.6%（前回67.6%）、「集会などの運営、取仕切り」が62.3%（前回68.1%）、「地域役員や催しものの企画、決定」が58.0%（前回63.2%）で上位にきている。一方、「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた回答率が高いものをみると、「集会などでのお茶くみ、調理」が61.7%（前回69.7%）と極端に高くなっている。

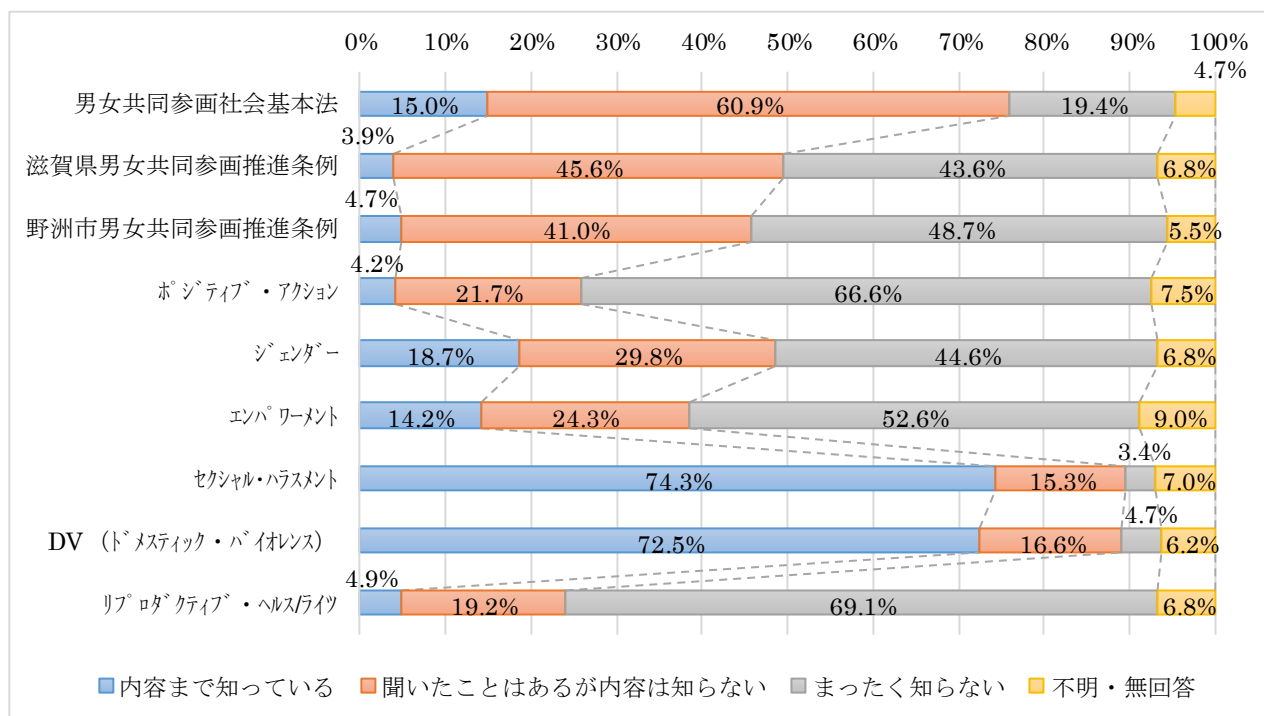
(4) 制度や用語の周知状況

問 22 あなたは下記の言葉や事柄をご存知ですか。①～⑩の項目について、それぞれ右の1～3のあてはまる番号に○印をつけてください。(それぞれ1つに○)

【図 22-1】



【図 22-2】 前回調査



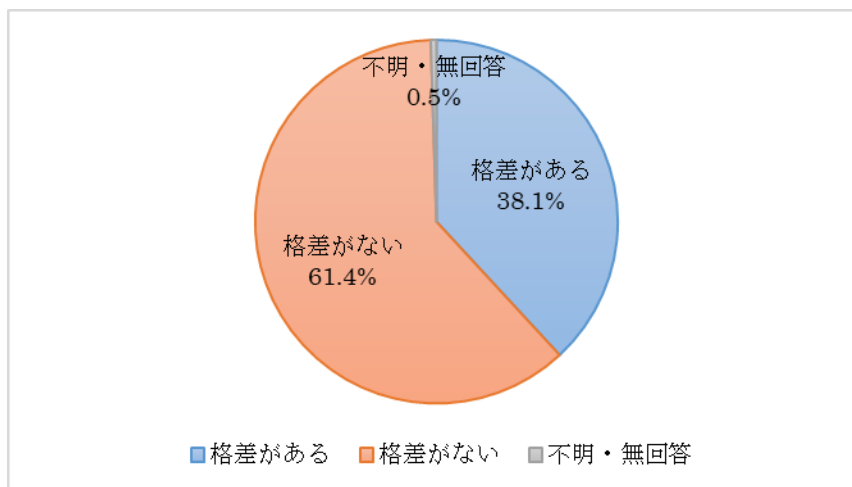
◆「内容まで知っている」という認知度の高い項目は、「セクシュアルハラスメント」が75.8%（前回74.3%）、「ドメスティック・バイオレンス」が74.9%（前回72.5%）となっている。反対に、「まったく知らない」という認知度の低い項目は、「ポジティブ・アクション」68.2%（前回66.6%）、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」65.1%（前回69.1%）となっている。

3. 仕事について

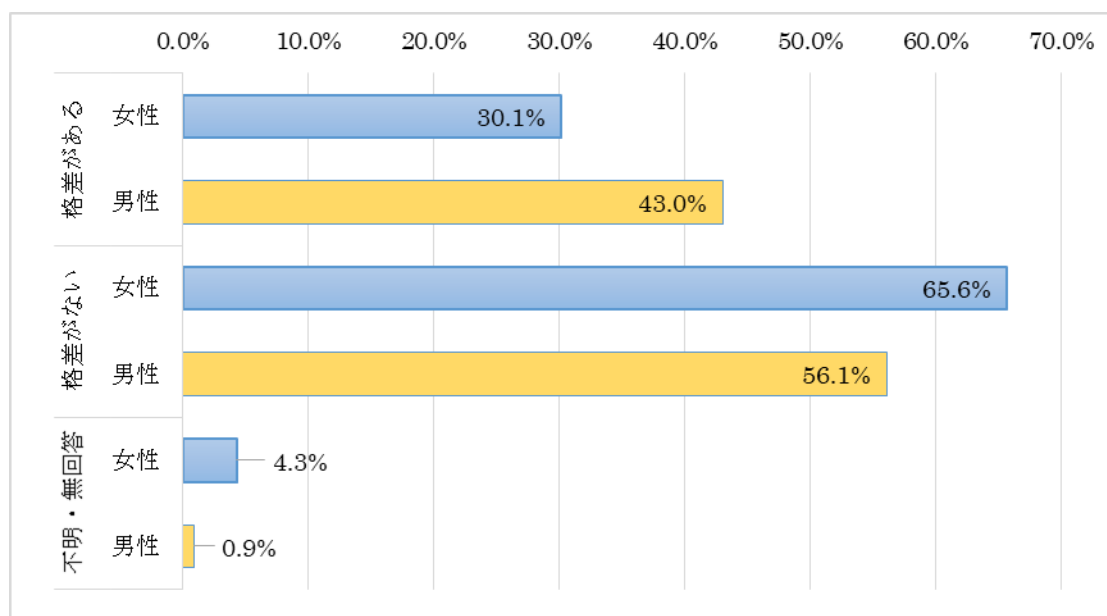
(1) 男女間格差

問 23 あなたの職場では、男女間で格差があると感じることがありますか。
(どちらかに○) (新規項目)

【図 23-1】



【図 23-2】 男女別



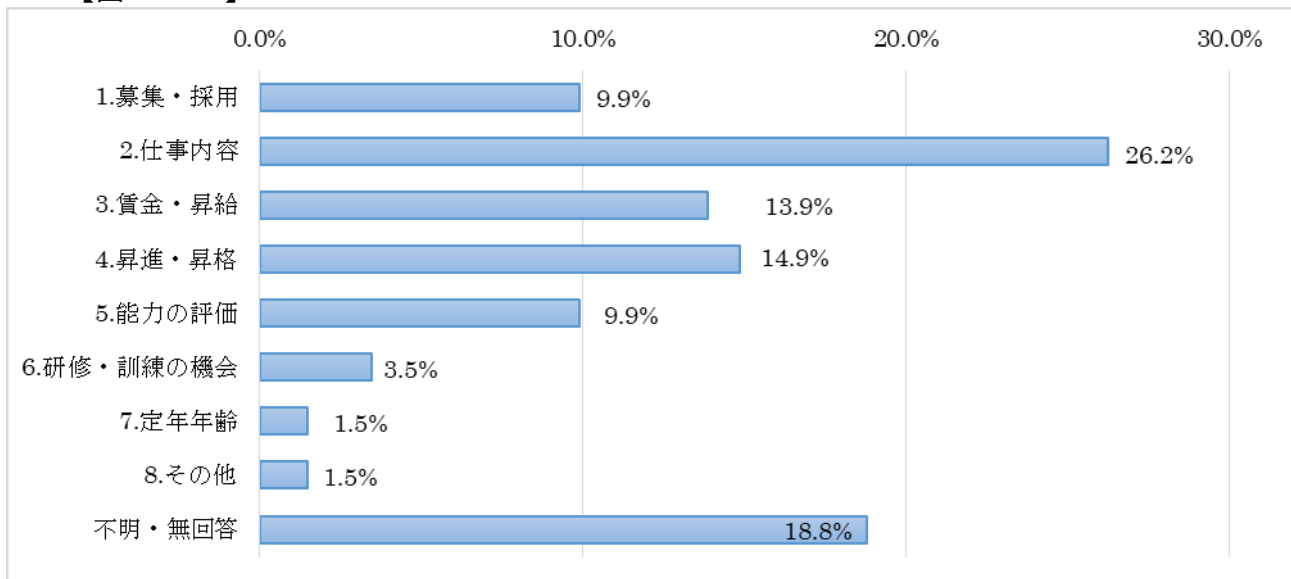
- ◆職場で、「男女間格差がある」と回答した人は、38.1%となっている。
- ◆男女別にみると、「男女間格差がある」と回答した人の割合は、女性 30.1%、男性 43.0%で男性の方が高くなっている。

問 2 4-1 あなたの職場では、どのような格差がありますか。

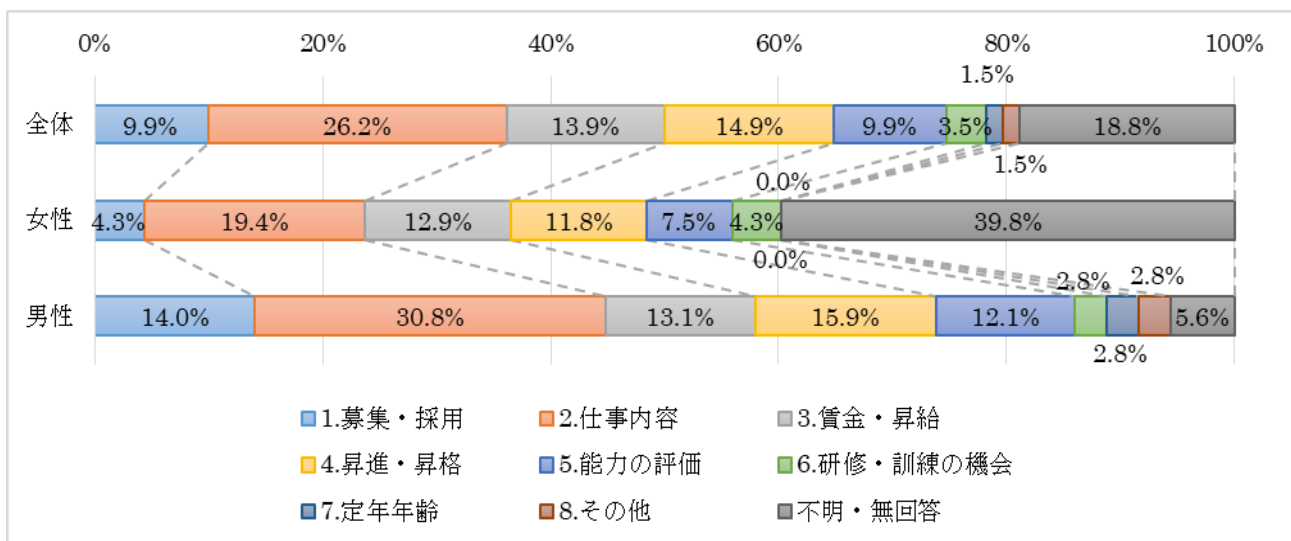
※問 2 3 で男女間格差が「ある」と回答した方。

(あてはまるものすべてに○) (新規項目)

【図 24-1-1】



【図 24-1-2】



◆男女間格差の内訳としては、「仕事内容」と回答した人が最も多く 26.2%、次いで「昇進・昇格」が 14.9%となっている。

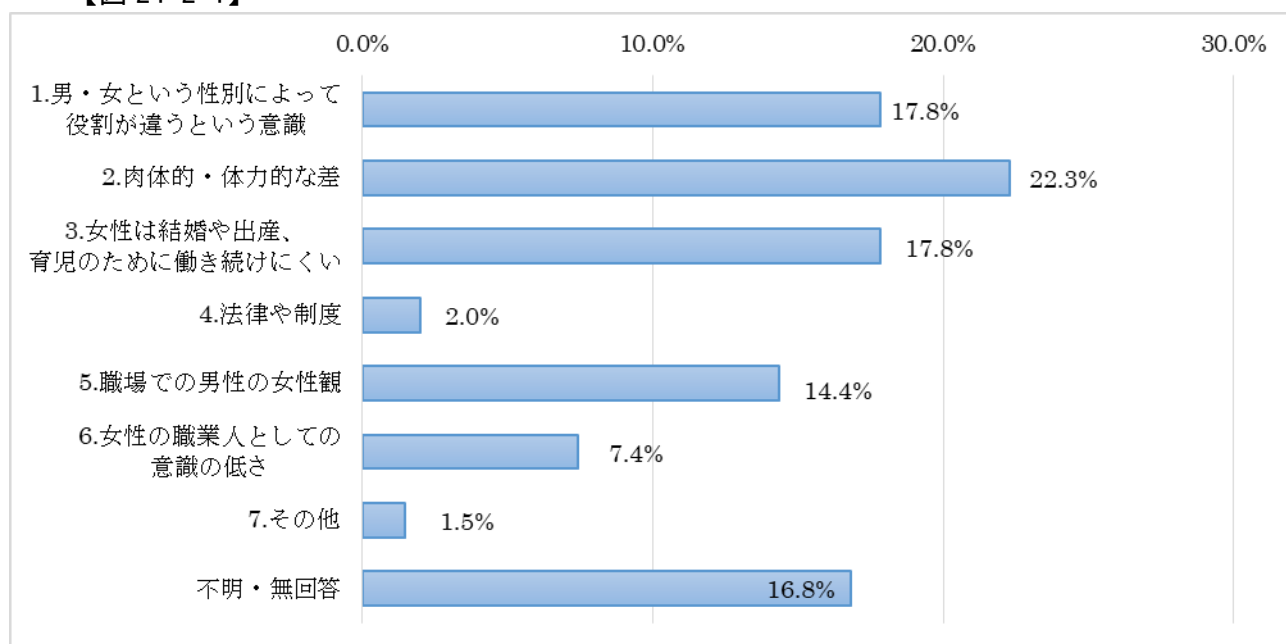
◆男女別にみると、男性、女性ともに「仕事内容」と回答した人が最も多く、男性 30.8%、女性 19.4%となっている。

また、「募集・採用」と回答した人の割合は、男性 14.0%に対し、女性 4.3%となっており、男女間で差がみられた。

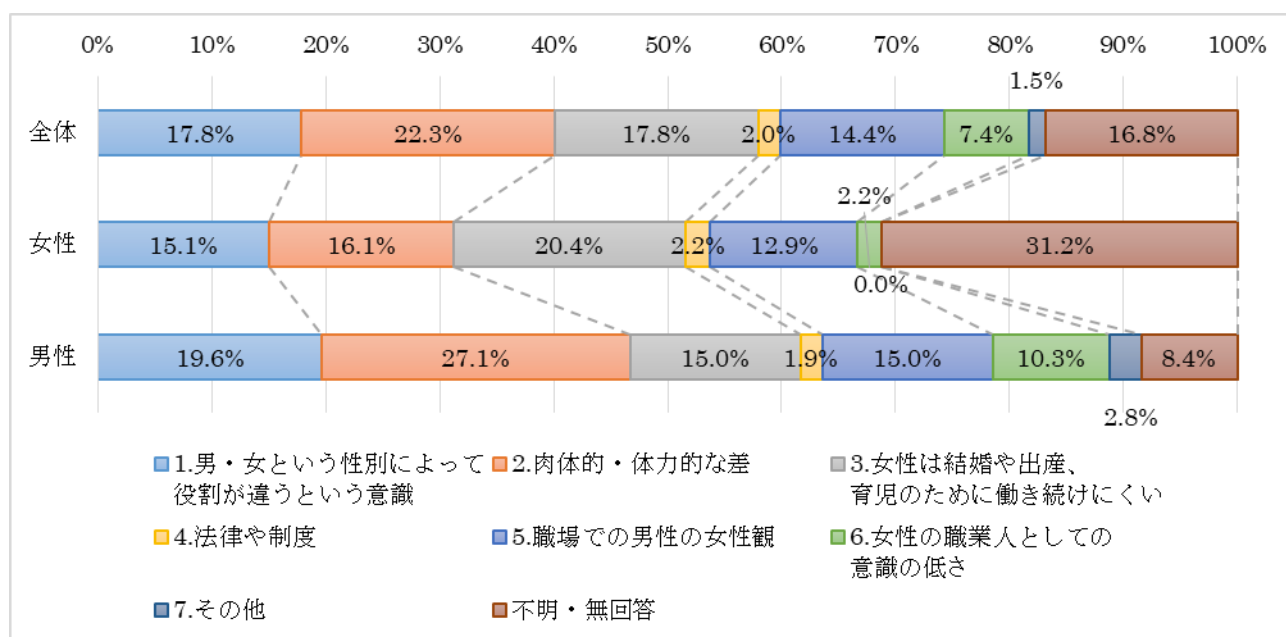
問 2 4-2 あなたは、職場の男女間格差の原因は何だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○) (新規項目)

【図 24-2-1】



【図 24-2-2】



◆職場の男女間格差の原因については、「肉体的・体力的な差」とする回答が22.3%で最も多く、次いで「男・女という性別によって役割が違うという意識」が17.8%、「女性は結婚や出産、育児のために働き続けにくい」が17.8%となっている。

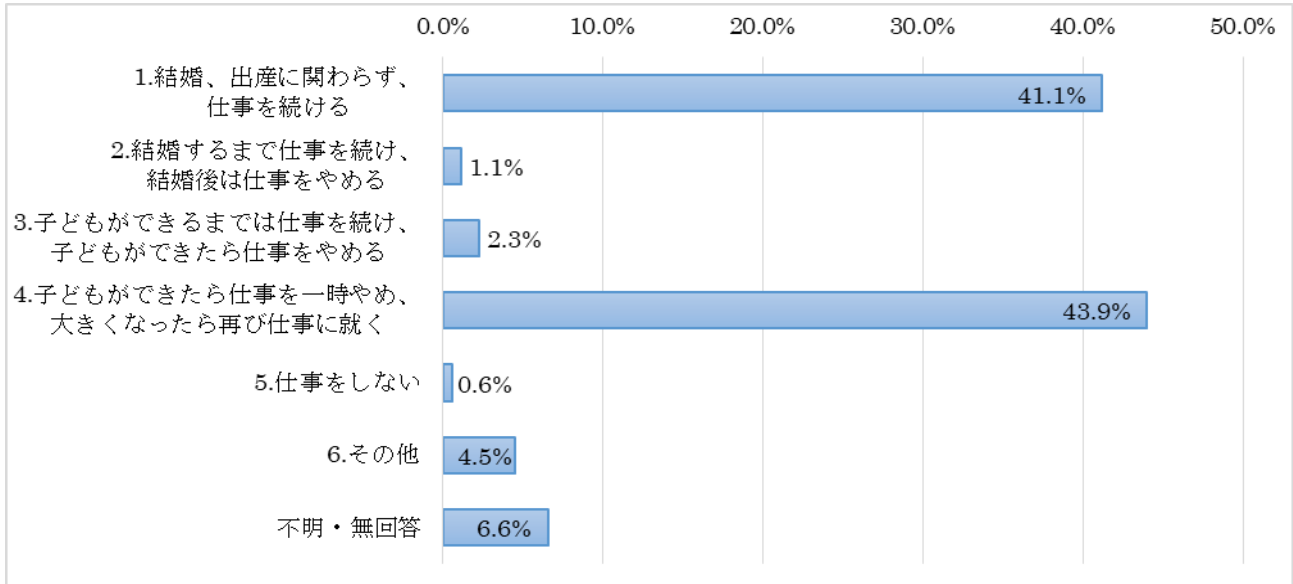
◆男女別にみると、男性は「肉体的・体力的な差」とする回答が27.1%と最も多いのに対し、女性は「女性は結婚や出産、育児のために働き続けにくい」とする回答が20.4%と最も多くなっており、職場の男女間格差の原因と考えている事柄に差がみられた。

また、「女性の職業人としての意識の低さ」は、男性10.3%、女性2.2%と男女の差が大きくなっている。

(2) 女性の働き方について

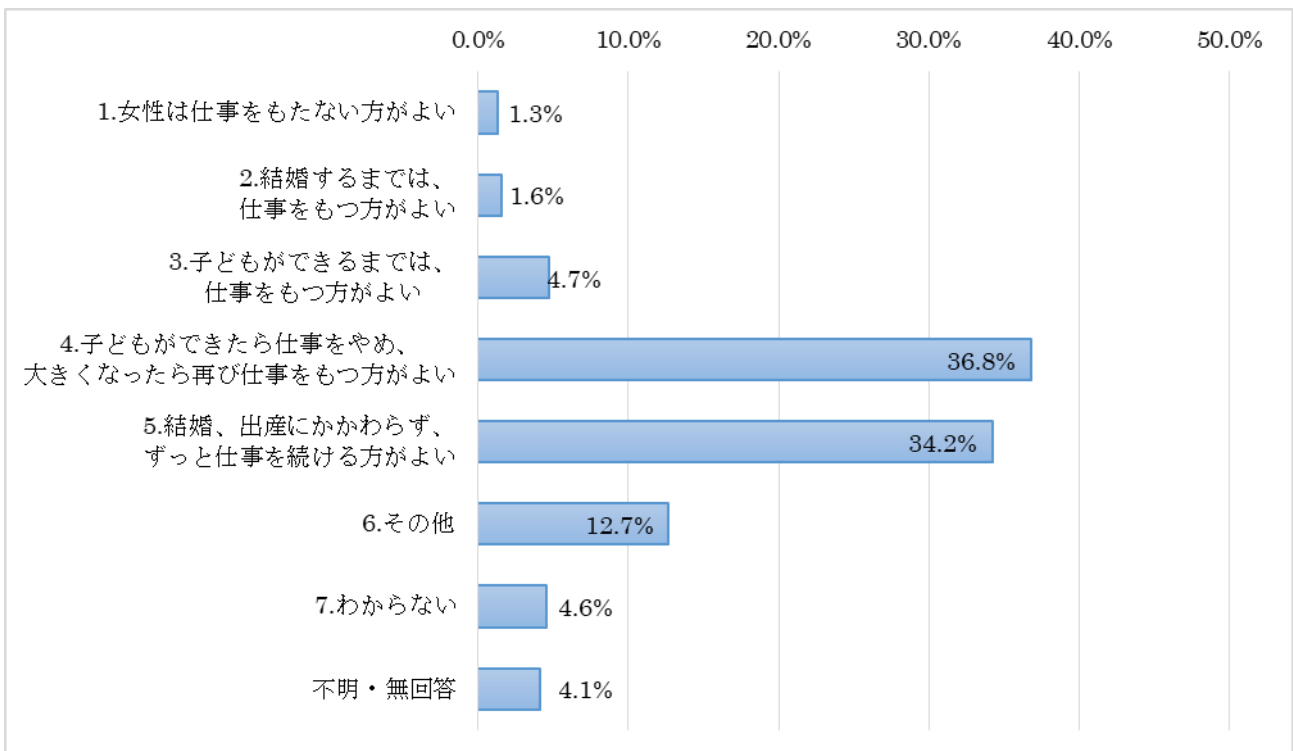
問 25 あなたが理想とする女性の働き方の形はどれですか。(1つに○)
(項目一部変更)

【図 25-1】



※今回調査では、「仕事をもつ」という表現を変更した。

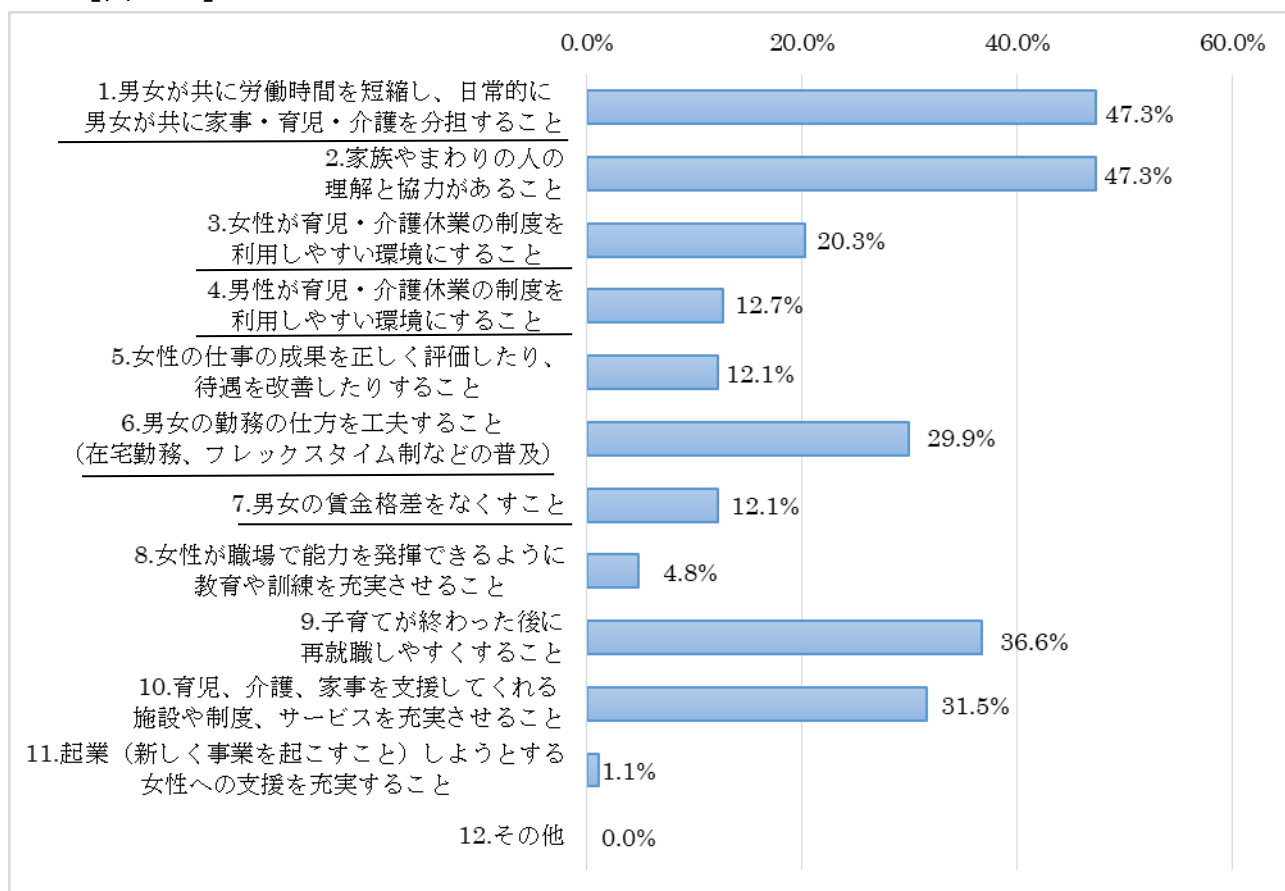
【図 25-2】 前回調査



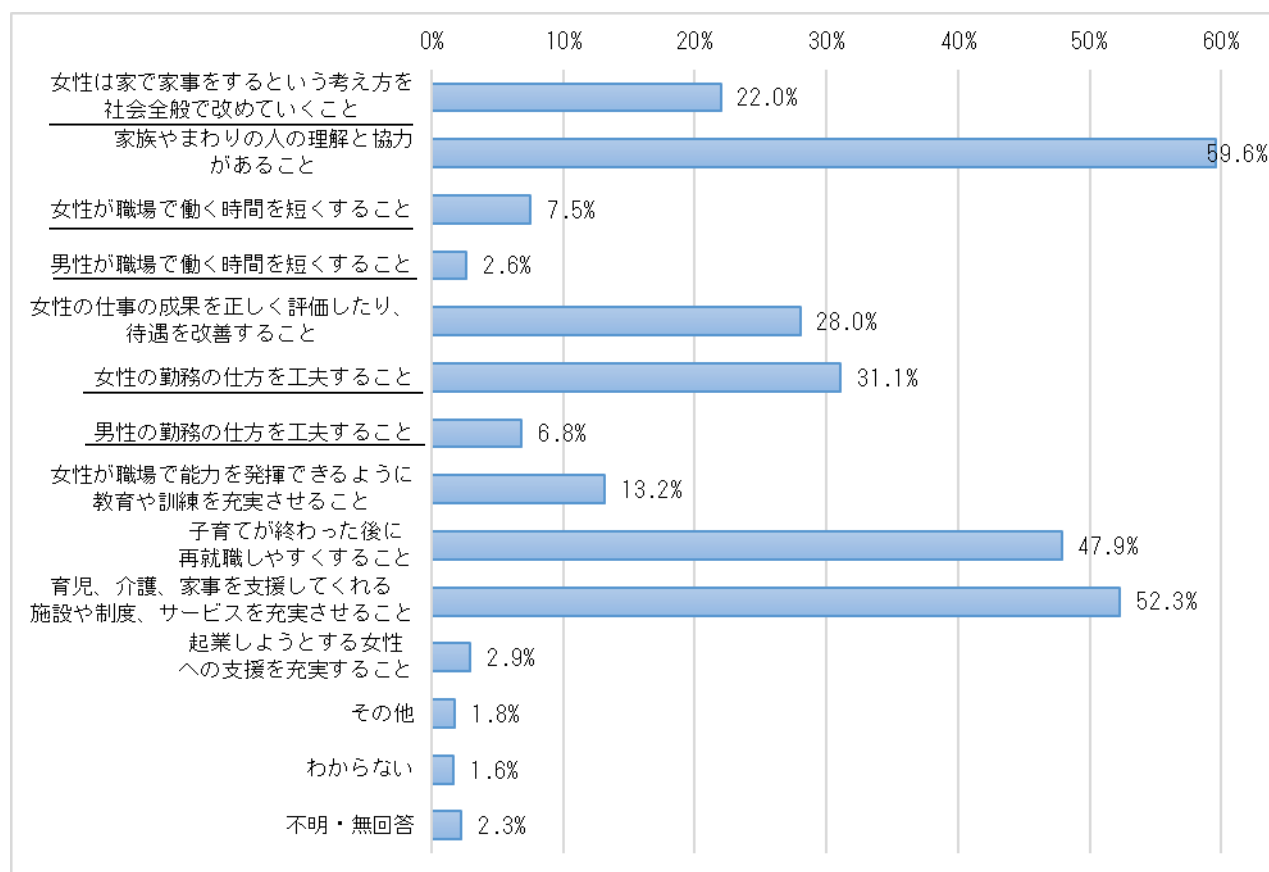
◆女性の働き方については、「子どもができたなら仕事を一時やめ、大きくなったら再び仕事に就く」とする回答が43.9%（前回36.8%）で最も多く、次いで「結婚、出産に関わらず、仕事を続ける」が41.1%（前回34.2%）となっており、前回調査と順位は変わらなかったものの、「子どもができたなら仕事を一時やめ、大きくなったら再び仕事に就く」が7.1%、「結婚、出産に関わらず、仕事を続ける」が6.9%、それぞれ増加している。

問 26 女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで) (項目一部変更)

【図 26-1】



【図 26-2】 前回調査



※今回調査では、前回調査の「女性は家で家事をするという考え方を社会全般で改めていくこと」を削除。一部の項目を加筆・統合した。

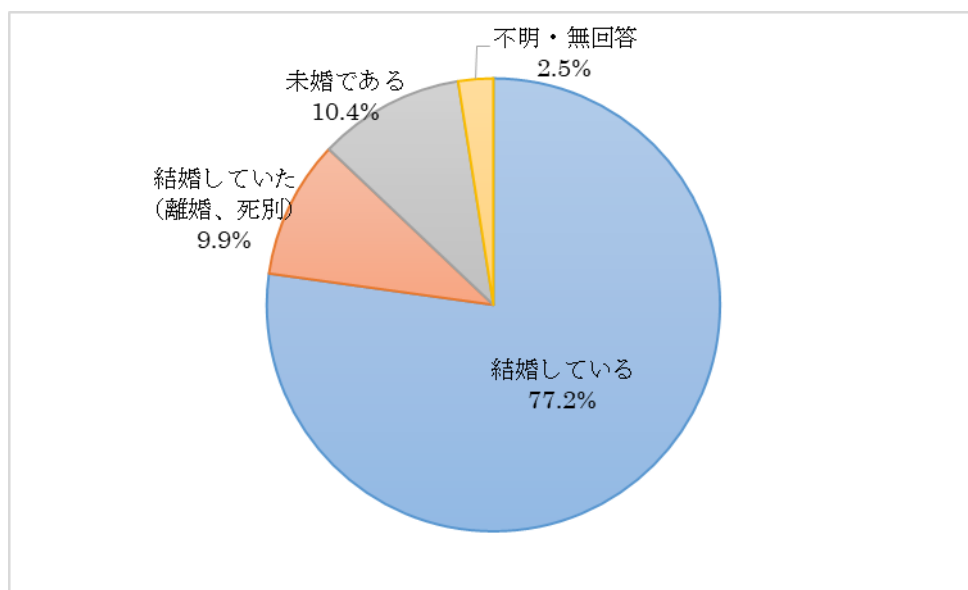
- ◆「男女が共に労働時間を短縮し、日常的に男女が共に家事・育児・介護を分担すること」が47.3%、「家族やまわりの人の理解と協力があること」が47.3%（前回59.6%）と最も多くなっている。次いで「子育てが終わった後に再就職しやすくすること」が36.6%（前回47.9%）、「育児、介護、家事を支援してくれる施設や制度、サービスを充実させること」が31.5%（前回52.3%）となっている。
- ◆県の調査では、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が51.9%、と最も多く、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」が49.5%となっており、市、県ともに同じ傾向になっている。

4. 結婚や子育てについて

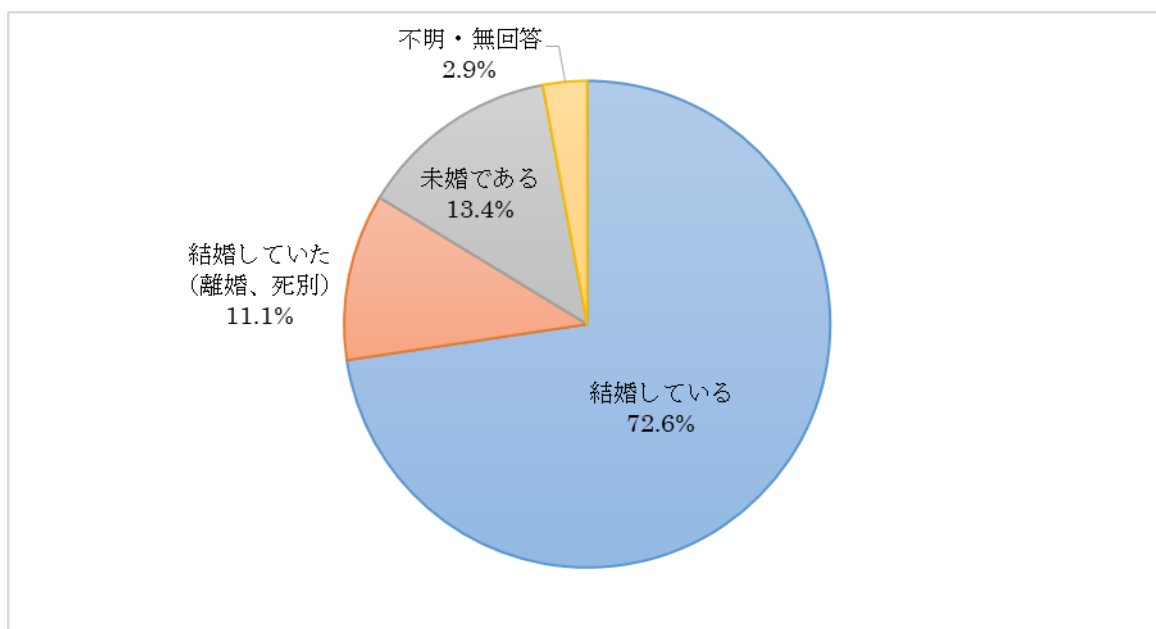
(1) 結婚しているか

問 27 あなたは、結婚していますか。(1つに○)

【図 27-1】



【図 27-2】 前回調査

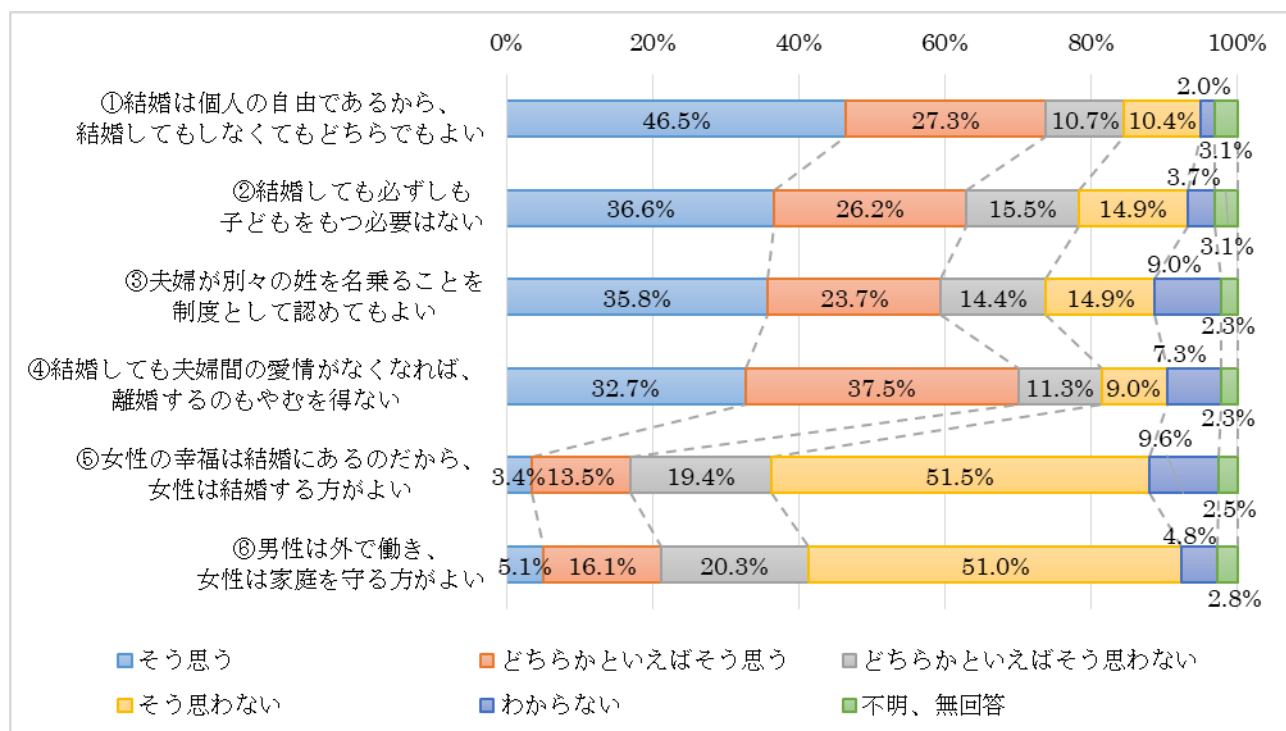


◆結婚していると回答した人の割合が最も高く、77.2%となっている。

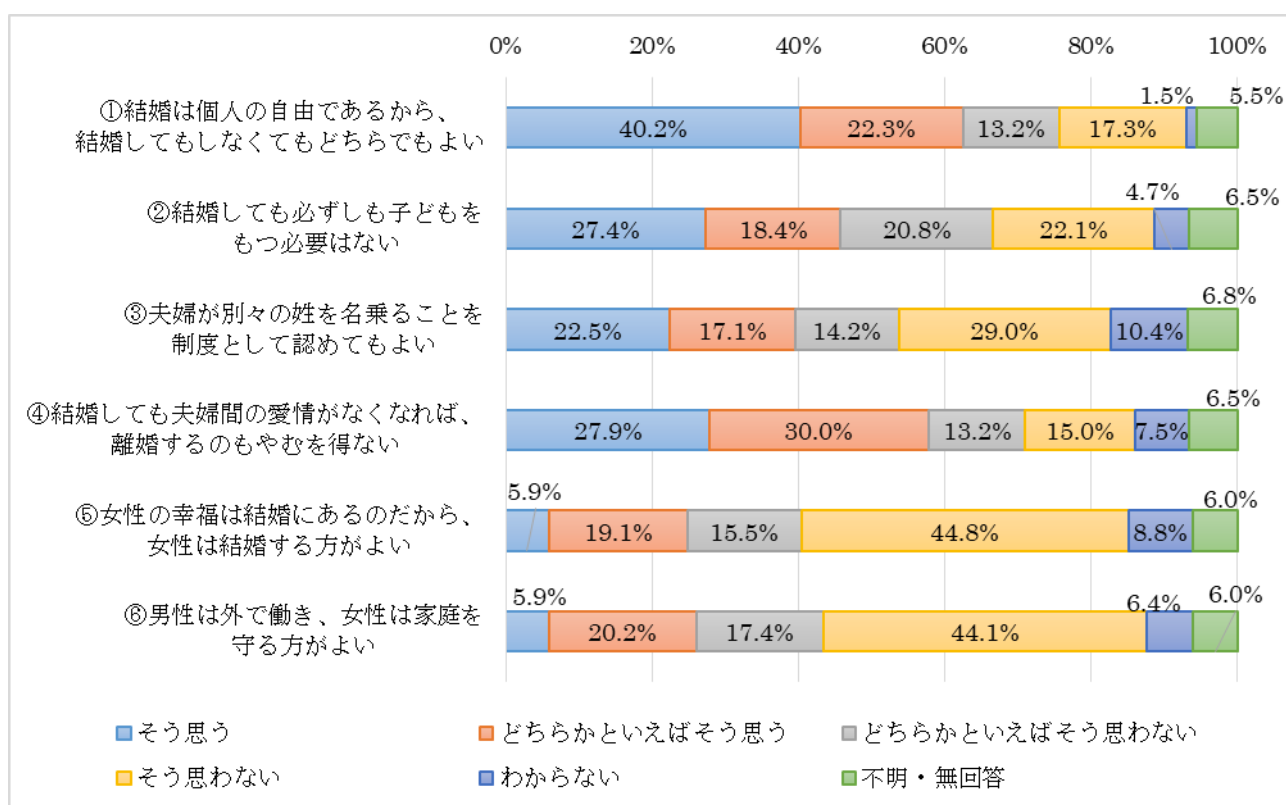
(2) 結婚、離婚や性別役割分担についての考え方

問 28 結婚、離婚や性別役割分担についての次の①～⑥の項目について、それぞれの1～5のうち、あなたの考えに最も近いものを選んで○印をつけてください。(それぞれ1つに○)

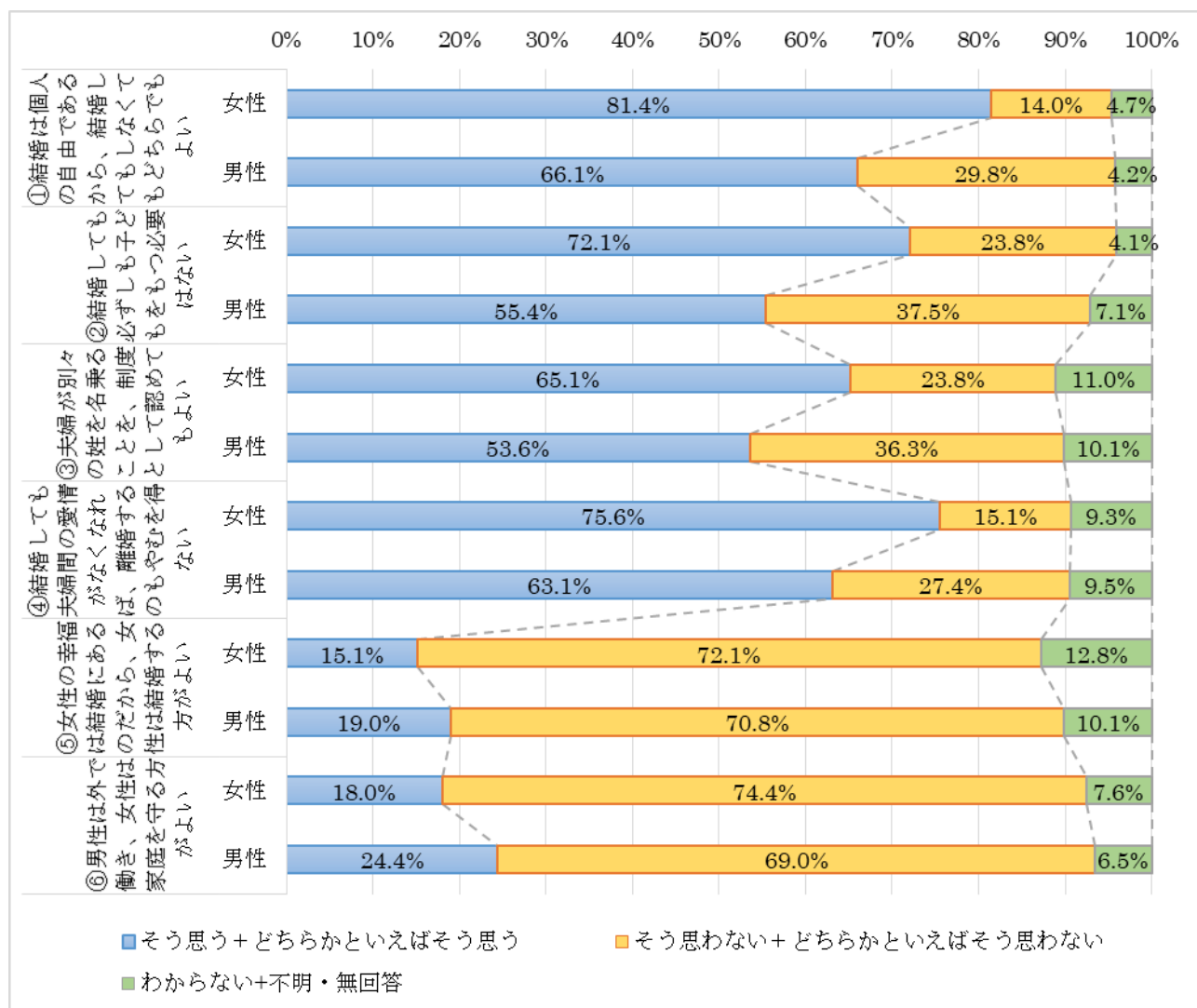
【図 28-1】



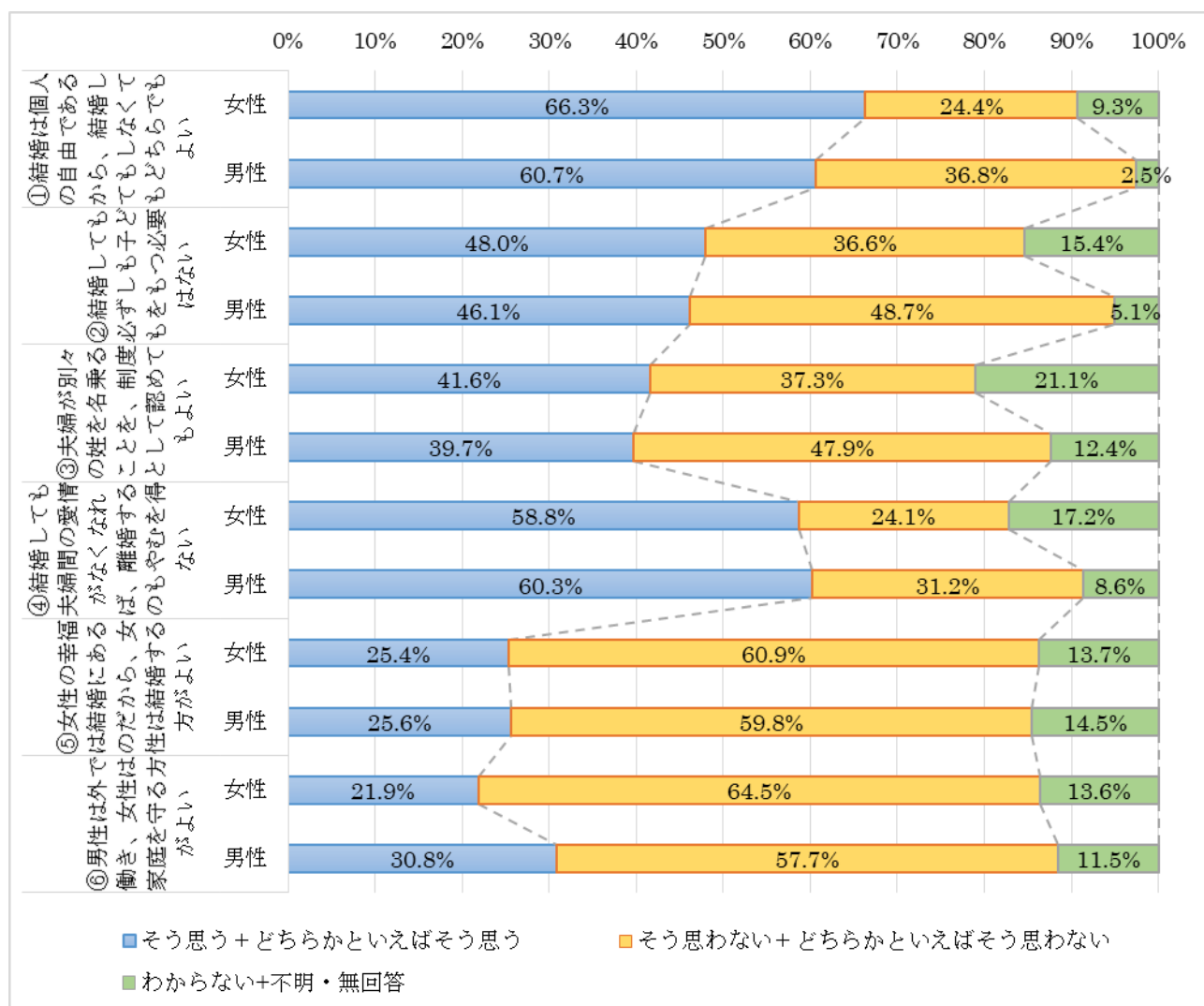
【図 28-2】 前回調査



【図 28-3】 男女別



【図 28-4】 前回調査



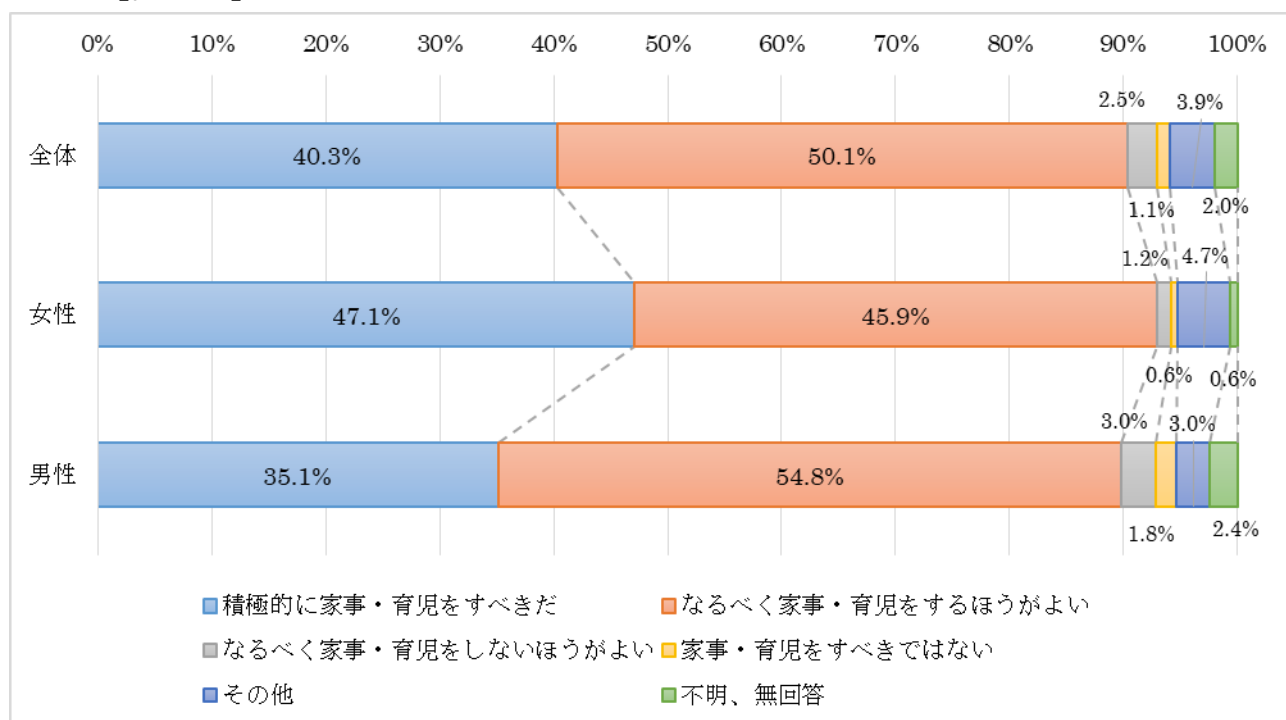
※前回調査結果では、「わからない」「不明・無回答」を除いたグラフとしていたが、今回調査と比較のため、「わからない」「不明・無回答」を含めたグラフに変更。

- ◆各項目のうち、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答は、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」が 73.8%（前回 62.5%）で最も多く、次いで「結婚しても夫婦間の愛情がなくなれば、離婚するのでもやむを得ない」が 70.2%（前回 57.9%）と割合が高くなっている。また、逆に、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な回答は、「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」が 71.3%（前回 61.5%）が最も多く、次いで「女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい」が 70.9%（前回 60.3%）と続いている。
- ◆男女別にみると、「女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい」、「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」以外の項目は、いずれも女性の方が男性より 10～15% 前後肯定的な回答が多くなっている。
- ◆「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」、「夫婦が別々の姓を名乗ることを、制度として認めてもよい」、「結婚しても夫婦間の愛情がなくなれば、離婚するのでもやむを得ない」については、肯定的な意見が 50% を超えており、前回調査と比べ、肯定的な意見が大きく増加している。

(3) 男性が家事・育児をすること

問 29 あなたは、毎日の生活の中で男性が家事（炊事・洗濯・掃除）・育児など
をすることについて、どう思いますか。（1つに○）（新規項目）

【図 29-1】



- ◆全体でみると、「積極的に家事・育児をすべきだ」と「なるべく家事・育児をすべきだ」を合わせた肯定的な回答は 90.4%となっている。
- ◆男女別にみると、「積極的に家事・育児をすべきだ」と「なるべく家事・育児をすべきだ」を合わせた肯定的な回答は女性 93.0%、男性 89.9%とどちらも高い結果となっているが、「積極的に家事・育児をすべきだ」と回答した人は、女性 47.1%、男性 35.1%と女性の方が 12%高くなっている。

5. 家庭生活について

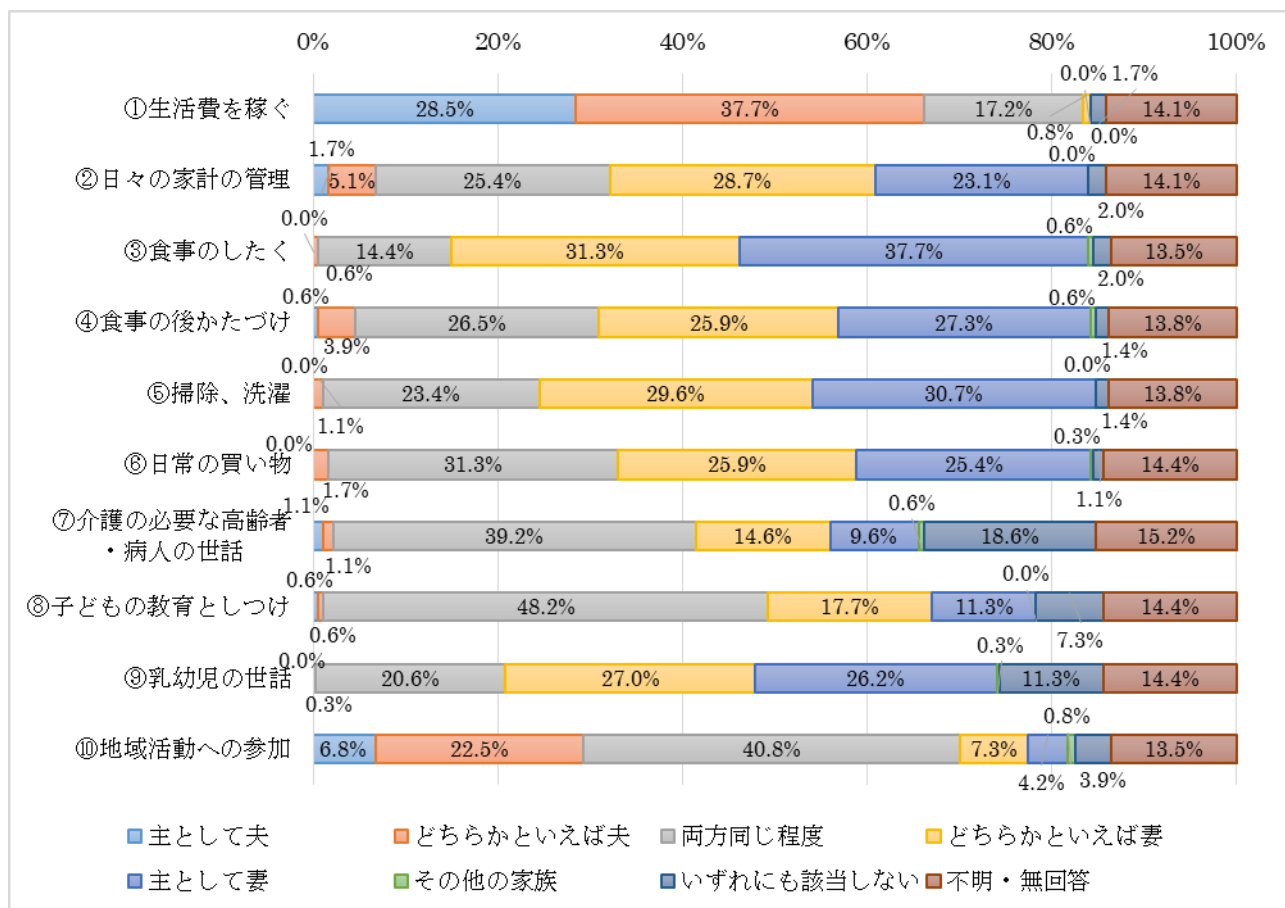
(1) 家庭の仕事の役割

問 30 下の表のような家庭での役割について、あなたはどのように思われますか。①～⑩の項目について、【現状】と【理想】について、それぞれ1～7のあてはまる番号に○印をつけてください。

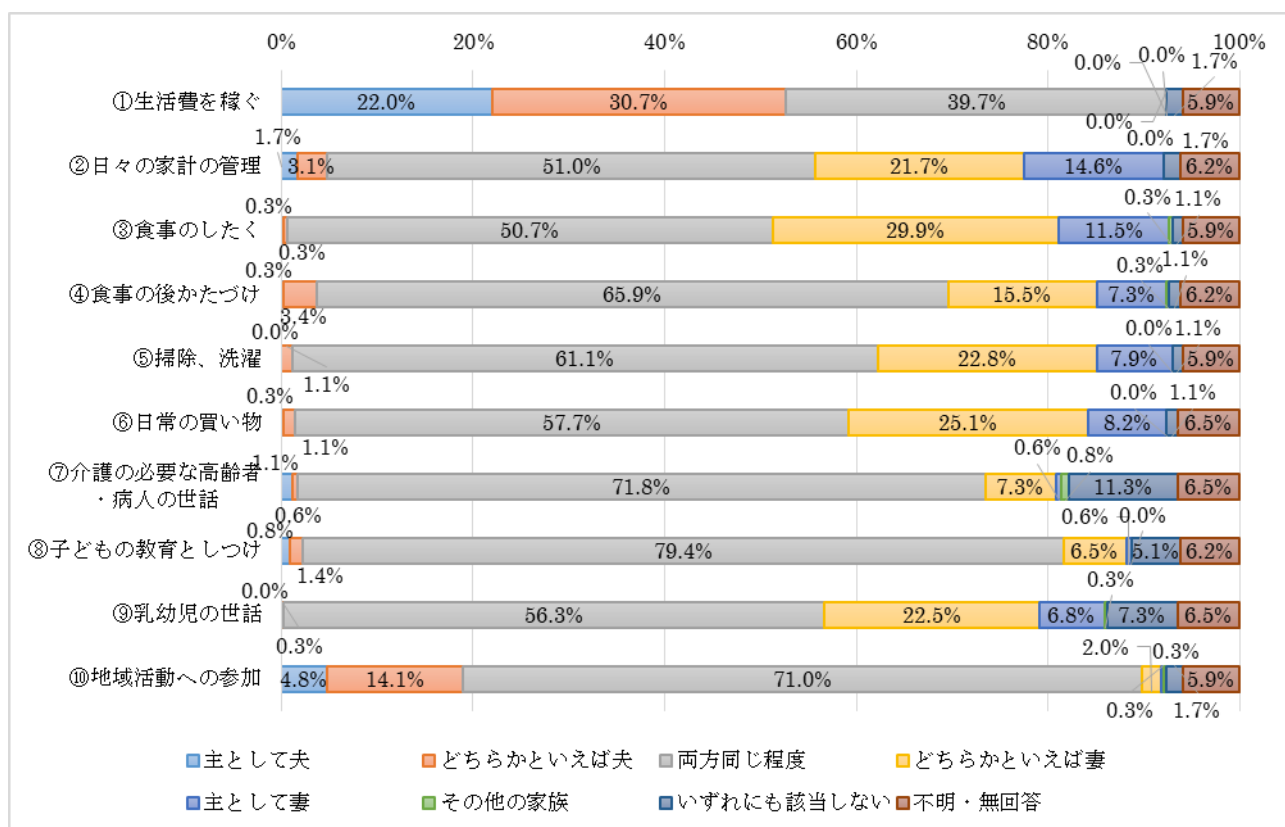
配偶者のいない方は、【理想】のみお答えください。（それぞれ1つに○）

（一部変更） ※今回調査は【現状】を追加

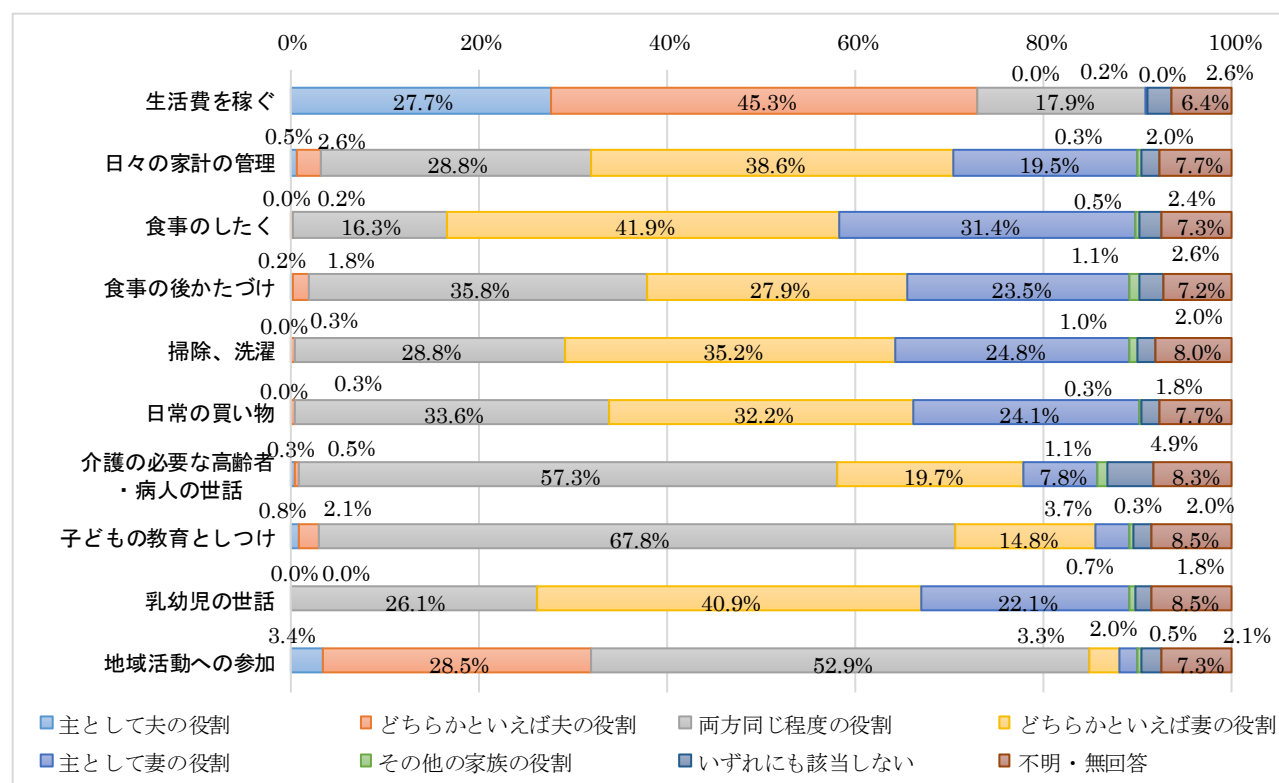
【図 30-1】全体的現状



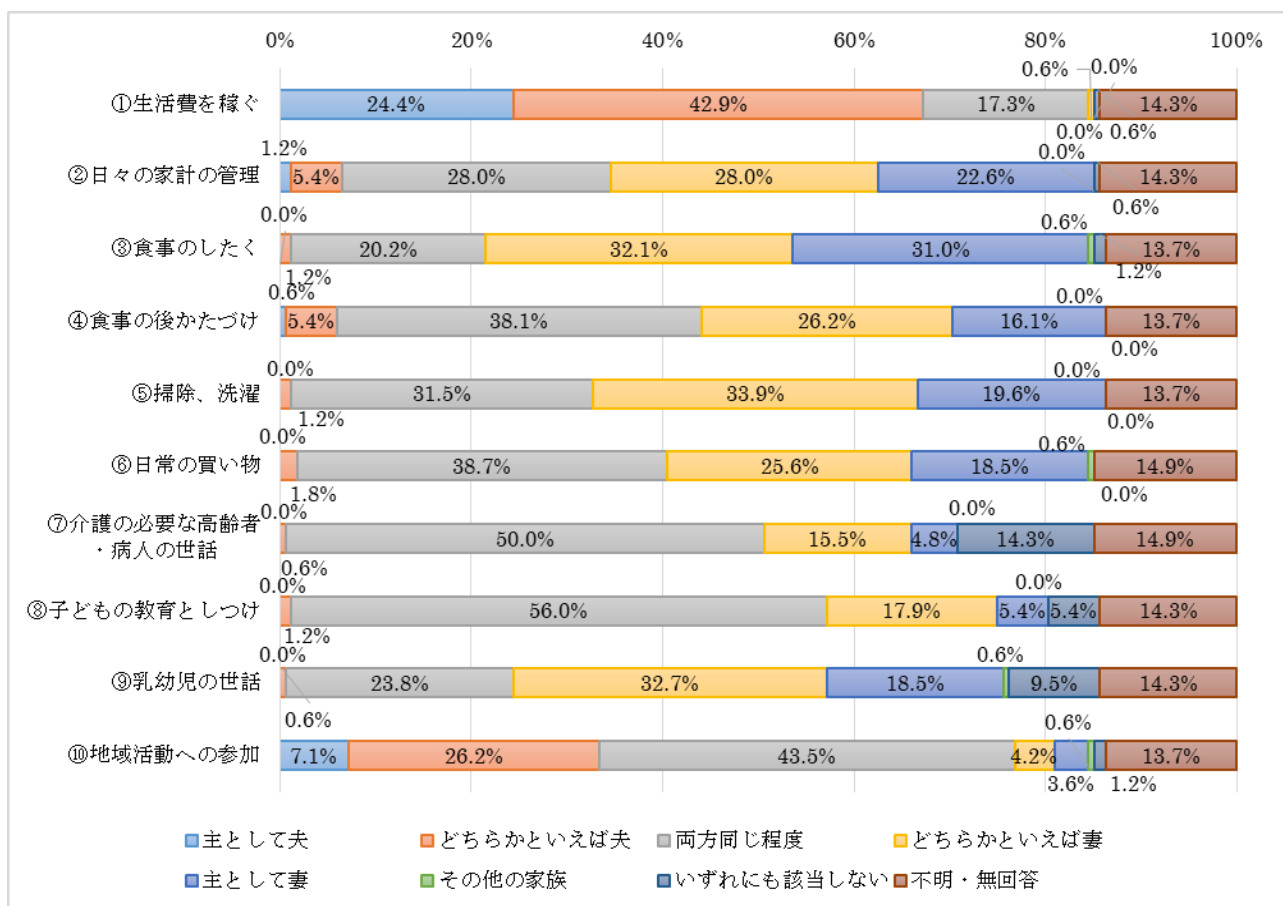
【図 30-2】全体理想



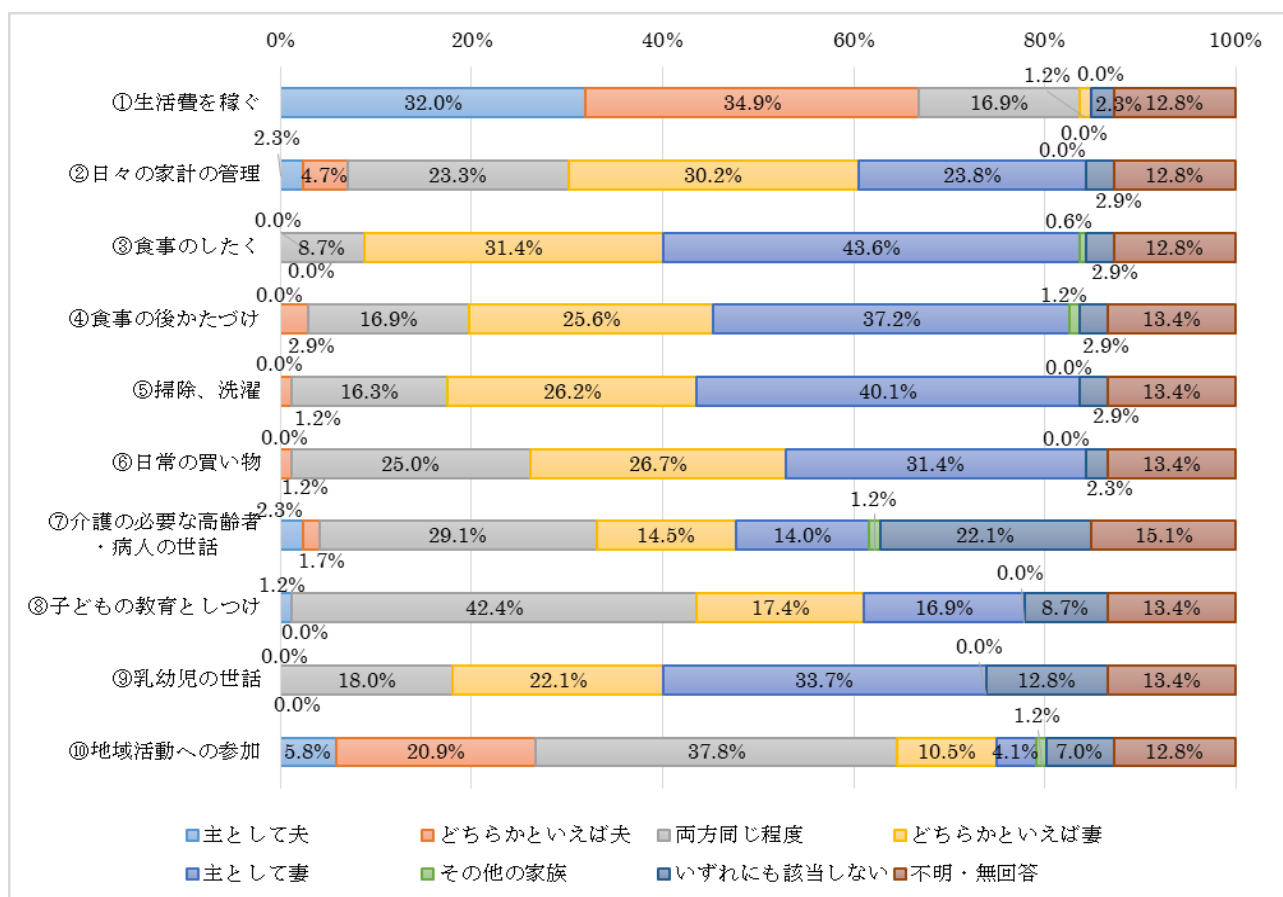
【図 30-3】前回調査（理想）



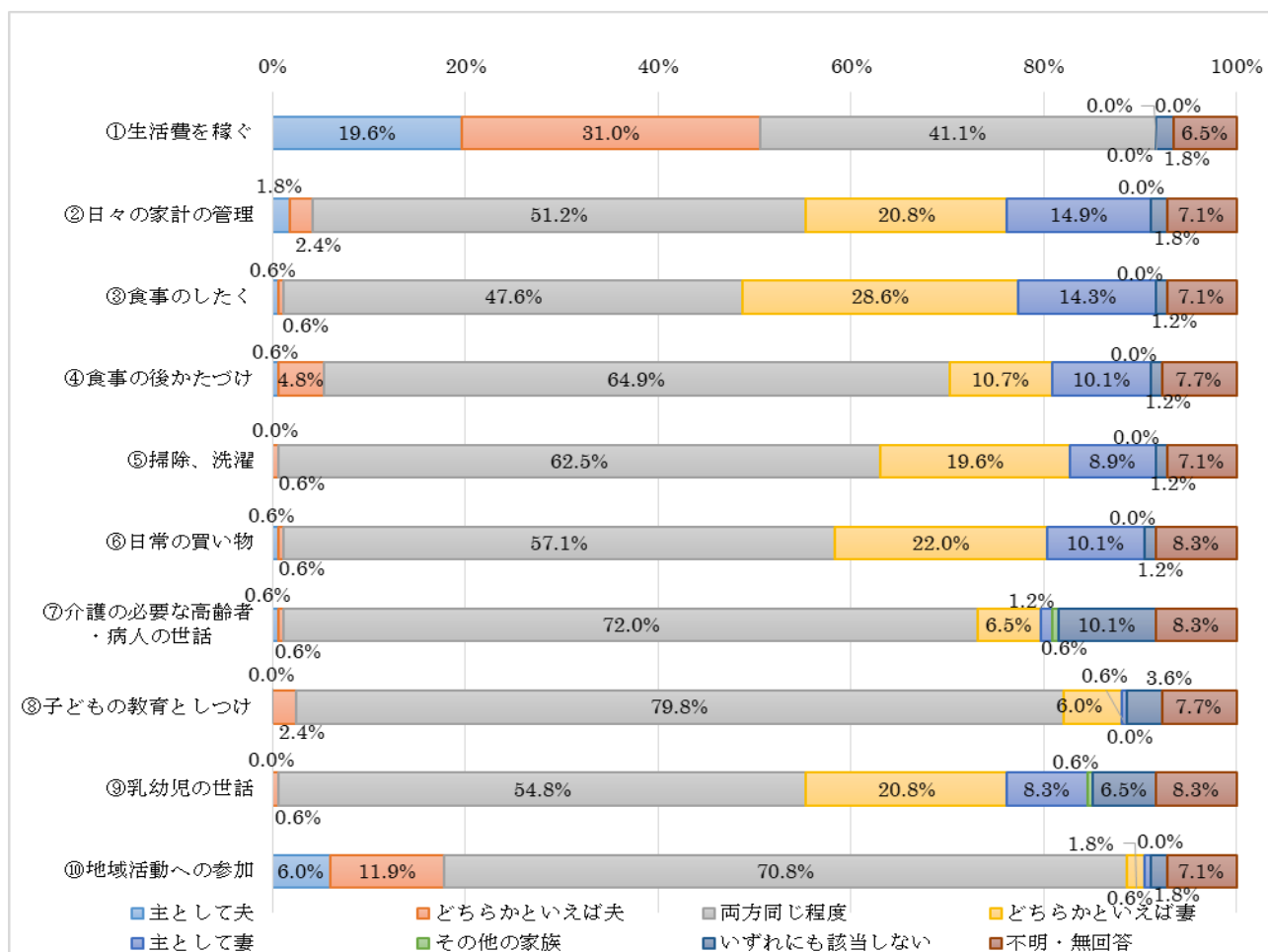
【図 30-4】 男女別（男性現状）



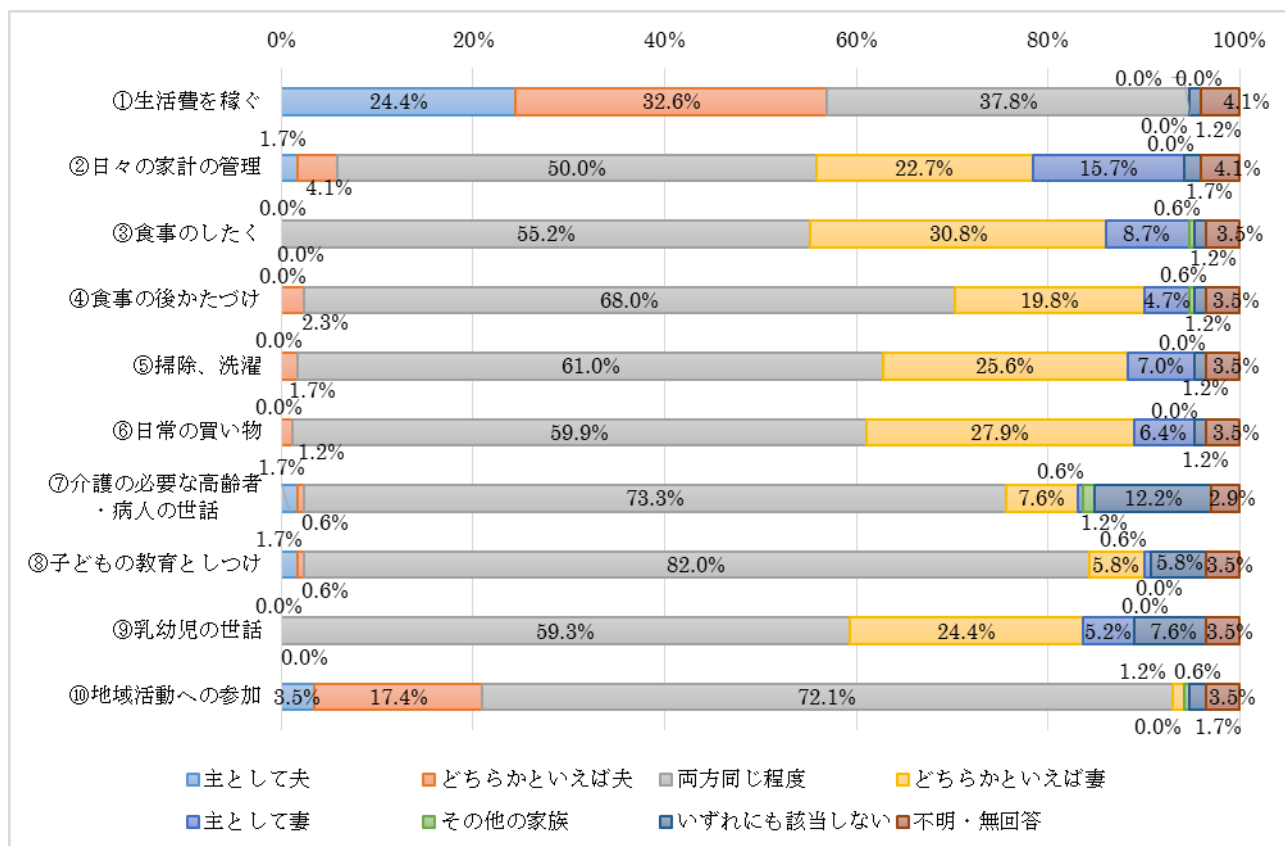
【図 30-5】 男女別（女性現状）



【図 30-6】 男女別（男性理想）



【図 30-7】 男女別（女性理想）



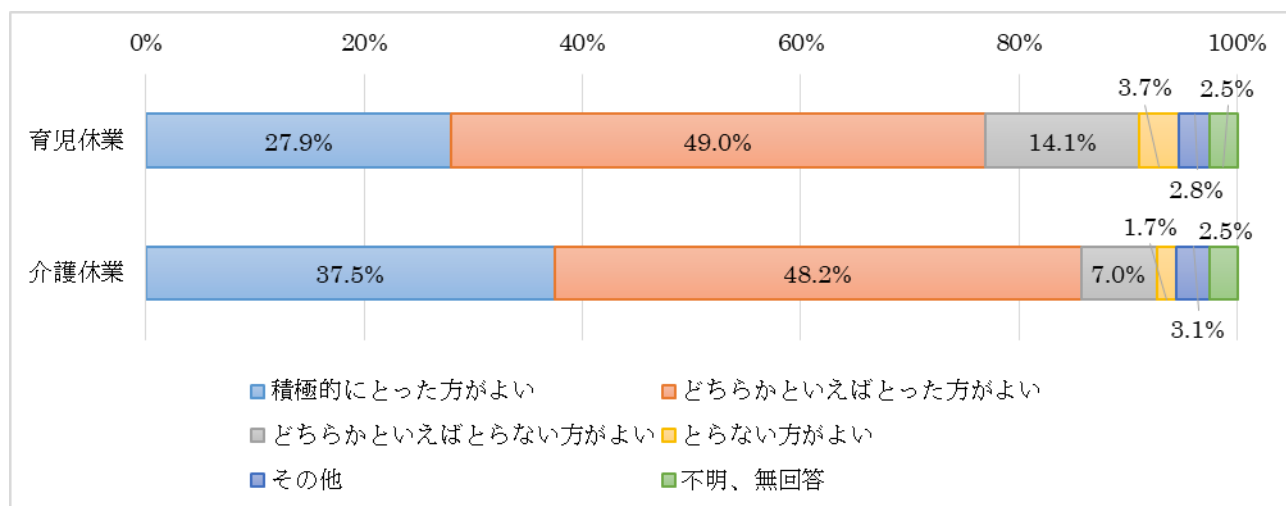
- ◆全体の「現状」をみると、「生活費を稼ぐ」では、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の割合」を合わせた割合は、66.2%となっている。逆に、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の割合」を合わせた割合が50%を超えている項目は、「日々の家計の管理」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「掃除、洗濯」、「日常の買い物」、「乳幼児の世話」となっている。また、各項目で最も多い数値となった回答が「両方同じ程度の役割」であった項目は、「日常の買い物」、「介護の必要な高齢者・病人の世話」、「子どもの教育としつけ」、「地域活動への参加」となっている。
- ◆全体の「理想」をみると、すべての項目において、「両方同じ程度の役割」が最も多い割合となっており、「理想」と「現状」に差がみられる。
- ◆男女別に「現状」をみると、男性は、多くの項目で「両方同じ程度の役割」が最も多い割合となっているのに対し、女性は、多くの項目で「主として妻の役割」または、「どちらかといえば妻の役割」が最も多い割合となっており、男女間で差があるという結果になっている。
- ◆男女別に「理想」をみると、「生活費を稼ぐ」の項目については、男性、女性ともに「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の割合」が多くなっているものの、すべての項目で、「両方同じ程度の役割」が最も多くなっている。また、家事・育児に関する項目では、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の割合」と回答した人の割合が多くなっているが、男女で大きな差はなかった。
- ◆県の調査（現実）では、「主に夫（男性）」と「主に夫（男性）だが、妻（女性）も分担」を合わせた割合が高い項目は、「生活費を稼ぐ」78.3%、「地域活動への参加」43.8%となっている。一方、「主に妻（女性）」と「主に妻（女性）だが、夫（男性）も分担」を合わせた割合が高い項目は、「食事のしたく」、「掃除・洗濯」、「日常の買い物」、「食事の後かたづけ」、「育児」となっており、市、県ともに同じ傾向になっている。

6. 男性の参画について

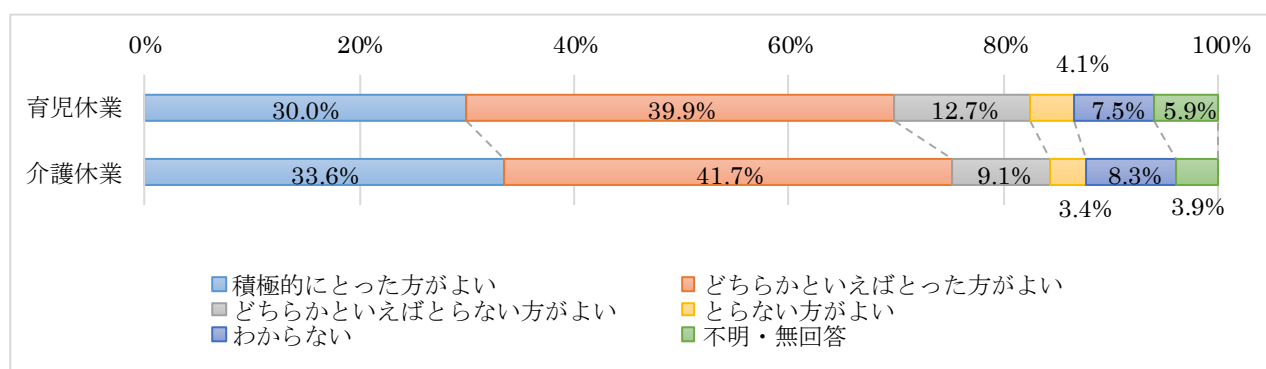
(1) 男性が育児・介護休業を取得すること

問 3 1 育児や家族介護を行うために育児休業や介護休業を取得できる制度がありますが、あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

【図 31-1】



【図 31-2】 前回調査

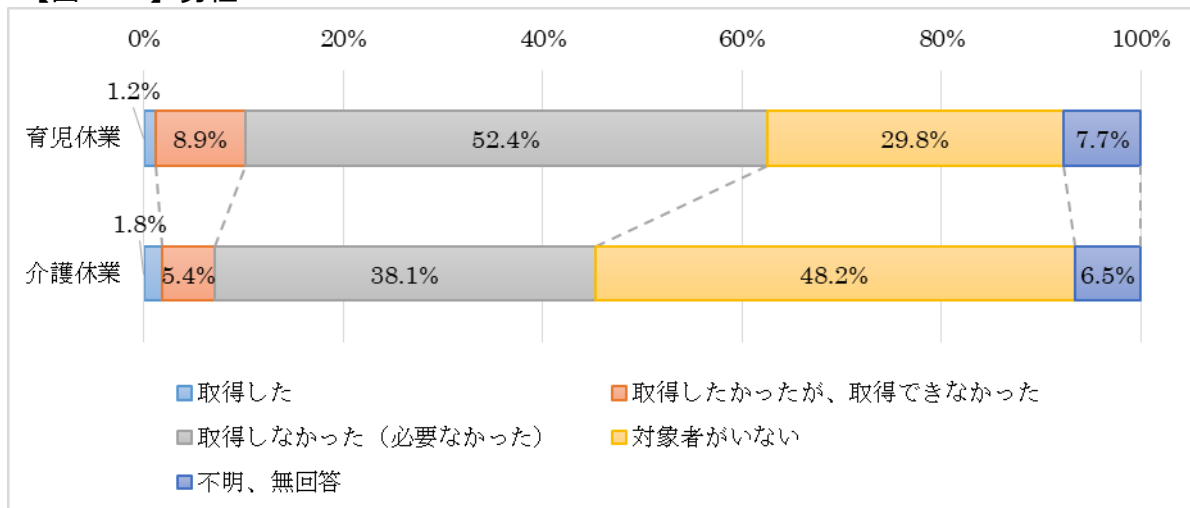


- ◆「育児休業」は、「積極的にとった方がよい」と「どちらかといえばとった方がよい」を合わせた肯定的な回答は、76.9%（前回 69.9%）で、逆に「とらない方がよい」と「どちらかといえばとらない方がよい」を合わせた否定的な回答は、17.8%（前回 16.8%）となっている。
- ◆「介護休業」は、「積極的にとった方がよい」と「どちらかといえばとった方がよい」を合わせた肯定的な回答は、85.7%（前回 75.3%）で、逆に「とらない方がよい」と「どちらかといえばとらない方がよい」を合わせた否定的な回答は、8.7%（前回 12.5%）となっている。
- ◆いずれも多くの人取得に肯定的な回答でしたが、「育児休業」より「介護休業」の方が肯定的な意見が多くなっている。

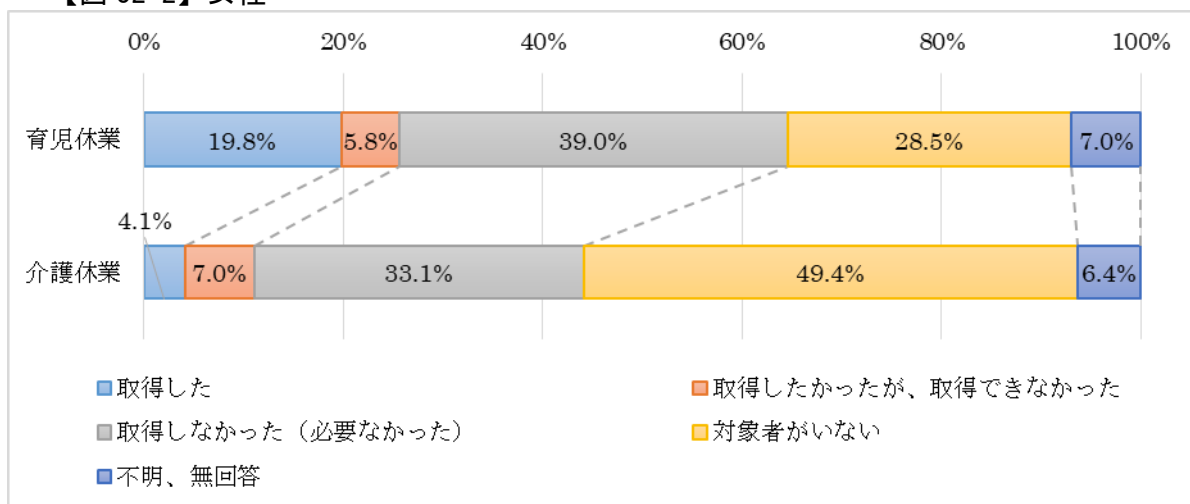
(2) 育児・介護休業の取得

問 3 2 あなた又は配偶者は、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。
配偶者のいない方は、【あなた】のみお答えください。
(それぞれ1つに○) (新規項目)

【図 32-1】 男性



【図 32-2】 女性

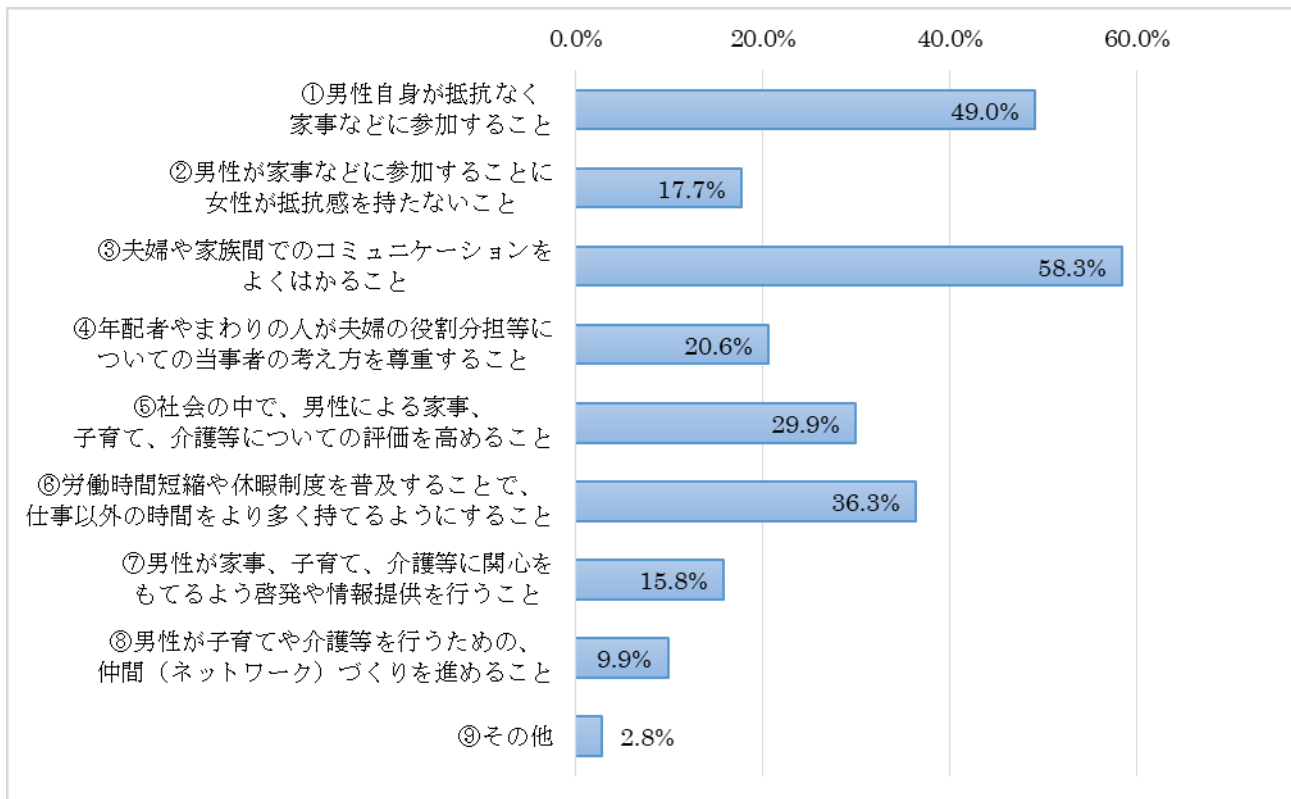


- ◆「育児休業」をみると、「取得した」と回答した人は、男性 1.2%、女性 19.8%で、18%以上の差がみられる。一方、「取得したかったが、取得できなかった」と回答した人は、男性 8.9%、女性 5.8%で、男性の方が多いという結果となっている。
- ◆「介護休業」をみると、「取得した」と回答した人は、男性 1.8%、女性 4.1%であり、男女ともに低い結果となっている。

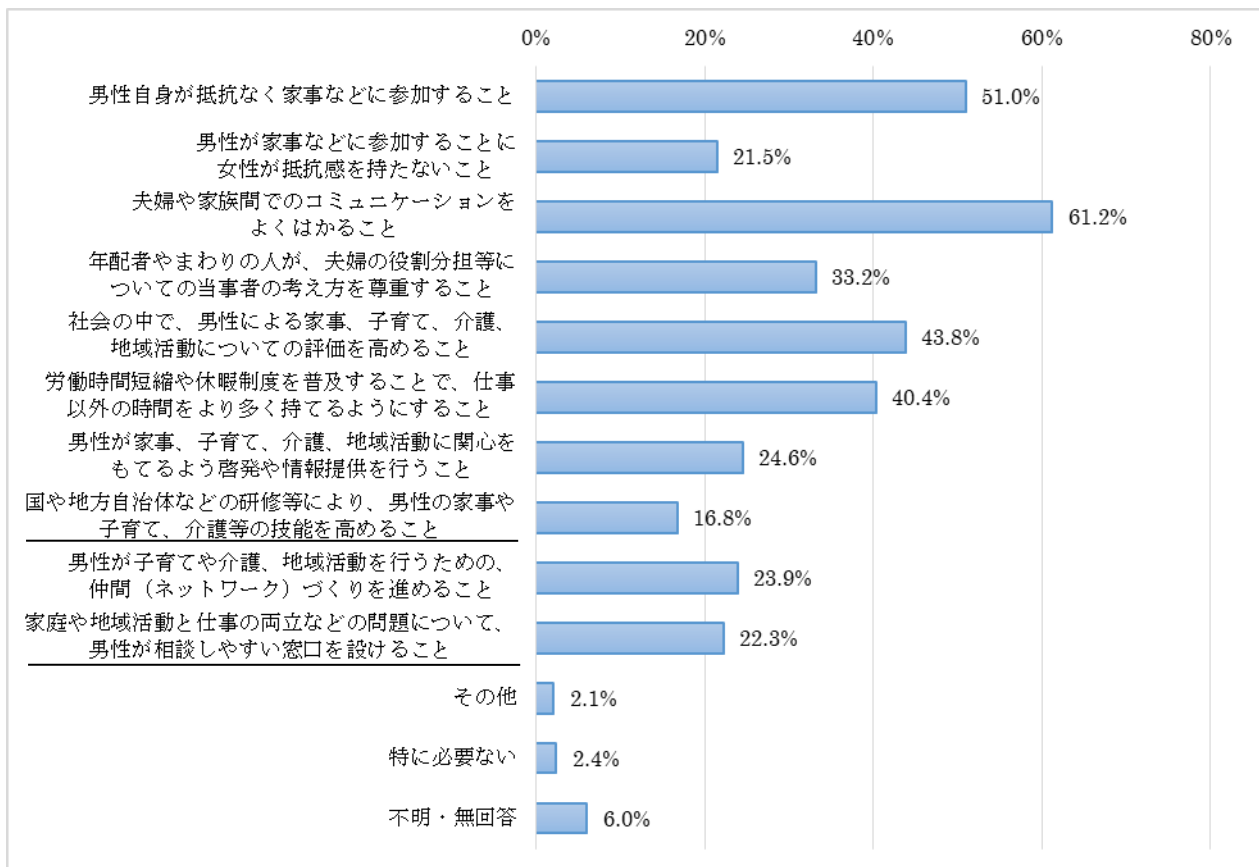
(3) 男性が家事、育児、介護などに参加するために必要なこと

問 33 あなたは、今後男性が女性とともに家事、子育て、介護などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)
(項目一部変更)

【図 33-1】



【図 33-2】 前回調査（〇はいくつでも）



※今回調査では、前回調査の「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」「家庭や地域と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」を削除した。

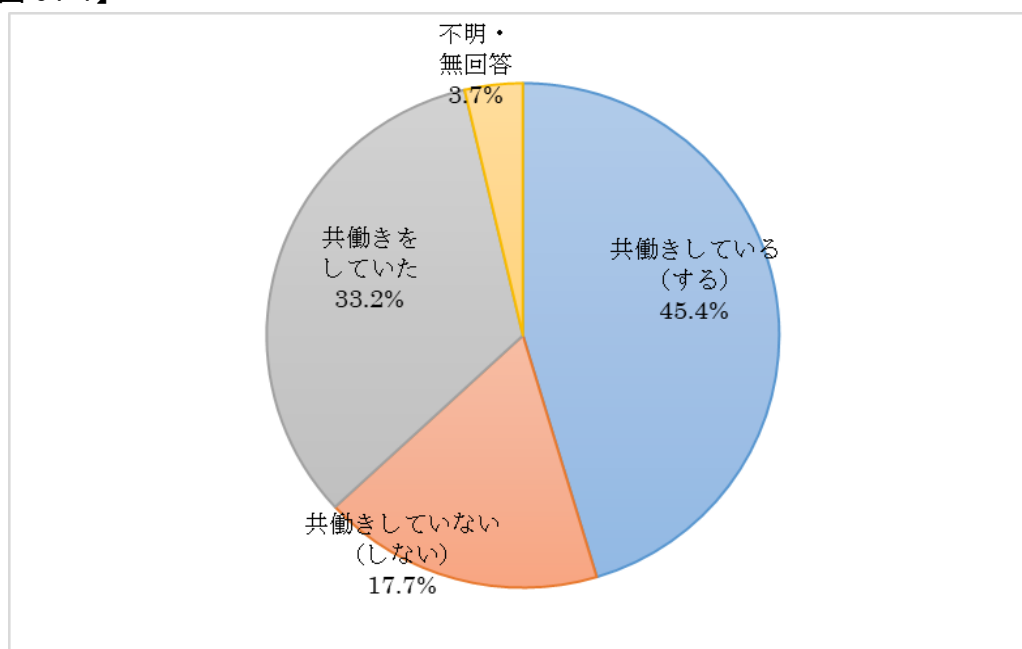
◆「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が58.3%で最も多く、次いで「男性自身が抵抗なく家事などに参加すること」が49.0%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が36.3%となっている。

7. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

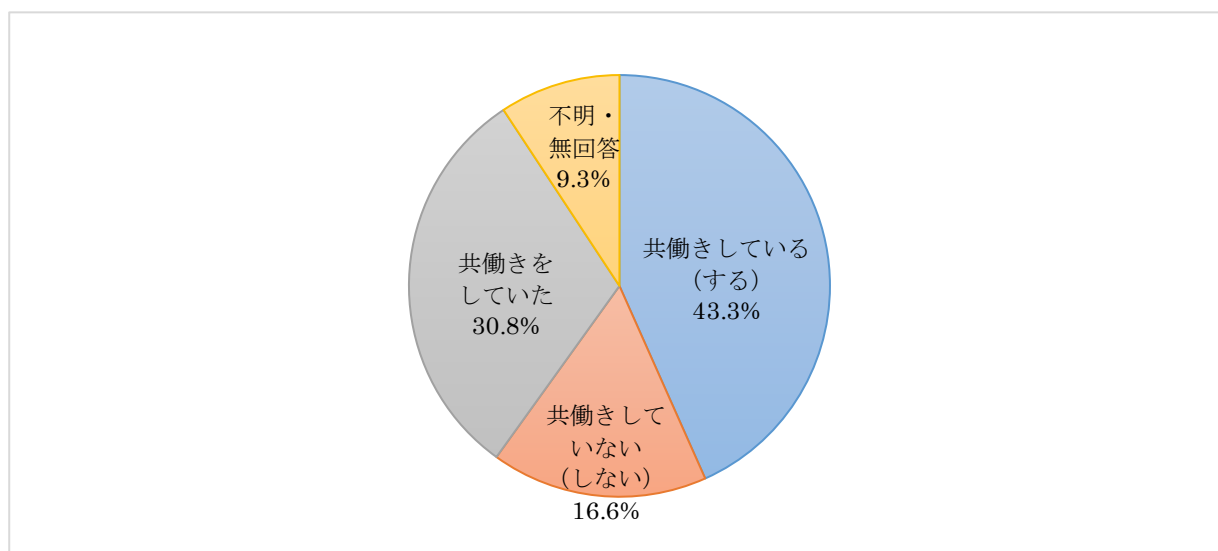
(1) 共働きしている（する）か

問 34 共働きの有無（結婚していない方は結婚したらどうしますか。）（1つに○）

【図 34-1】



【図 34-2】 前回調査



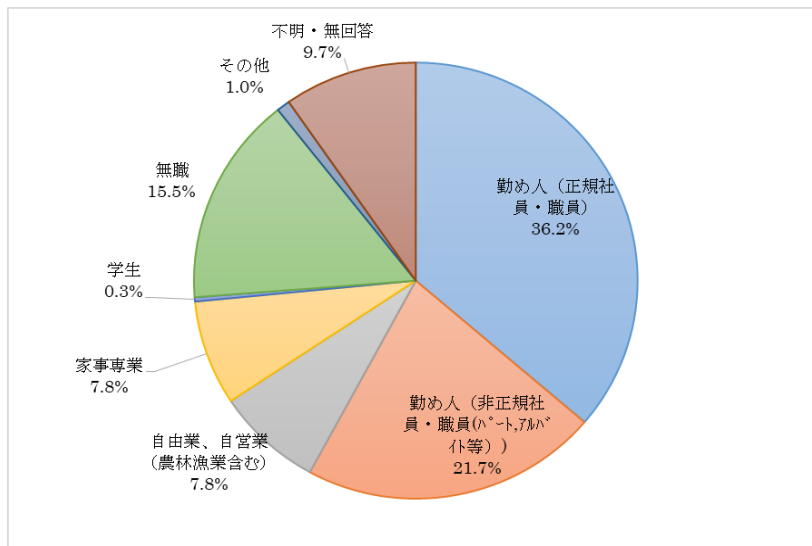
◆「共働きしている（する）」と「共働きしていた」を合わせると、78.6%の人が共働きの経験があるか、共働きたいという意識があることがわかった。

(2) 配偶者の職業

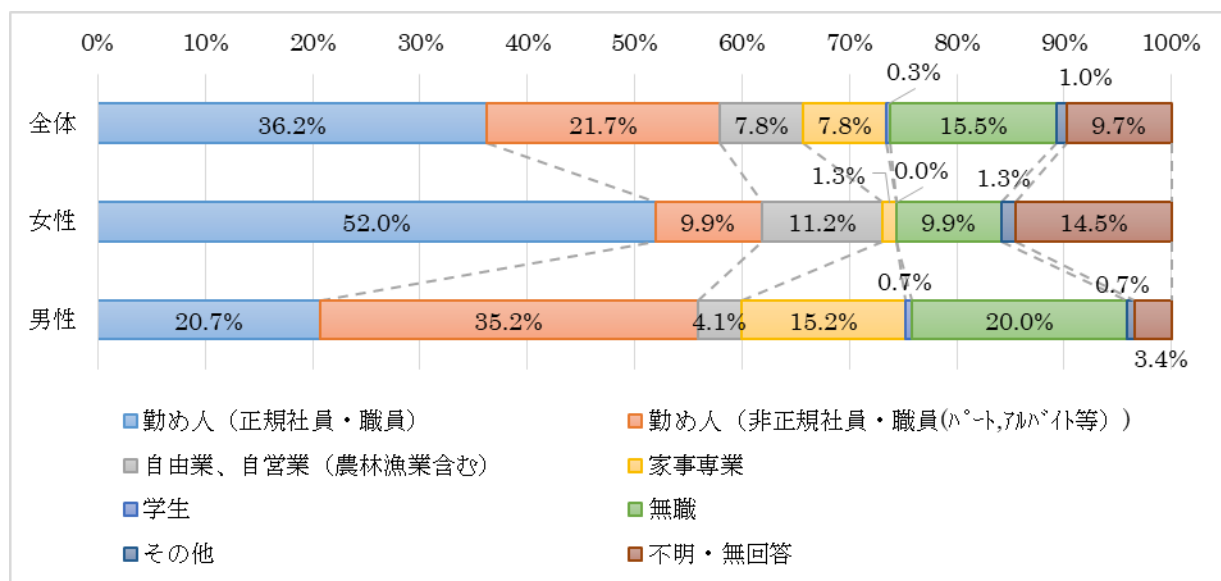
問 35 配偶者（またはパートナー）がいる方にお聞きします。

あなたの配偶者（またはパートナー）の職業は。（1つに○）

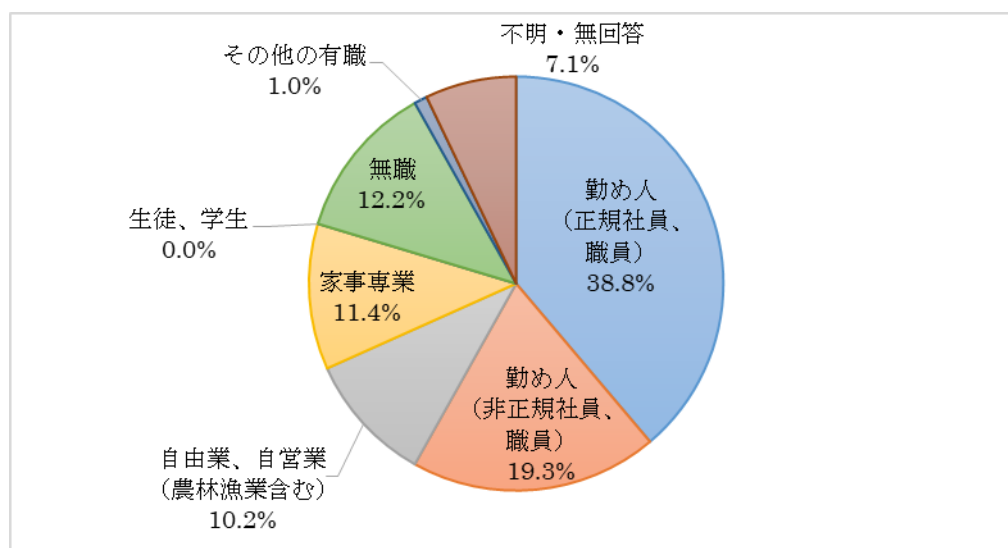
【図 35-1】



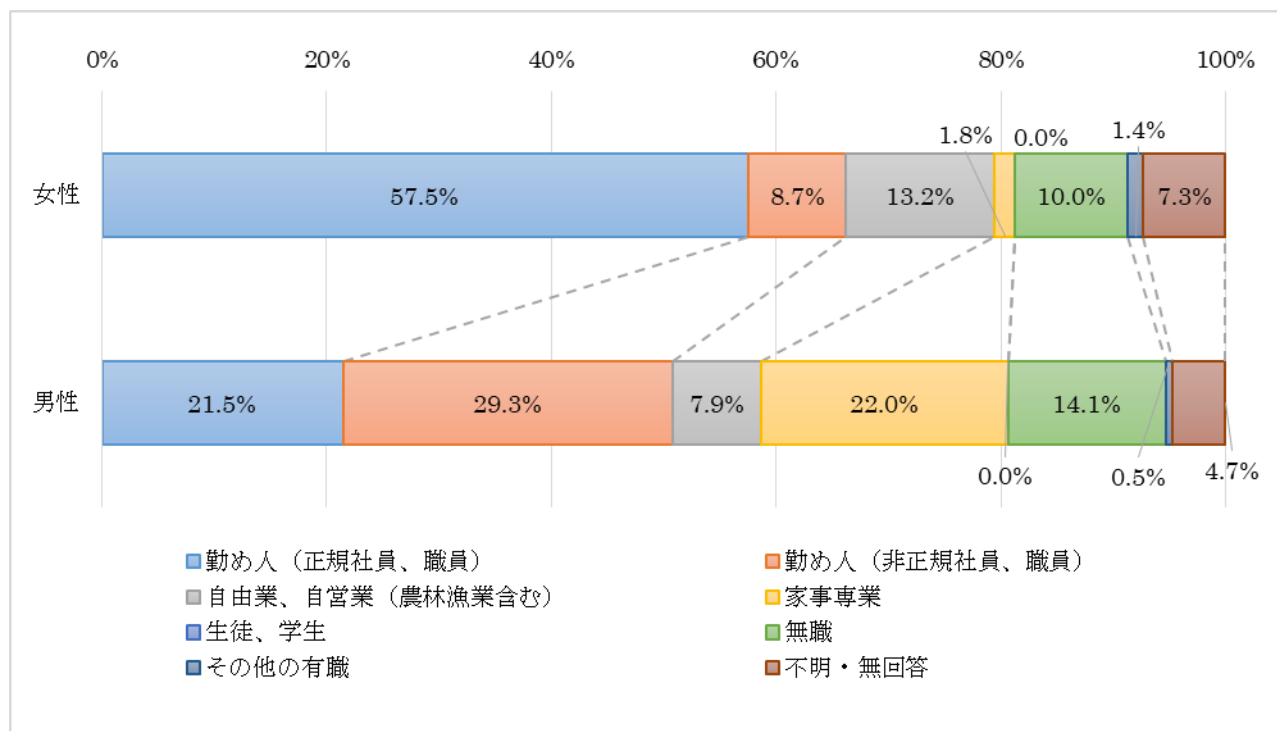
【図 35-2】 男女別



【図 35-3】 前回調査



【図 35-4】 前回調査 男女別

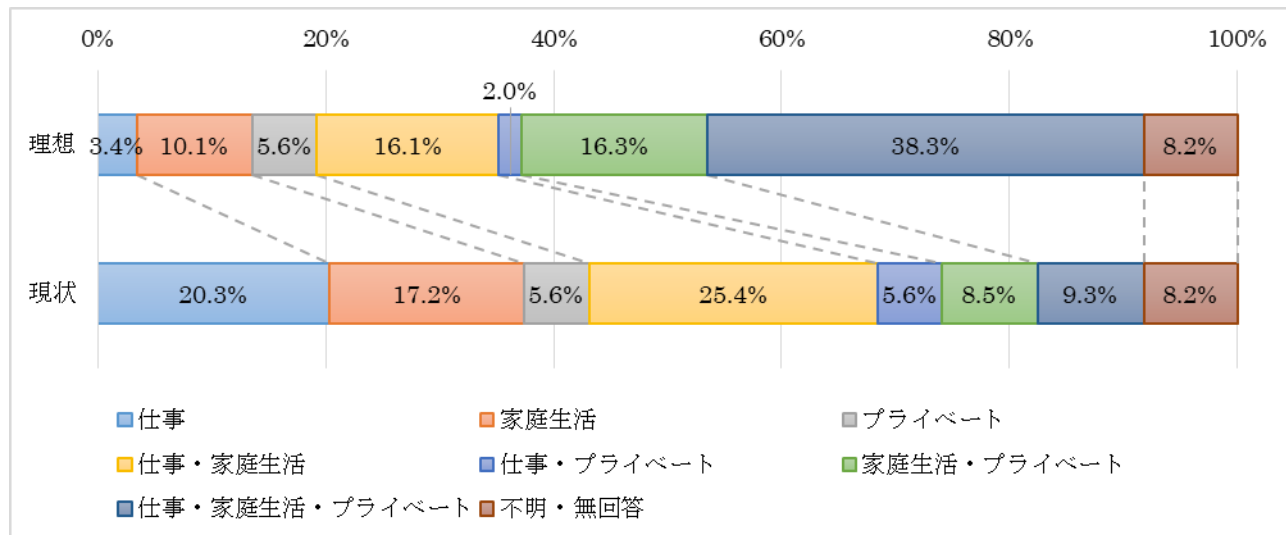


- ◆全体で最も多かった回答は、「勤め人（正規社員、職員）」が 36.2%で最も多く、次いで「勤め人（非正規社員、職員（臨時・パート・アルバイト等）」が 21.7%と続いている。
- ◆男女別にみると、女性の配偶者は「勤め人（正規社員、職員）」が 52.0%となっているものの、男性の配偶者で最も多いのは「勤め人（非正規社員、職員（臨時・パート・アルバイト等）」で 35.2%となっており、男女で差がみられる。

(3) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「プライベートな時間」の優先度

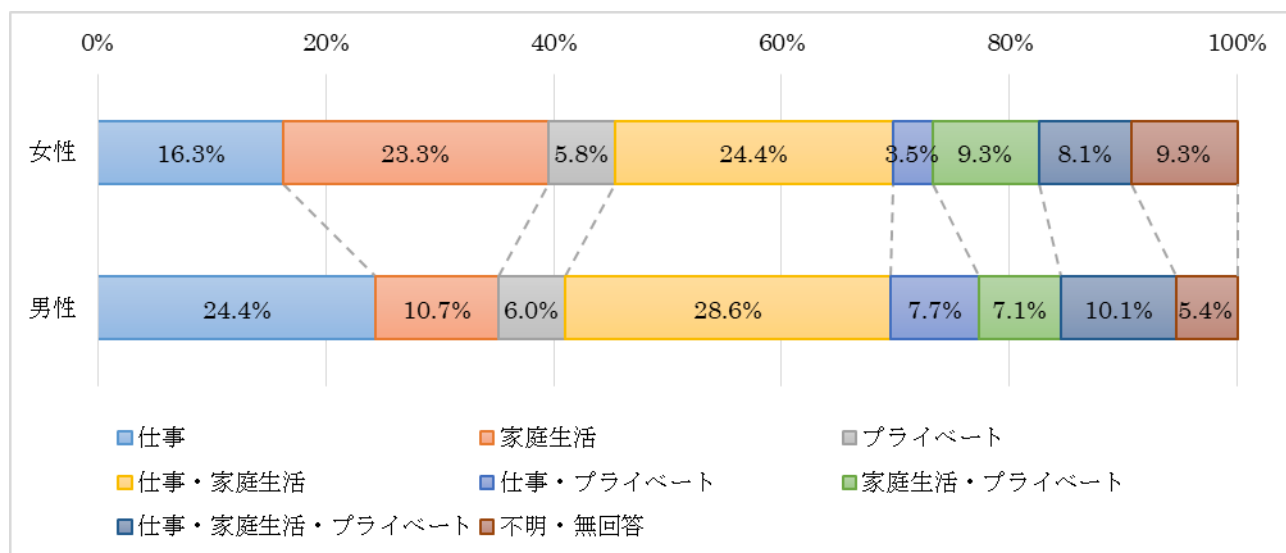
問 36 「仕事」、「家庭生活」、「プライベートな時間」の優先度について、あなたの【現状】の優先度と、【理想】の優先度をお答えください。
(それぞれ1つに○) (項目一部変更)

【図 36-1】

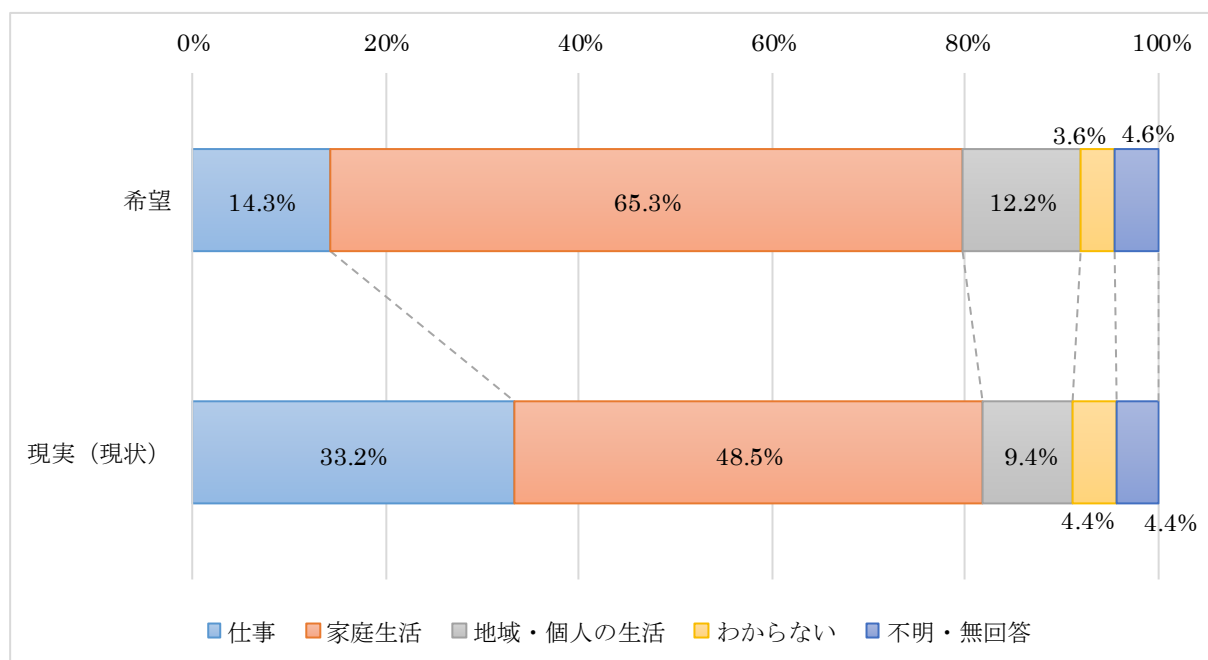


※今回調査では、前回調査の「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の単独の選択肢だけでなく、それぞれの組み合わせパターンも選択肢として追加した。

【図 36-2】男女別（現状）



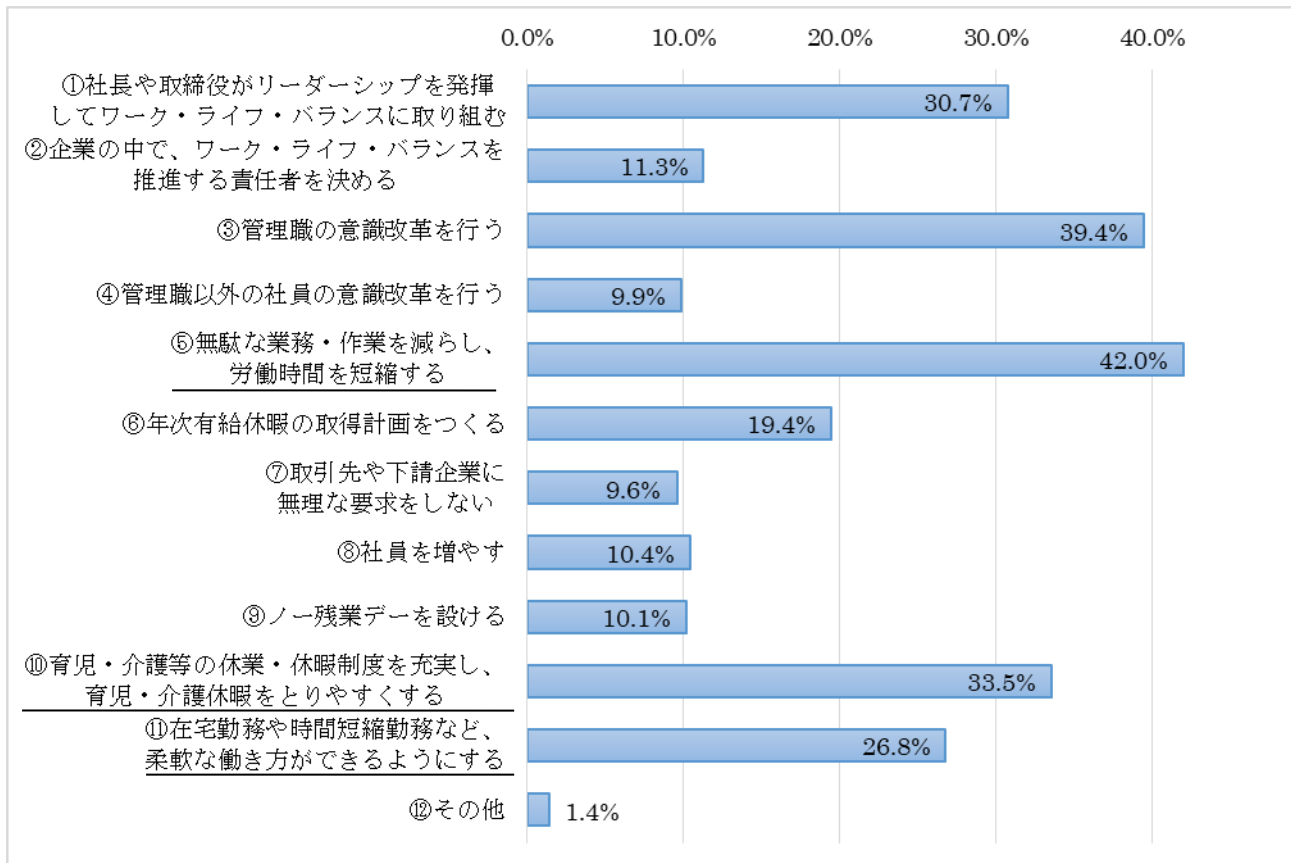
【図 36-3】 前回調査



- ◆「理想」をみると、「仕事・家庭生活・プライベート」が 38.3%で最も多く、次いで、「家庭生活・プライベート」が 16.3%、「仕事・家庭生活」が 16.1%となっている。一方、「現実（現状）」をみると、「仕事・家庭生活」が 25.4%、「仕事」20.3%、「家庭生活」が 17.2%となっており、「理想」と「現状」には、大きな差がみられる。
- ◆男女別に「現状」をみると、男女ともに「仕事・家庭」と回答した人の割合が最も多く、2 番目に多い回答は、男性は「仕事」で、女性は「家庭」となっている。

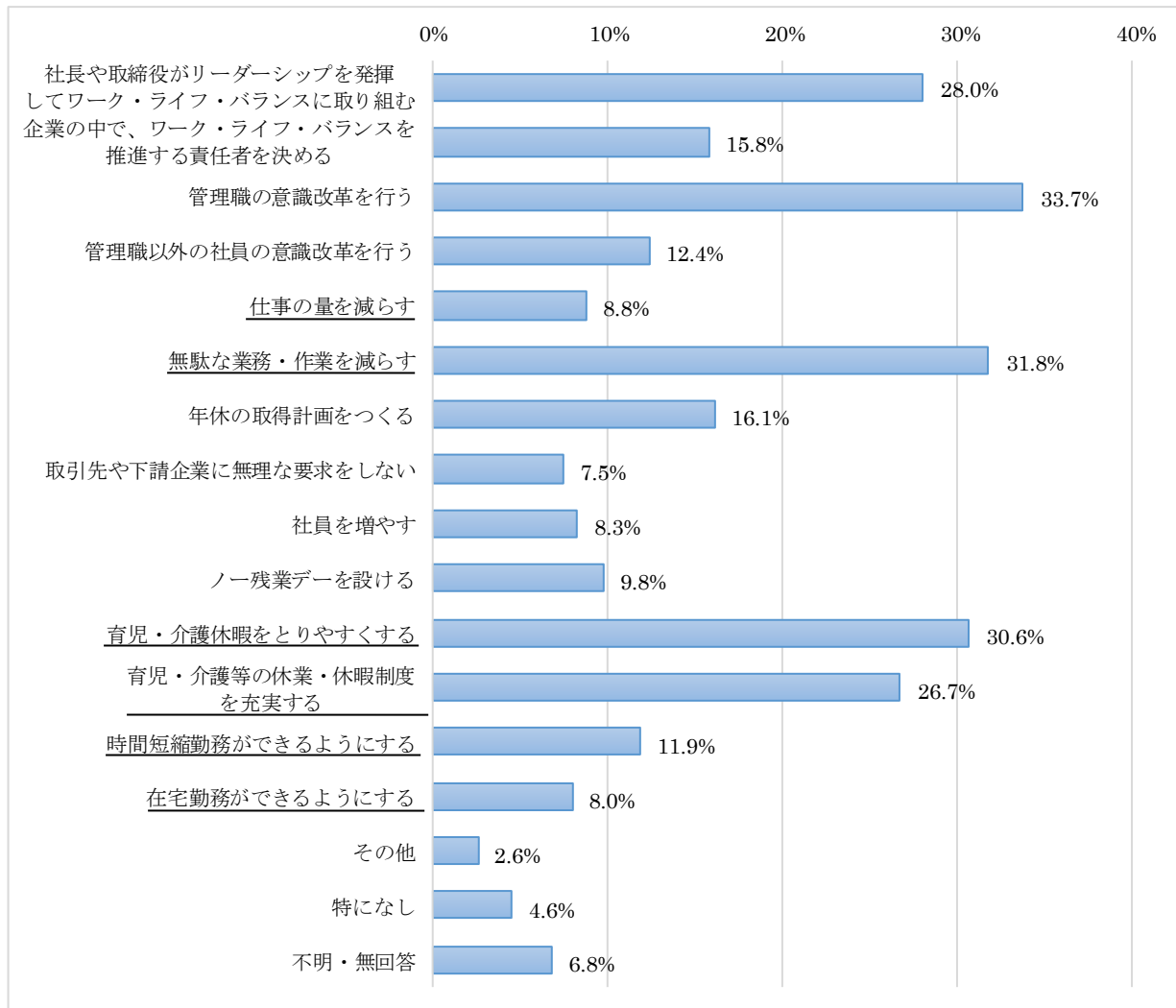
- (4) 仕事と生活の調和がとれる生活（ワーク・ライフ・バランス）の取組で必要なこと
- 問 37 「仕事と生活の調和がとれる生活（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくために、企業による取り組みと行政による取り組みが考えられますが、あなたはそれぞれどのような取組が必要だと思われますか。あなたのお考えに近い番号を選んでください。 （項目一部変更）

【図 37-1】企業による取り組み（○は3つまで）



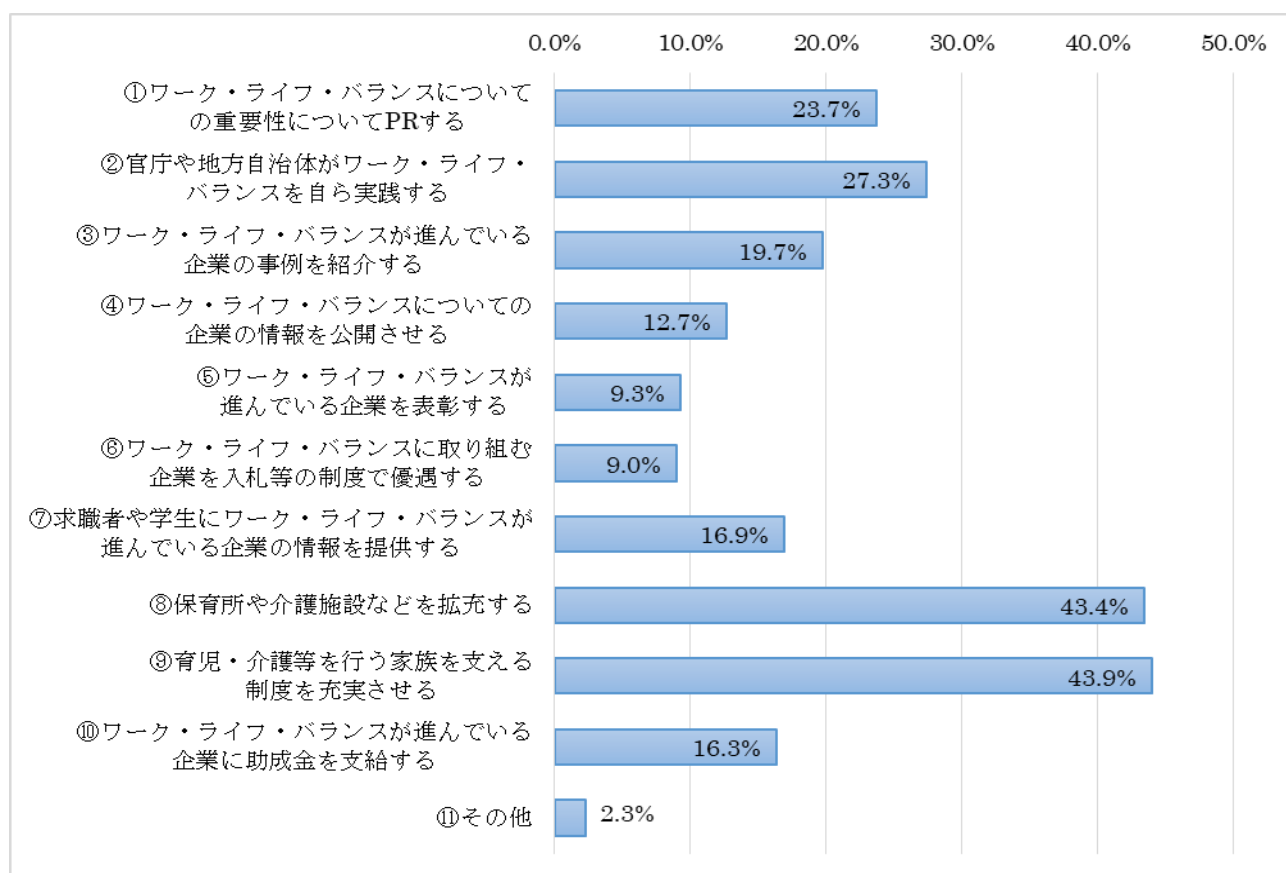
※今回調査では、前回調査の設問項目の一部を統合した。

【図 37-2】 前回調査（企業による取組）

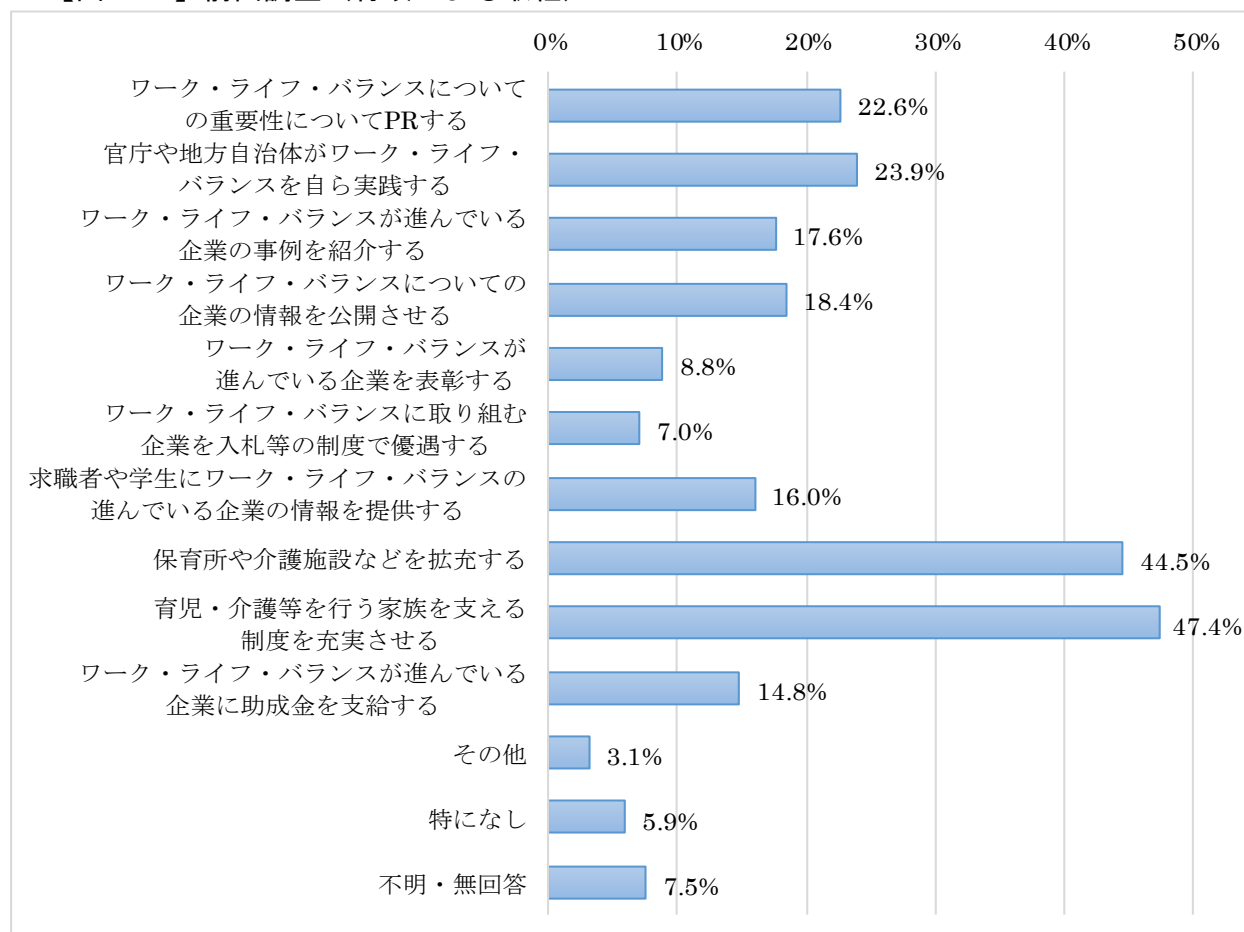


- ◆「企業による取り組み」では、「無駄な業務・作業を減らし、労働時間を短縮する」が42.0%で最も高く、次いで「管理職の意識改革を行う」が39.4%、「育児・介護等の休業・休暇制度を充実し、育児・介護休暇をとりやすくする」が33.5%となっている。
- ◆県の調査では、「管理職の意識改革を行う」が45.5%で最も高く、次いで「無駄な業務・作業をなくし、労働時間を短縮する」が42.2%、「育児・介護等の休業・休暇を充実し、育児休業・介護休業を取りやすくする」が41.0%となっており、市、県ともにほぼ同じような傾向になっている。

【図 37-3】 行政による取り組み（〇は3つまで）



【図 37-4】 前回調査（行政による取組）



- ◆「行政による取り組み」では、「育児・介護等を行う家族を支える制度を充実させる」が43.9%（前回47.4%）で最も高く、次いで「保育所や介護施設などを拡充する」が43.4%（前回44.5%）となっている。

8. 配偶者や恋人・パートナー間での暴力について

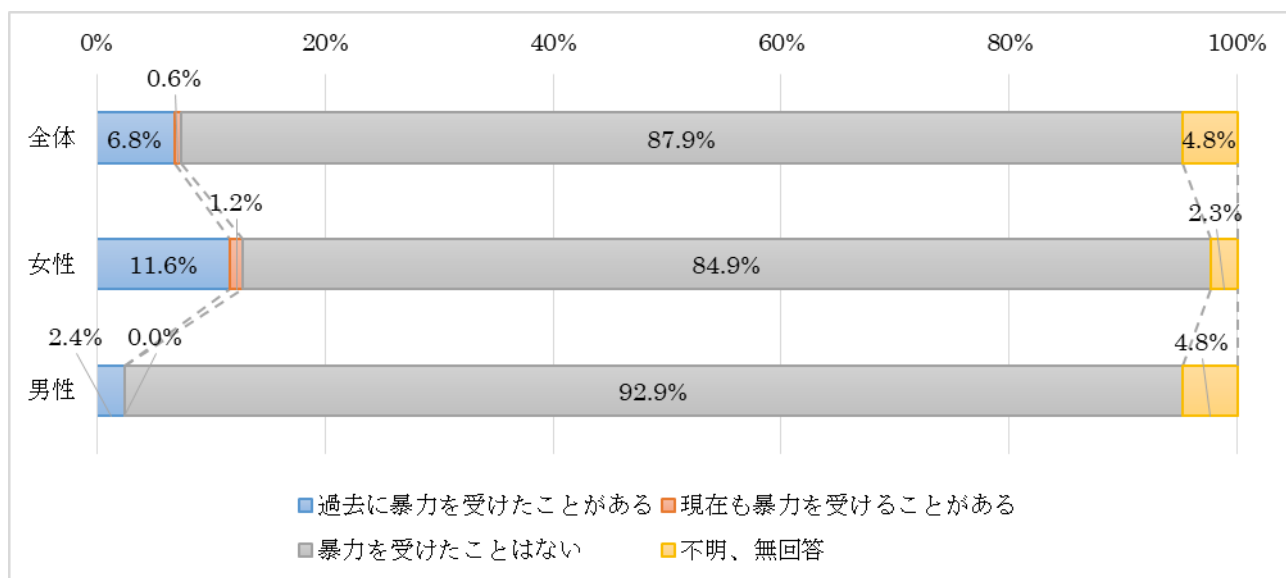
(1) 配偶者や恋人・パートナー間での暴力の経験の有無

問 38 配偶者や恋人など親しい人間関係の中で起こる身体的・心理的・性的な暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）について、あなたは配偶者や恋人・パートナーからの暴力を経験したことがありますか。

（1つに○）

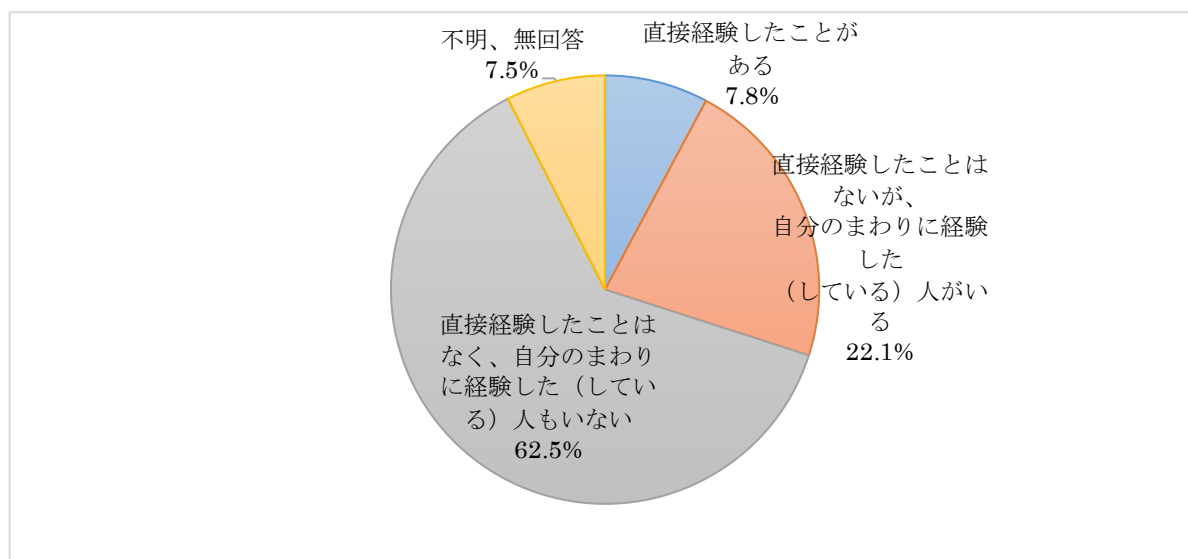
（項目一部変更）

【図 38-1】



※前回調査では、「自身が経験」「まわりの人が経験」「経験なし」であったが、今回調査では、「自身の経験」のみに変更した。

【図 38-2】 前回調査



- ◆全体をみると、過去又は現在、暴力を受けたことがあると回答した人の割合は、7.4%となっている。
- ◆男女別にみると、過去又は現在、暴力を受けたことがあると回答した人の割合は、女性 12.8%、男性 2.4%となっている。

(2) この5年間に経験したDVの内容

問38で「1. 過去に暴力を受けたことがある」「2. 現在も暴力を受けることがある」と回答した人のみ回答

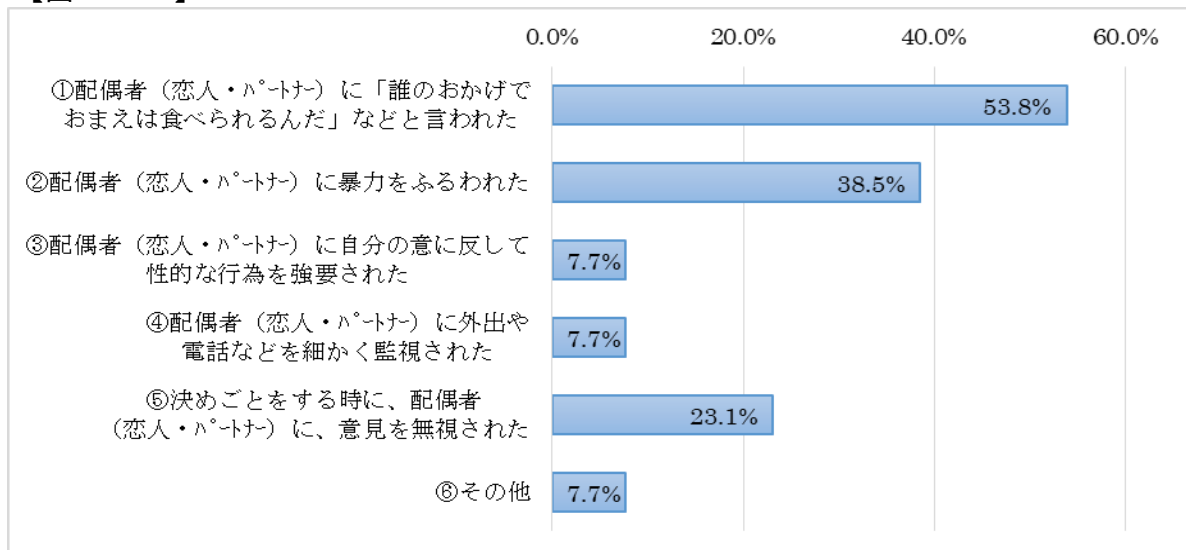
問39-1 配偶者（恋人・パートナー）からの次の行為について、あなたはこの5年間に経験したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 配偶者（恋人・パートナー）に「誰のおかげでおまえは食べられるんだ」などと言われた
2. 配偶者（恋人・パートナー）に暴力をふるわれた
3. 配偶者（恋人・パートナー）に自分の意に反して性的な行為を強要された
4. 配偶者（恋人・パートナー）に外出や電話などを細かく監視された
5. 決めごとをする時に配偶者（恋人・パートナー）に意見を無視された
6. その他（具体的に： ）

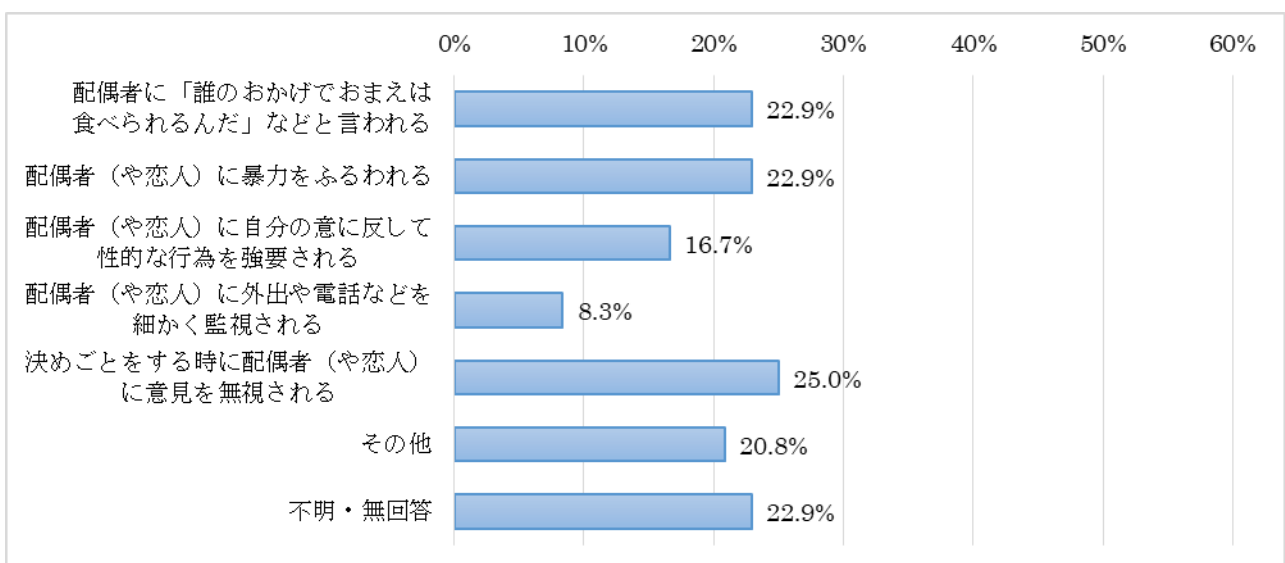
問39-2 そのような時、誰かに相談しましたか。（1つに○）

1. 相談した
2. 相談しなかった（理由： ）

【図 39-1-1】

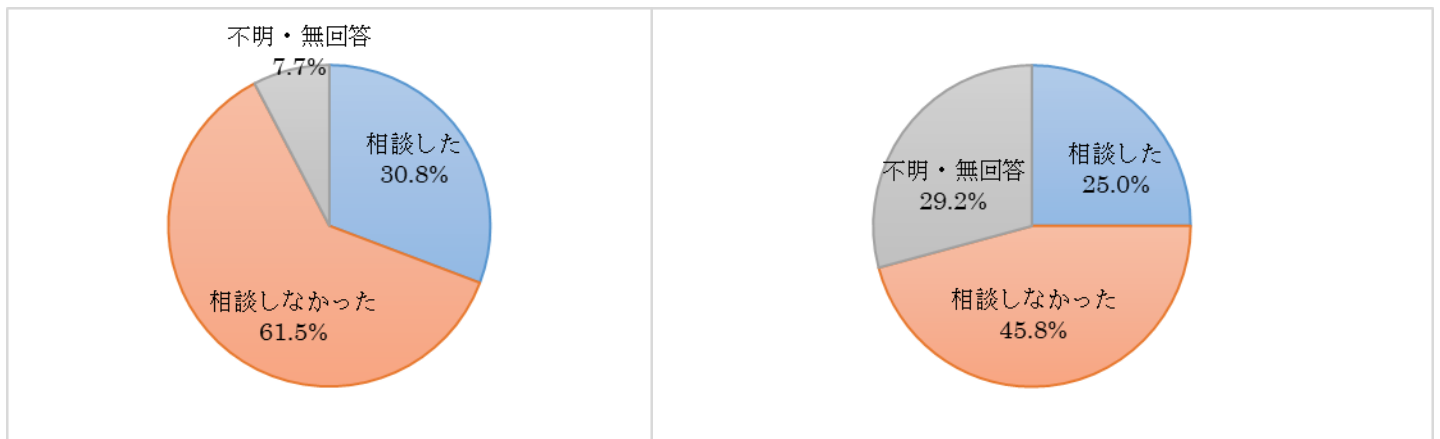


【図 39-1-2】 前回調査



【図 39-2-1】

【図 39-2-2】 前回調査



◆具体的な DV の内容としては、「配偶者（恋人・パートナー）に『誰のおかげでおまへは食べられるんだ』などと言われた」が 53.8%で最も多く、次いで「配偶者（恋人・パートナー）に暴力をふるわれた」が 38.5%、「決めごとをする時に、配偶者（恋人・パートナー）に意見を無視された」が 23.1%となっている。

◆誰かに「相談した」人の割合は、30.8%（前回 25.0%）であるのに対し、「相談しなかった」人の割合は、61.5%（前回 45.8%）と、相談しなかった人の割合の方が高くなっている。

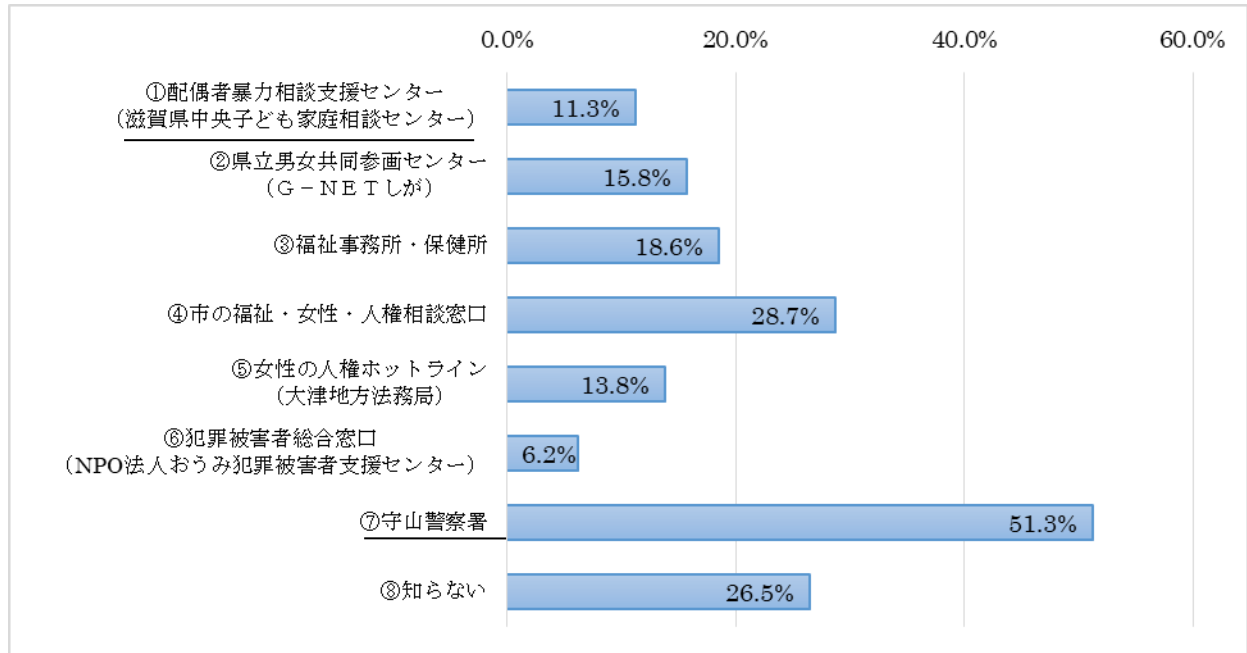
◆相談しなかった理由は、以下のとおり（内容は原文のまま掲載）

- ・福祉の人、保健婦も信頼出来る人がいない為 （女性）
- ・一時的だったから（女性）
- ・ささいな夫婦ゲンカ（女性）
- ・いつものことだから、気にしない。（女性）
- ・しゅと、しゅとめがこわかった（女性）
- ・改善みこめないから（女性）
- ・発言が軽度な内容（だが今でも覚えてる!）（女性）
- ・はずかしいと思ったから（男性）
- ・自分で解決に努力し自然と解決（男性）
- ・仕方ないと思う（女性）
- ・昔の人間だから、何を言ってもかえって後が大変になる。相談する人がいなかった。（女性）

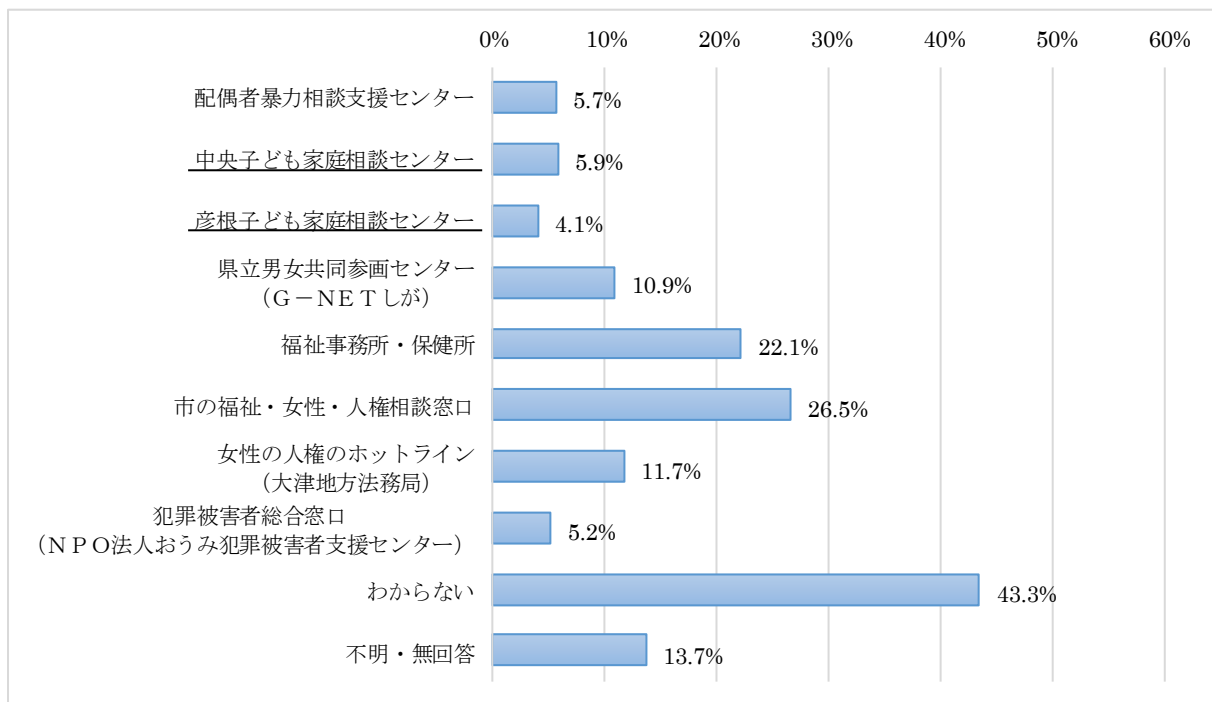
(3) DVを受けたときに相談できる機関の周知度

問 40 あなたは、夫婦や恋人の間で相手から暴力を受けたときに相談できる下記の機関を知っていますか。(知っているものすべてに○) (項目一部変更)

【図 40-1】



【図 40-2】 前回調査



※今回調査では、前回調査の選択肢の一部を削除・統合し、新たに、「守山警察署」を選択肢に追加した。

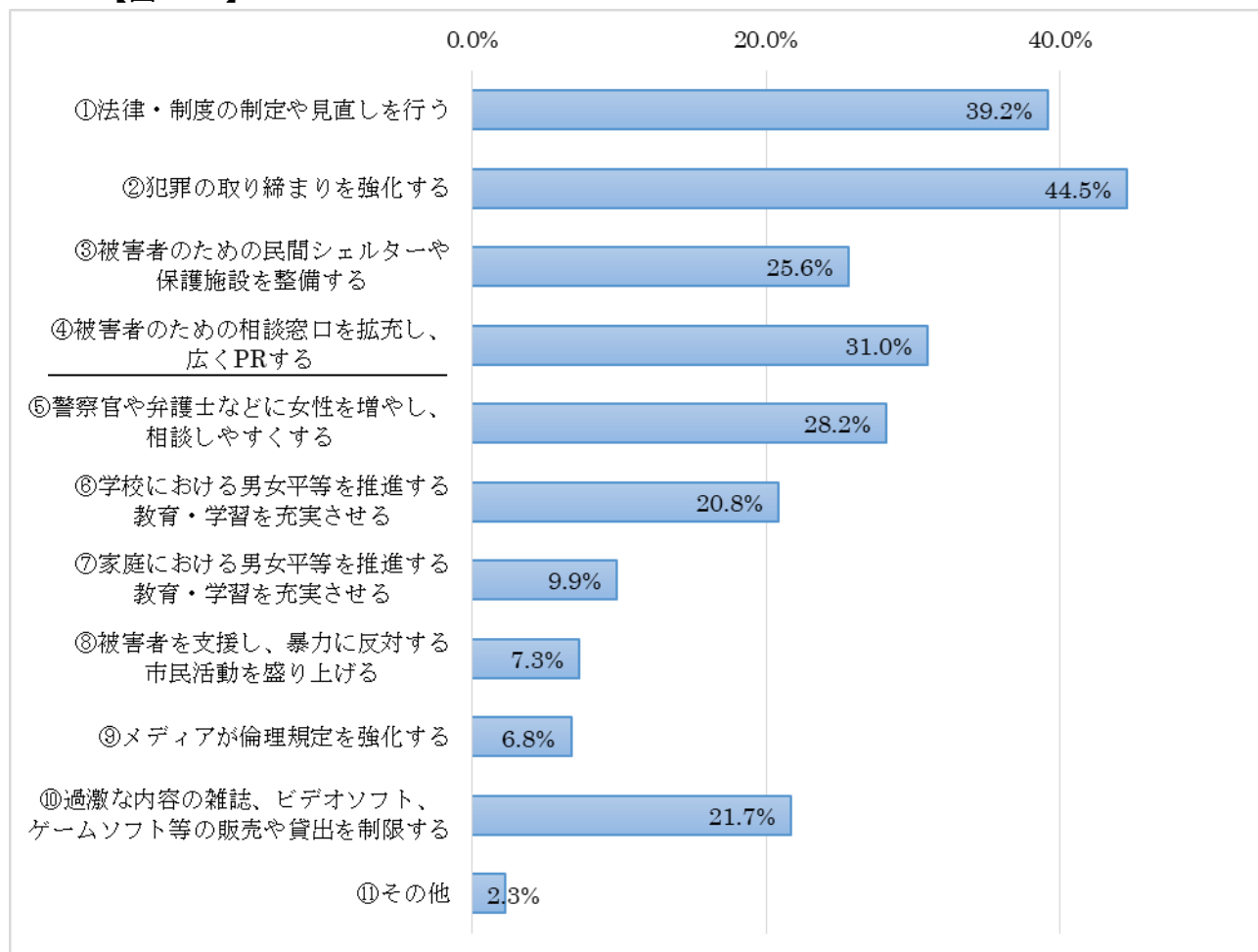
◆最も多いのが「守山警察署」で 51.3%、次いで「市の福祉・女性・人権相談窓口」が 28.7%となっており、他の項目より多い割合となっている。また、「知らない」と回答した人は 26.5%（前回 43.3%）となっており、4人に1人はどこに相談してよいのかわからないという状況になっている。

(4) 女性に対する暴力をなくすためには

問 4 1 性犯罪、売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、DV（ドメスティック・バイオレンス）、セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）、ストーカー行為等、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。

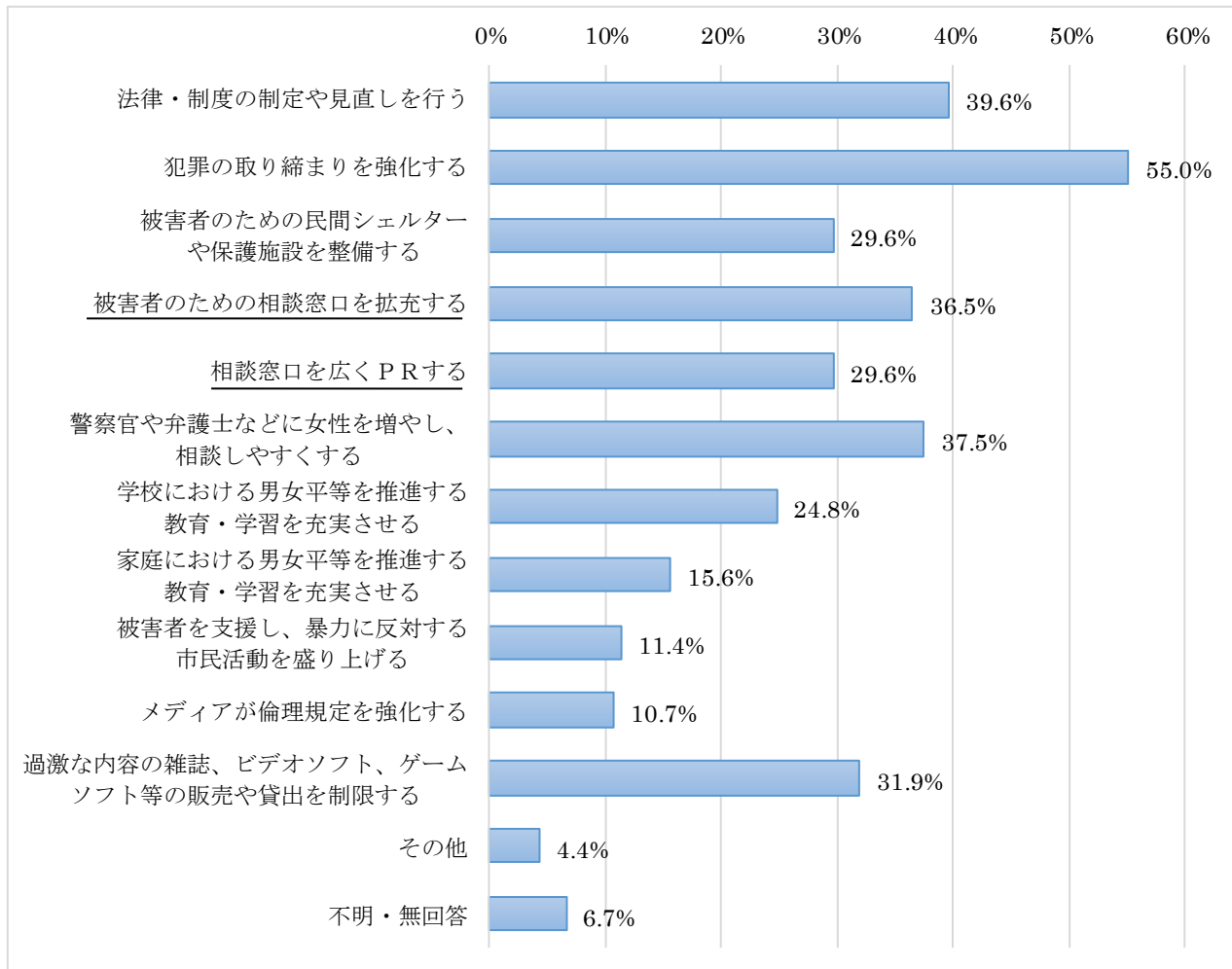
（○は3つまで） （項目一部変更）

【図 41-1】



※今回調査では、前回調査の選択肢の一部を統合した。

【図 41-2】 前回調査



◆最も多いのが「犯罪の取り締まりを強化する」で 44.5%（前回 55.0%）、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」が 39.2%（前回 39.6%）と続いている。

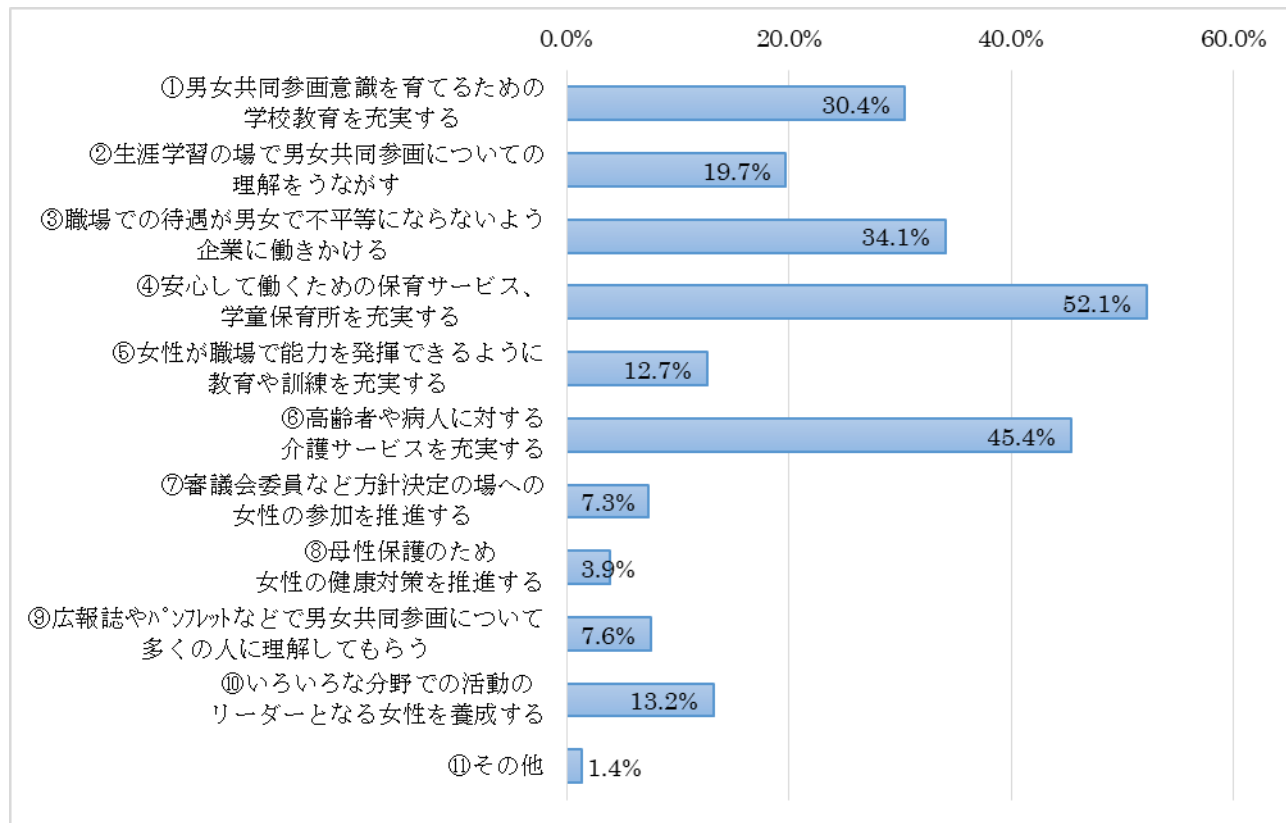
9. 男女共同参画社会について

(1) 男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき分野

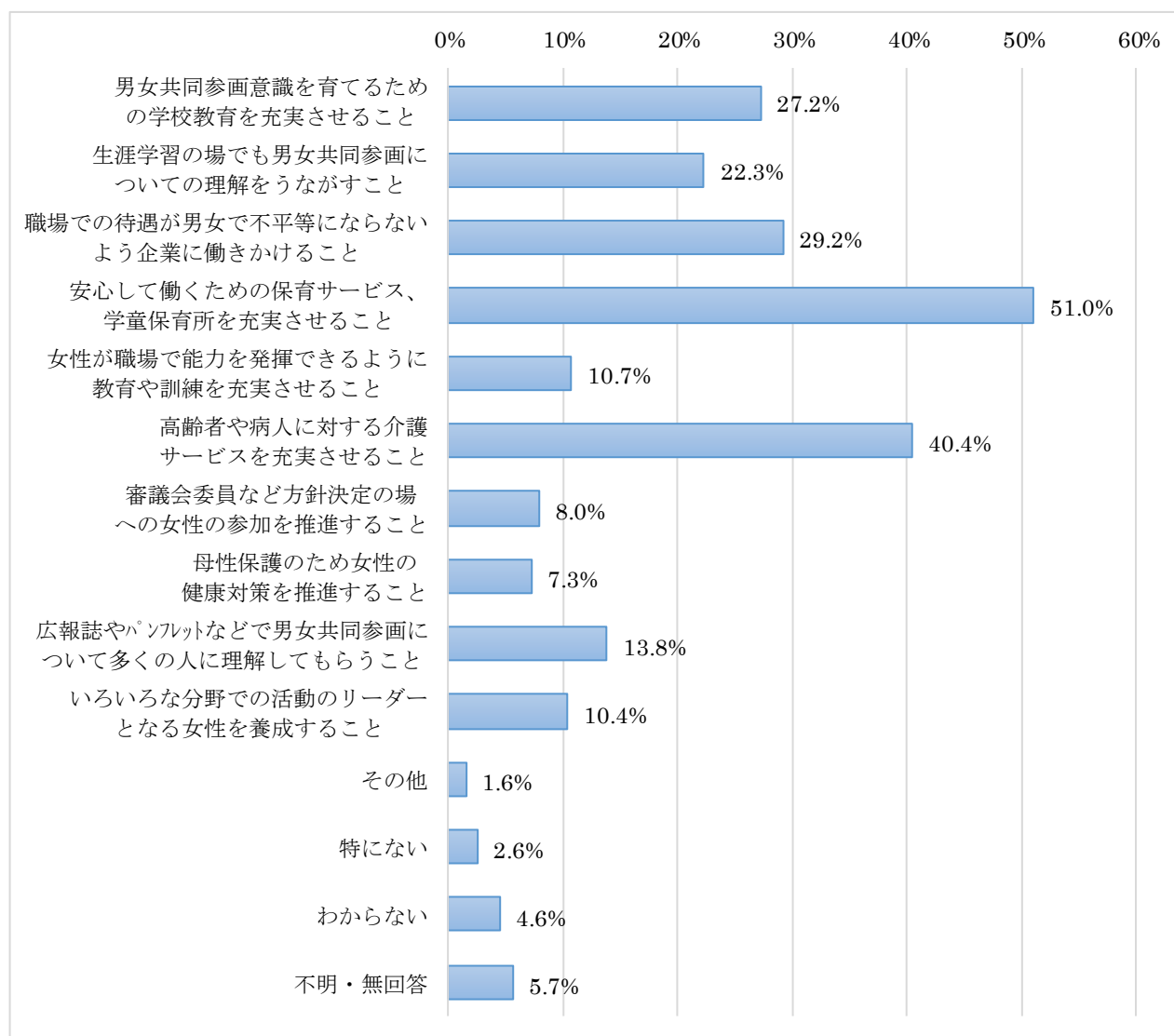
問 42 男女共同参画社会を実現し、より豊かな野洲市をつくっていくために、今後、どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。

(〇は3つまで)

【図 42-1】



【図 42-2】 前回調査

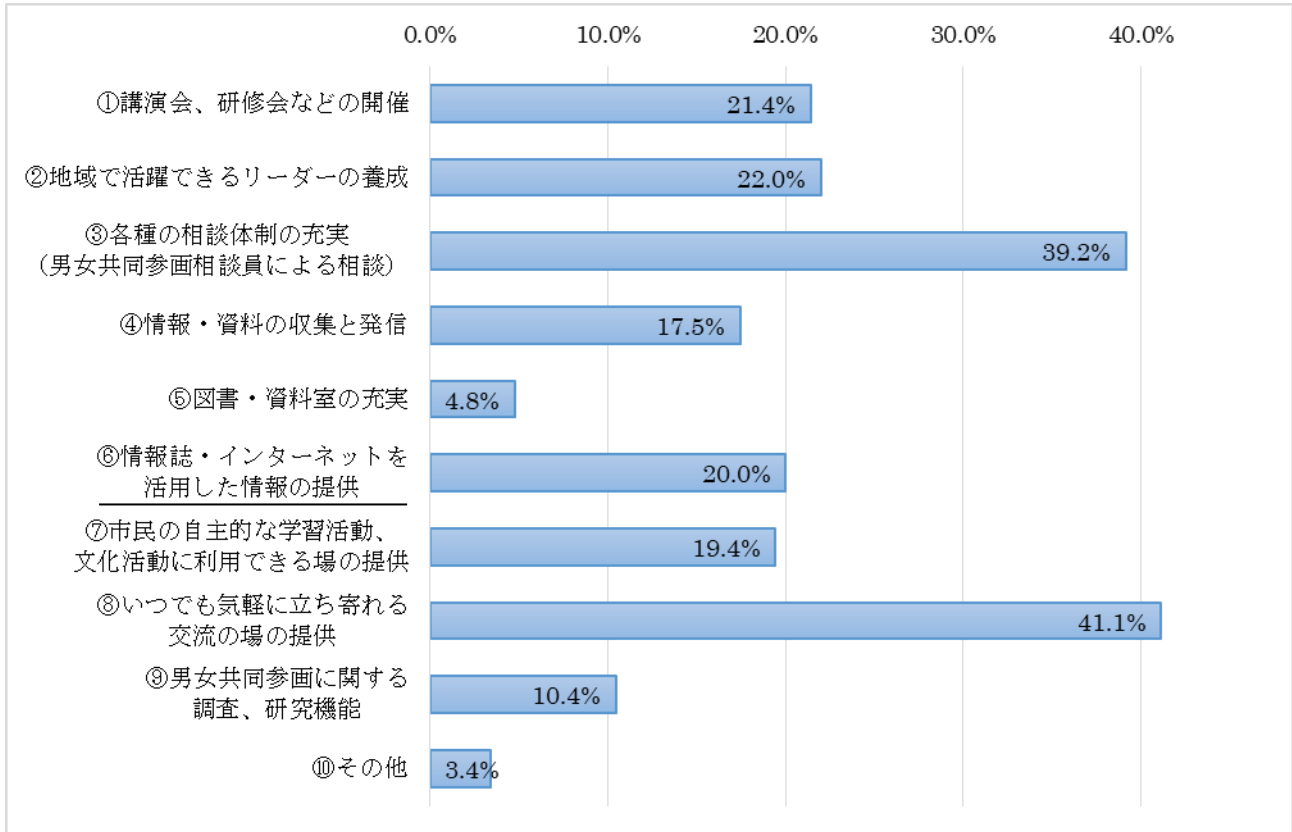


◆最も多いのが「安心して働くための保育サービス、学童保育所を充実する」で 52.1% (前回 51.0%)、次いで「高齢者や病人に対する介護サービスを充実する」が 45.4% (前回 40.4%) と続いている。

(2) 男女共同参画の拠点施設に期待する役割

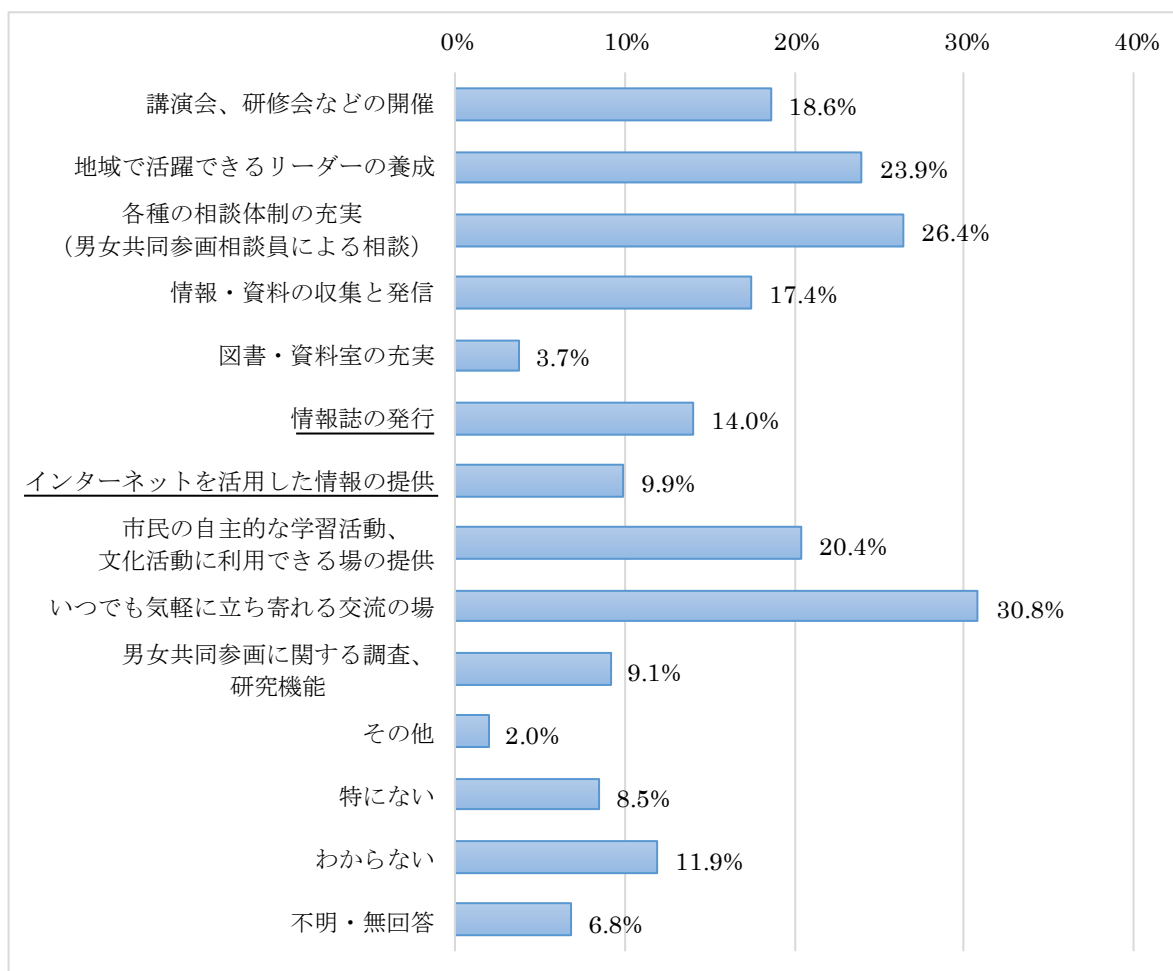
問 43 あなたは今後、男女共同参画の拠点施設として、市人権センターにどのようなことを期待しますか。(〇は3つまで) (項目一部変更)

【図 43-1】



※今回調査では、前回調査の選択肢の一部を統合した。

【図 43-2】 前回調査



- ◆「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場の提供」が 41.1%（前回 30.8%）で最も多く、次いで「各種相談体制の充実（男女共同参画相談員による相談）」が 39.2%（前回 26.4%）となっている。